

第 I 編 本 編

目 次

第Ⅰ編 本編	1
第1章 調査の目的	1
第2章 検討体制	3
第3章 自然・社会状況	4
1 自然状況	4
(1) 地形・地質	4
(2) 植生	6
(3) 気象	7
(4) 広島県周辺の地震活動	7
(5) 過去の主な被害地震	8
(6) 地震発生メカニズムと地震タイプ	11
2 社会状況	15
(1) 人口	15
(2) 市町と生活圏	17
(3) 土地利用	18
(4) 建物	18
(5) 産業	20
(6) 交通	21
(7) ライフライン	23
3 防災状況	25
(1) 防災拠点	25
(2) 医療機関	25
(3) 災害対応力	26
第4章 想定地震・津波の選定条件等	27
1 想定地震・津波の選定	27
(1) 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震・津波	27
(2) どこでも起こりうる直下の地震	27
(3) その他の断層による地震	27
2 想定地震の諸元	33
(1) 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震	33
(2) どこでも起こりうる直下の地震	39
第5章 被害想定の実施概要	41

1 被害想定の実施方針.....	41
(1) 地震動予測及び被害想定ケース.....	41
(2) 津波浸水想定.....	41
2 想定シーン.....	44
(1) 基本シーンの設定.....	44
(2) 特異シーンの検討.....	44
3 被害想定項目及び被害想定実施シーン.....	46
(1) 被害想定項目と想定単位.....	46
(2) 被害想定実施シーン.....	49
4 被害想定手法及び前提条件.....	50
(1) 被害想定手法及び前提条件の検討.....	50
(2) 自然状況や社会状況データの収集・整理.....	51
(3) 被害量の算定.....	51
5 被害想定の流れ.....	53
第6章 被害想定結果の概要.....	54
1 概要.....	55
2 地震動等の予測.....	59
(1) 地震動.....	59
(2) 液状化.....	63
(3) 土砂災害.....	69
(4) 津波.....	77
3 被害の想定.....	84
(1) 建物被害.....	84
(2) 人的被害.....	92
(3) ライフライン被害.....	110
(4) 交通施設被害.....	120
(5) 生活への影響.....	126
(6) 災害廃棄物等.....	141
(7) その他の被害.....	142
(8) 経済被害.....	167
第7章 防災・減災効果の評価.....	171
1 人的・物的被害の減災効果.....	171
(1) 建物の耐震化率の向上.....	171
(2) 津波からの早期避難率の向上（冬・深夜 11m/s）.....	175
(3) 家具等の転倒・落下防止対策実施率の向上（冬・深夜 11m/s）.....	176
2 経済被害の減災効果.....	177

第8章 留意事項	178
1 地震動.....	178
2 液状化危険度.....	178
3 土砂災害.....	178
4 津波浸水区域.....	178
5 地震動による破堤に伴う浸水被害.....	179
6 内陸の活断層による地震における断層直上への影響.....	179
7 被害想定結果.....	179

第I編 本編

第1章 調査の目的

本県では、平成8年度に、阪神・淡路大震災を契機として、本県に起こる可能性のある地震について、学術的知見等を基に地震発生時の人的・物的被害を想定した「広島県地震被害想定調査（平成8年度）」を実施した。

その後、国において「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法」が制定されるとともに、同地震に関する新たな学術的知見等を踏まえた被害想定が公表され、中央防災会議による「地震防災戦略」が策定されるなど、国の地震防災対策の進展を受け、本県における被害想定に基づく達成時期を定めた「減災目標」を策定するため、新たに経済被害等の項目を追加した「広島県地震被害想定調査（平成19年3月）」を実施した。

この調査結果を基に、地震被害を効果的かつ効率的に軽減するための具体的な被害軽減量を数値目標として定めた「広島県地震防災戦略（平成20年3月）」を策定し、国や市町、防災関係機関と連携して、地震防災対策を進めてきた。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）では、これまでの想定をはるかに超えた巨大な地震・津波が発生し、一度の災害で戦後最大の人命が失われるなど、甚大な被害をもたらした。

この未曾有の被害を踏まえて、中央防災会議において東日本大震災の地震・津波を調査分析し、今後の地震・津波対策を検討する「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」が設置され、「今後、地震・津波の想定を行うにあたっては、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの巨大な地震・津波を検討していくべきである。」と報告された。

また、内閣府に設置された「南海トラフの巨大地震モデル検討会」では、想定すべき最大クラスの対象地震の設定方針が検討されるとともに、中央防災会議防災対策推進検討会議の下に設置された「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」では、南海トラフ巨大地震が発生した場合の被害想定の手法等について検討され、方針及び手法が確立した。

これらの状況を踏まえ、広島県において想定しうる最大クラスの地震・津波が発生した場合の被害をあらかじめ想定し、地震防災・減災対策の基礎資料として活用することを目的として「広島県地震被害想定調査（平成25年10月）」（以下、『前回調査』という。）を実施した。

本報告書は、令和6年能登半島地震等の近年発生した地震の被害の状況や国が実施した南海トラフ巨大地震の被害想定（令和7年3月31日公表）等、これら最新の科学的知見や本県の社会状況の変化を反映することで前回調査の内容を更新し、より精度の高い地

震防災・減災対策の基礎資料とすることを目的とする。

なお、本調査結果は、今後の研究の進展や社会状況の変化等を踏まえて、適宜見直しを実施する必要がある。

第2章 検討体制

広島県地震被害想定調査を行う上で、東日本大震災や令和6年能登半島地震を踏まえた最新の科学的知見と広島県の地域特性を踏まえた専門的な見地から指導・助言を得るため、学識経験者及び行政関係者からなる「広島県地震被害想定調査検討委員会」を設置した。

調査の進捗に合わせて随時委員会に諮り、それぞれの専門的見地から指導、助言を受けながら検討を進めた。

表 I.2-1 広島県地震被害想定調査検討委員会

(順不同、敬称略)

委員長	畠 俊郎	広島大学大学院教授
委員	内田 龍彦	広島大学大学院教授
委員	加藤 誠章	福山市立大学教授
委員	神田 佑亮	呉工業高等専門学校教授
委員	呉 修一	富山県立大学教授
委員	後藤 秀昭	広島大学大学院教授
委員	三浦 弘之	広島大学大学院教授
委員	森 拓郎	広島大学大学院教授
委員	塩谷 則夫	広島市危機管理担当局長
委員	尾崎 哲也	広島県危機管理監（～令和7年3月）
	山本 耕史	広島県危機管理監（令和7年4月～）

第3章 自然・社会状況

1 自然状況

(1) 地形・地質

日本列島の帯状構造や中国地方の骨格は、古生代二畳紀後半～中生代三畳紀に造られたものと言われている。中生代白亜紀に大規模な火成活動があり、花崗岩、流紋岩等の貫入・噴出があった。その後は、長期間の陸上侵食が続き、平坦化が進んだ。新生代第三紀中頃の日本海の生成以降は、南からのフィリピン海プレートによる南北圧縮、東からの太平洋プレートによる東西圧縮により、中国地方は波状に変形しながら隆起し、上昇部は中国山地、相対的な沈降部は三次・庄原盆地及び瀬戸内海となった。

新生代第四紀以降は、プレート運動による圧縮が続くとともに、氷河性海水準変動による影響が加わり、現在の本県の地形が形成されていった。

第四紀更新世ヴェルム氷期には、海面は現在よりも最大で約140m低下し、瀬戸内海は、ナウマン象やニホンジカが生息する陸地であった。その後、約1万年前からの第四紀完新世には、気象の温暖化が急激に進み、再び海面が上昇して瀬戸内海が誕生した。本県の主要な都市部が位置する太田川、芦田川等の河口に形成されている瀬戸内海沿岸のデルタ地帯は、この海面上昇の後に形成された沖積平野であって、未固結の砂泥が厚く堆積している。

ア 地形

本県は、中国・四国地方のほぼ中央部に位置し、東西に走る中国山地の南斜面を占める。北部は中国山地の脊梁部を隔てて島根県・鳥取県に、東部は吉備高原に沿って岡山県に、西部は安芸西部山地を境に山口県に隣接し、南部は瀬戸内海に面し、芸予諸島等、大小138（離島指定島数）もの島々を挟んで、四国の愛媛県・香川県と相対している（図I.3.1-1）。

中国地方には、平地であった所の侵食から取り残された地形が、高原や山頂平坦面をなす侵食による小起伏面が広く発達しており、北東－南西方向に延長する中国山地と、これに平行に形成された階段状地形で構成されるという特徴を有する。

本県でも侵食小起伏面が階段状地形を形成しており、標高の高い順に、①道後山・恐羅漢山・冠山などが連なる中国山地の脊梁山地面（高度1,000-1,300m）、②世羅台地を含む小起、緩斜面の吉備高原面（高度400-600m）、③瀬戸内面（高度200m以下）の三段の隆起準平原が見られる。これらの各面の境界付近は、断層の発達と浸食作用などの影響により勾配が急変し、溪谷や滝を含む断層谷の発達が著しい。これらの地形は、瀬戸内海沿岸部に近接するため、平野の発達が弱く、太田川、芦田川、江の川などの河川沿いに分布する谷底平野と、河川の河口に分布する小さな三

角州として見られるのみである。しかし、太田川によって形成された沖積平野である広島平野は 30km² の面積を有しており、全国でも有数のゼロメートル地帯となっている。

また、県南部の瀬戸内海沿岸は、典型的な沈水海岸であるため、海岸線は屈曲に富み、島が多い¹。さらに、瀬戸内海の地形的特徴から、潮汐の干満差が 3～4m と非常に大きい。



図 I . 3 . 1 - 1 広島県周辺の地形²

イ 地質

広島県の地質は大きく古生代～新生代の堆積岩類、花崗岩類を主とする深成岩、中生代～新生代の火山岩類からなっている。古生代の堆積岩類は石灰岩、砂岩、粘板岩、チャートなどからなる（図 I . 3 . 1 - 2）。

深成岩類は県南部から西部一帯にかけて広域に分布し、広島型花崗岩と呼ばれている。

中生代の白亜紀火山岩類は流紋岩質の凝灰岩や安山岩からなる。新生代の火山岩類は玄武岩質で中生代の火山岩類を覆っている。

新生代の地層は新第三紀中新世の地層と第四紀の砂礫層などからなる。

県土の大半は風化・浸食されやすい花崗岩類が広く分布し、それらを覆って火山岩類が分布しているため豪雨や地震による災害が発生しやすく、令和 6 年 4 月現在、土砂災害警戒区域の箇所数は約 4 万 8 千か所、土砂災害特別警戒区域の箇所数は約 4 万 5 千か所であり、全国一である。

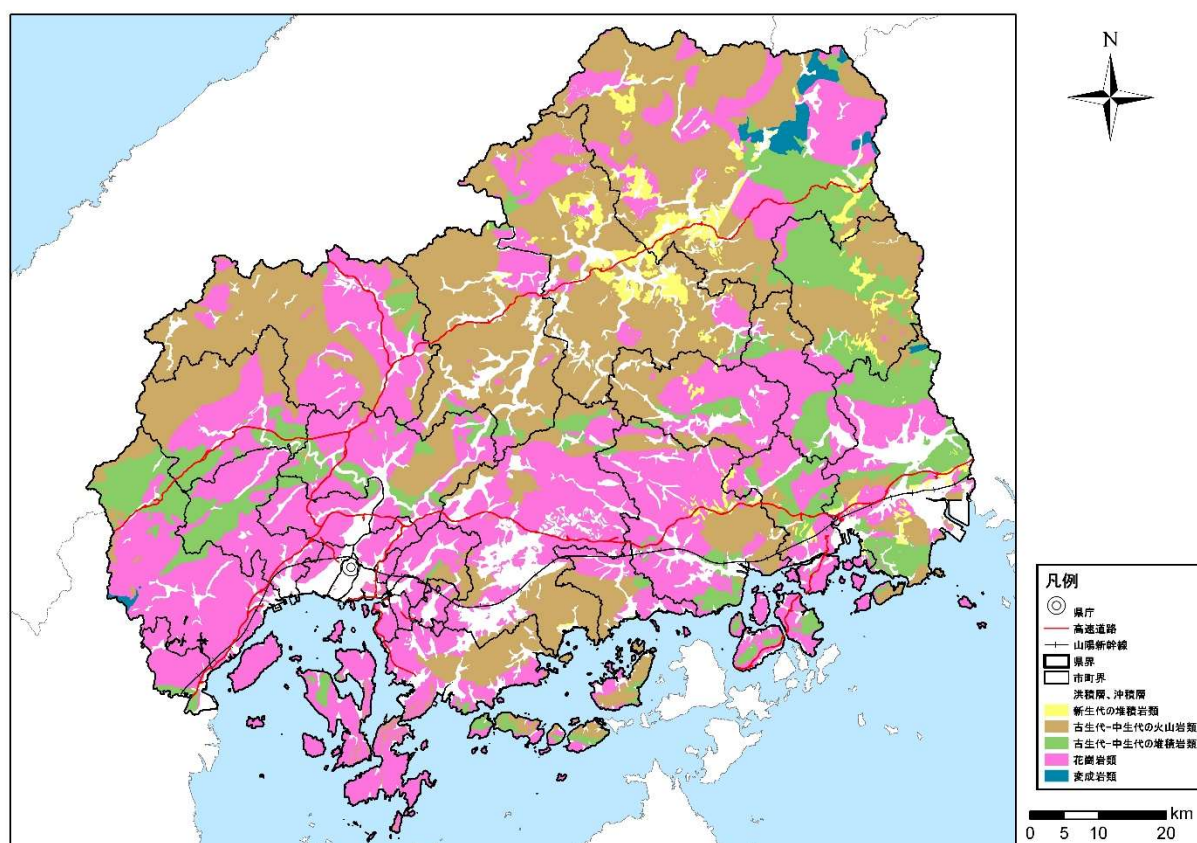


図 I.3.1-2 広島県の地質³

(2) 植生

森林面積は、県土面積 85 万 ha のうち、約 72%に当たる 61 万 ha を占め、全森林面積に対する保安林の割合は約 34%に達する。全森林面積に占める国有林の割合は 8%に過ぎず、大半は民有林となっている。民有林面積の樹種別分布は、天然マツ林が約 31%を占め、県南中部を中心に広く分布している。また、民有林面積の内天然広葉樹林は約 35%を占め、北部山地を中心に分布している。一方、スギ、ヒノキ、マツ等の人工林は民有林面積の内 31%を占め、北西部及び北東部を中心に分布している⁴。

森林火災は、瀬戸内海沿岸部を中心に発生しており、出火件数は長期的には減少傾向にあるものの、近年は横ばいで推移している。

(3) 気象

北の中国山地、南の四国山地に挟まれた地形的な理由により、夏・冬の季節風の影響を受けにくく、梅雨・台風時期を除き、一般的に夏・冬ともに降水量が少なく、晴天が多いという瀬戸内海気候地帯である。従って県全体として気候は概ね温暖だが、年平均気温は瀬戸内海沿岸部では約15～16℃前後、年間平均降水量は沿岸部で1,000～1,100mmであるのに対し、県北部の中国山地付近では年平均気温は約5℃低い11℃前後、年間降水量は約2倍の2,000～2,400mmに及ぶ地点もあり、地域的に異なった気候となっている⁵。

また、季節別の特徴としては、春は一年中で最も気温の寒暖の差が大きく、天気変化が激しい。特に、3月から4月にかけては、空気が非常に乾燥する時期となり、山火事など火災の発生することが多くなる。夏は、梅雨前半には大きな天気の崩れはないものの、梅雨後半には、梅雨前線が西日本付近や日本海南部に停滞することが多く、この時期に記録的な豪雨となり、洪水や土砂災害をもたらすことが多い。

また、盛夏期の沿岸部においては、夕方から夜にかけて一時的な無風状態となる「瀬戸の夕なぎ」という特異な現象も発生する。秋は9月中旬から10月にかけて大型の台風が西日本に接近し、その通り道となった場合は、前線の活動が活発になり、大規模な風水害をもたらすことがある。冬は県北部ではしぐれがちで、中国山地沿いや県西部の山間部では積雪が1m以上になることが多いが、瀬戸内海沿岸部では雪が少なく晴天となることが多い。また、冬の晴天の日には放射冷却現象による朝の気温低下により冷え込みが厳しい日がある⁶。

(4) 広島県周辺の地震活動

マグニチュード(M)が、 $1 \leq M \leq 3$ の地震を微小地震といい、この微小地震が発生する領域は、その領域を震源とした地震が発生する確率が高いことを示す。中国四国地方における微小地震の震源分布の特徴は、震源深さが30kmより浅い地震はほとんどが地殻内で発生し陸域に分布している(図I.3.1-3左下)のに対し、30kmより深い地震は上部マントル(プレート内)で発生し海域周辺に分布している(図I.3.1-3右下)ことである。

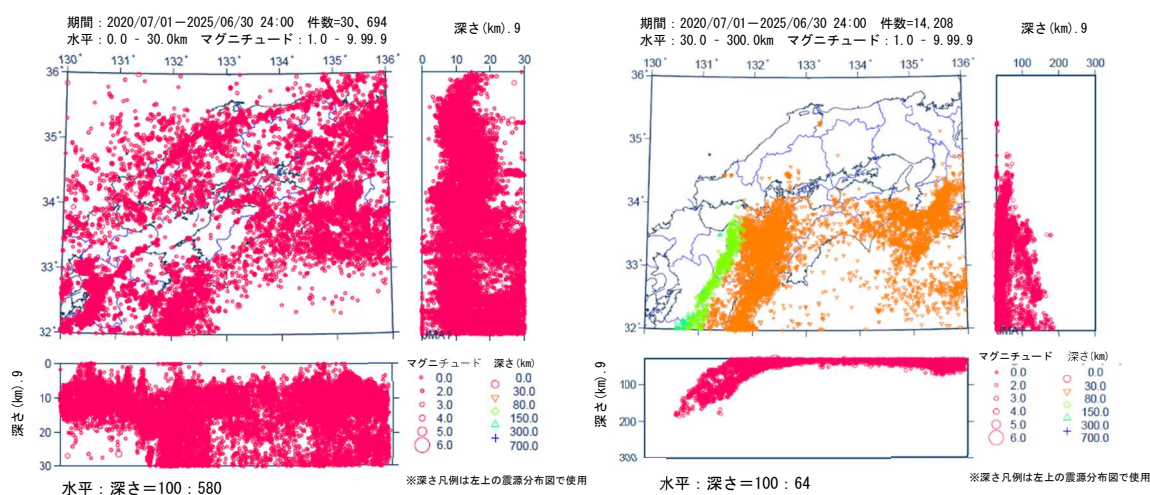
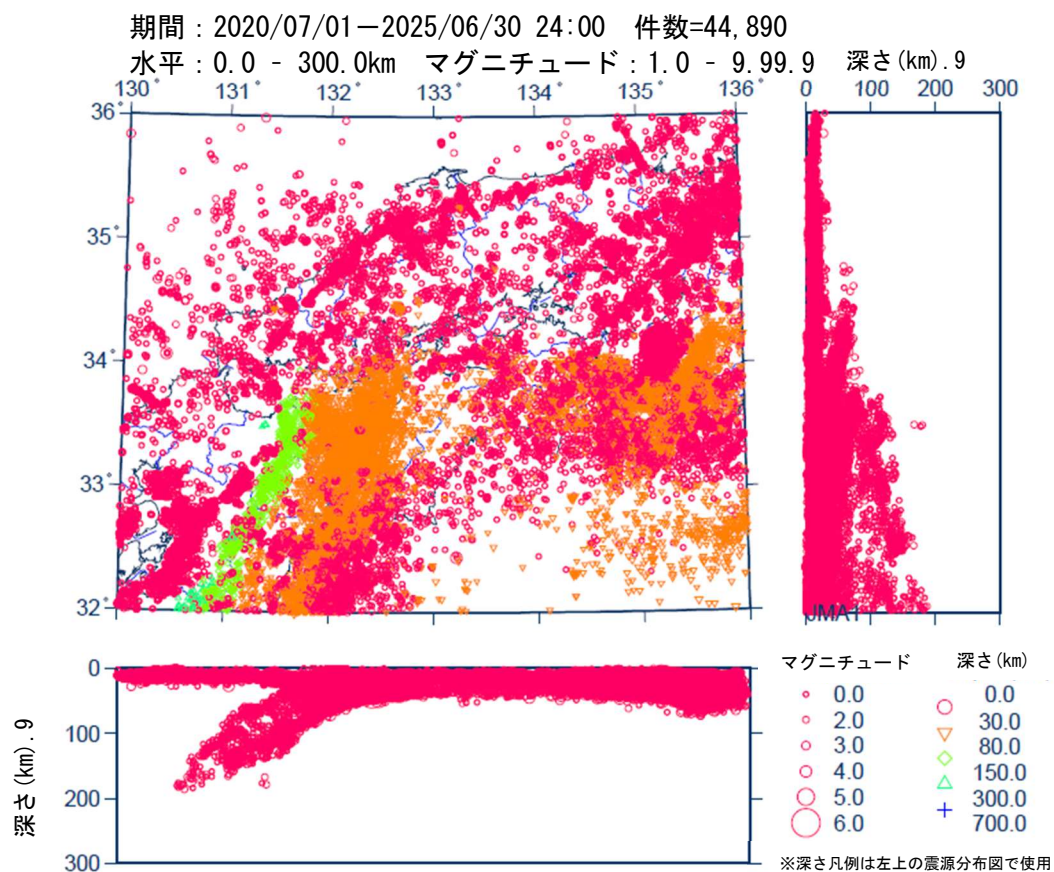


図 I. 3. 1-3 中国四国地方における微小地震の震源分布

※東京大学地震研究所（2025）⁷を用いて生成された画像を利用。プロットデータは気象庁一元化地震カタログ（暫定値）の2020年7月1日～2025年6月30日のデータ（気象庁提供）

（5）過去の主な被害地震

広島県において、広域的に死者、負傷者あるいは建物全壊の被害を生じた記録がある主な既往地震は表 I. 3. 1-1 のとおりで、いずれの被害地震も微小地震が観測された領域を震源としている。

表 I.3.1-1 広島県に被害をもたらした過去の主な地震 (1/3)

発生年	地震名	マグニ チュード	被害の概要
慶安 2 年 (1649 年) 3 月 17 日	芸予地震	7.4± 0.25	広島にて侍屋敷、町屋少々潰・破損多し。
貞享 2 年 (1686 年) 1 月 4 日	芸予地震	7.0～ 7.4	広島城廻その他少しずつ破損したが大破ではなく、広島県中西部 199 ヶ村で被害。合計で家損 147 軒、蔵損 39 軒、社 3、寺 5、土手 4,734 間、石垣損 857.5 間、田畑損 1.19 町、死 2、死牛馬 3。宮嶋で大宮・五重塔などの屋根、瓦少損。石垣・井垣崩れあり。備後三原城の石垣はらみだす。錦帯橋橋台落ち、岩国で塀われ瓦落ちる。
宝永 4 年 (1707 年) 10 月 28 日	宝永地震	8.4	全国広範囲で大被害。備後三原城で石垣はらみ、潰家多く、広島で城堀の水が路上に溢れ石垣の崩壊あり（町・郡内で全潰家屋 78、半潰 68）。
嘉永 7 年 安政元年※ (1854 年) 12 月 24 日	安政南海 地震	8.4	前日の安政東海地震とともに、全国広範囲で大被害。広島では屋根の揺れ幅が 1.6～1.7 尺（0.5m）であった。
嘉永 7 年 安政元年※ (1854 年) 12 月 26 日	伊予西部	7.3～ 7.5	安政東海地震、安政南海地震と時期的に接近し、記録からは被害が分離できない。広島では、安政南海地震と同じぐらいの揺れに感じられたという。
安政 4 年 (1857 年) 10 月 12 日	芸予地震	7.25± 0.5	三原で藩主の石塔など破損。広島で家屋の破損あり。呉で石垣崩れ、門倒れなどあり。郷原（呉市）で土堤割れなどあり。
明治 5 年 (1872 年) 3 月 14 日	浜田地震	7.1± 0.2	中野村（北広島町）で亀裂（延長 500m）を生じ、家土蔵半潰 15、橋梁落下 2 を生じた。広島県内各地で小被害、家屋倒壊もあった。
明治 38 年 (1905 年) 6 月 2 日	芸予地震	6.7	沿岸部、特に広島、呉、江田島、宇品で揺れが強かった。広島監獄は埋立地にあり、第 14 工場が倒潰し死者 2、負傷者 22 を出した。その他瓦、壁土、庇の墜落があり、広島駐車場の入口の庇と廊下が倒れ負傷者 11、宇品は明治 17 年以降の埋立地で被害大きく、江田島の兵学校内にも亀裂や建物の被害があった。

※寛永 7 年 11 月 27 日 安政に改元

表 I.3.1-1 広島県に被害をもたらした過去の主な地震 (2/3)

発生年	地震名	マグニ チュード	被害の概要						
明治 38 年 (1905 年) 6 月 2 日 (続き)	芸予地震 (続き)	6. 7	被害総括						
			郡市	死	傷	全潰	半潰	破損	煙突 損壊
			広島市	4	70	36	20	25	25
			呉市	6	86	5 (51)	25 (57)	(5, 957)	
			安芸郡	1	1	1	1		
			賀茂郡		2	5		14	1
			佐伯郡			2	1		
			安佐郡		1	7		1	
			計	11	160	56	47	40	26
			出典：地震予防調査会報告、1905、No. 53 ()内は、中央気象台の記録						
昭和 21 年 (1946 年) 12 月 21 日	南海地震	8. 0	全国広範囲で大被害。広島県で負傷者 3、住家全壊 19、半壊 42、非住家全壊 30、半壊 32、道路損壊 2						
昭和 24 年 (1949 年) 7 月 12 日	安芸灘	6. 2	呉で死者 2、道路の亀裂多く、水道管の破断、山林の一部崩壊などの被害があった。						
平成 11 年 (1999 年) 7 月 6 日	広島県 南東部	4. 5	負傷者 1 (震度 4) 物的被害なし [広島県調べ]						
平成 12 年 (2000 年) 10 月 6 日	鳥取県 西部地震	7. 3	震源近傍では震度 6 弱～6 強となり、鳥取県を中心に負傷者 182 名、住家は全壊 435 棟、半壊 3,101 棟、一部損壊 18,544 棟等の被害。また、延べ 17,402 戸が停電し、各地で断水などの被害 [内閣府 (2003) ⁸⁾]。 広島県では強いところで震度 4 となり県内で住家 6 棟が一部破損した。[広島県調べ]						
平成 13 年 (2001 年) 3 月 24 日	芸予地震	6. 7	広島県で強いところで震度 6 弱となり、死者 1 名、重軽傷者 193 名、住家の被害は、全壊 65 棟、半壊 688 棟、一部損壊 36,545 棟の被害が発生した。[広島県調べ]						

表 I.3.1-1 広島県に被害をもたらした過去の主な地震 (3/3)

発生年	地震名	マグニ チュード	被害の概要
平成 18 年 (2006 年) 6 月 12 日	伊予灘	4.7	負傷者 4 (重傷 1、軽傷 3,)、住家一部損壊 2 棟〔広島県調べ〕
平成 23 年 (2011 年) 11 月 21 日	広島県 北部	5.4	負傷者 2 (震度 5 弱)〔広島県調べ〕
平成 26 年 (2014 年) 3 月 14 日	伊予灘	6.2	負傷者 1 (震度 5 弱)〔広島県調べ〕
令和 6 年 (2024 年) 4 月 17 日	広島県 南部	6.6	負傷者 2、住家一部損壊 1 棟〔広島県調べ〕

出典：広島県調べ、内閣府（2003）以外は、宇佐美龍夫（1987）⁹から抜粋

（6）地震発生メカニズムと地震タイプ

過去の主たる被害地震は、発生メカニズムの違いによって以下の 3 タイプに分類できる。

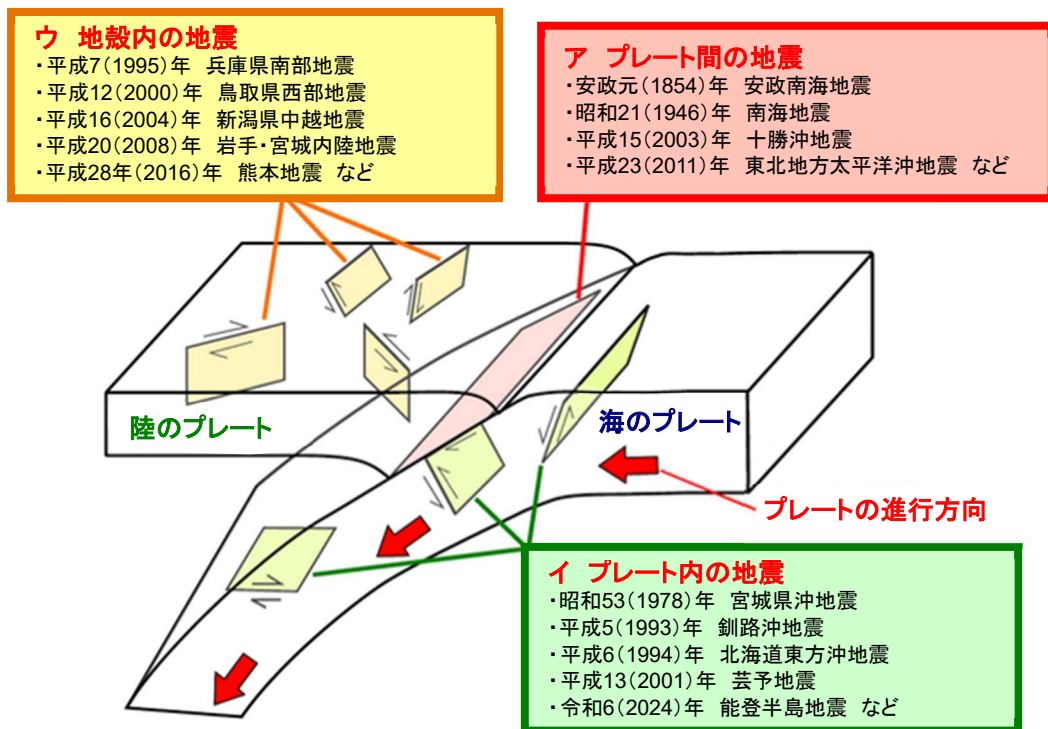


図 I.3.1-4 地震発生メカニズムと地震タイプ¹⁰

ア プレート間の地震

プレート間の地震は、プレート境界において、海のプレートの沈み込みに伴い陸のプレートが地下へ引きずり込まれ、陸のプレートが引きずりに耐えられなくなり、跳ね上がるように起こる地震で「海溝型地震」とも呼ばれる。

本県に最も大きな影響を及ぼすプレート間地震としては、フィリピン海プレートの沈み込みにより形成された南海トラフの地震がある。過去の南海トラフの地震では、発生から発生までの活動間隔が数十年～数百年と比較的短く、規模もマグニチュード8を超える大きな地震となることが多い。また、発生源が海底下の浅いところにあるため津波を伴う場合が多く、地震、津波の両面において本県のみならず太平洋沿岸から内陸部にかけて広範囲に大きな被害を及ぼしている。過去、広島県に影響を及ぼした南海トラフの地震として、昭和21年（1946年）南海地震や嘉永7年（1854年）安政南海地震等が挙げられる。

なお、平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）もこのタイプの地震である。

イ プレート内の地震

海洋プレートの内部で発生する地震で、「スラブ内地震」とも呼ばれ、海側プレートが陸側のプレートの下に沈み込んでいる部分（スラブ）のうち、深部が破壊されることにより発生する。過去、広島県に影響を及ぼしたこのタイプの地震として、平成13年（2001年）芸予地震や明治38年（1905年）芸予地震等が挙げられる。

なお、令和6年（2024年）能登半島地震もこのタイプの地震である。

このタイプの地震による地震動は、比較的短周期成分を多く含む傾向がある。

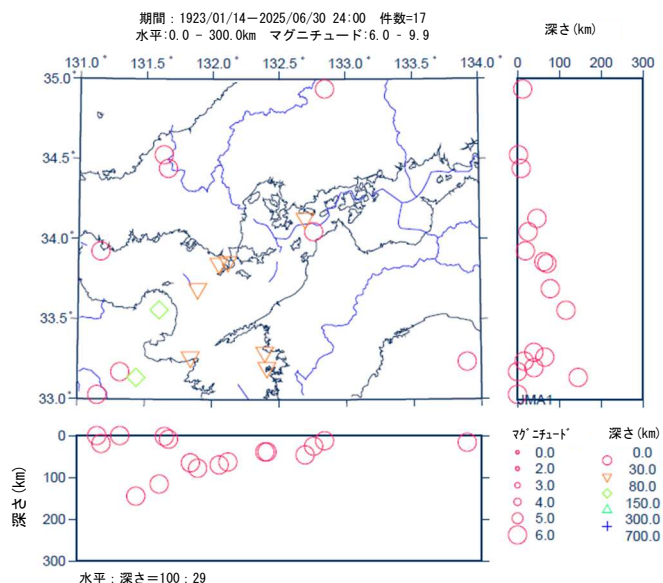


図 I.3.1-5 安芸灘・伊予灘の地震の震央分布(マグニチュード>6)⁷

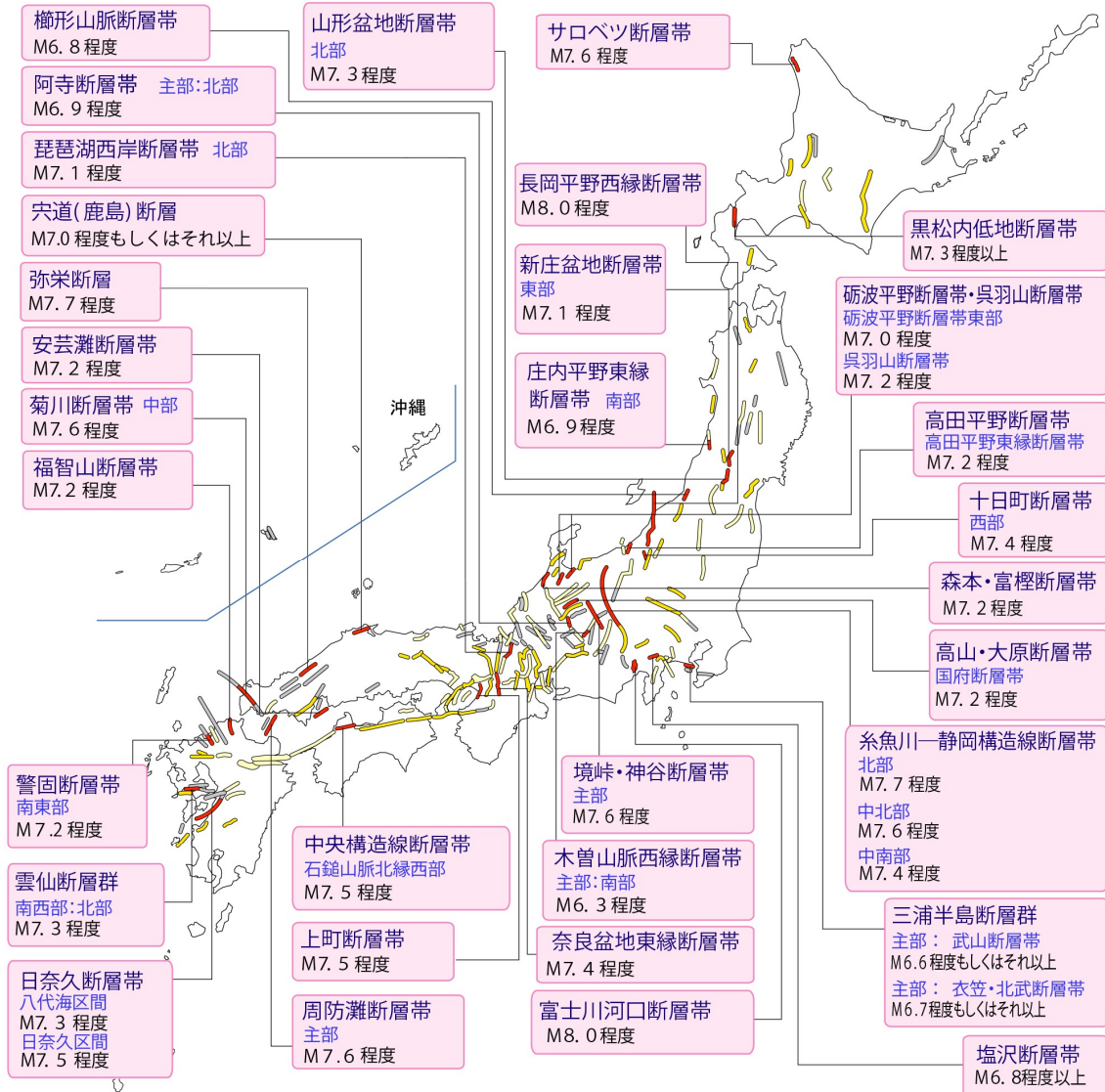
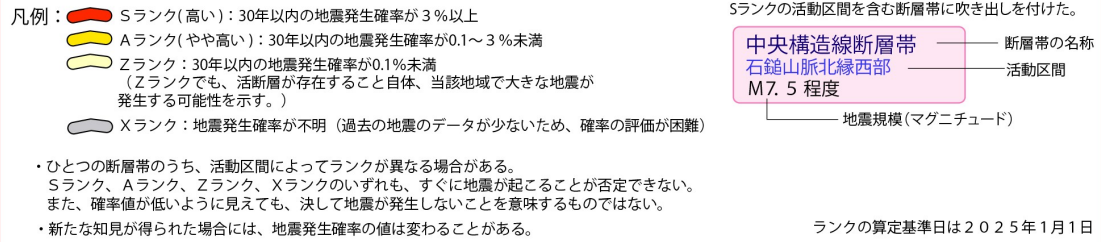
ウ 地殻内の地震

地殻内の地震は、内陸部の比較的浅い地殻に生じる、いわゆる直下型の地震で、「活断層*型地震」とも呼ばれる。プレート運動によって蓄積されたひずみエネルギーが陸域浅部で断層運動によって解放される際に発生する。地殻内の地震は、プレート間地震に比べて規模は小さく、通常マグニチュード7クラス止まりである。また、ひずみの蓄積するスピードもプレート間地震に比べてはるかに遅いため、断層における地震の繰返し周期は数千年から数万年と言われている。

過去、広島県に影響を及ぼしたこのタイプの地震として、平成12年（2000年）鳥取県西部地震や平成7年（1995年）兵庫県南部地震等が挙げられる。

地震を起こす活断層の全てが明らかになってはいないが、広島県に影響を及ぼす活断層には、国（文部科学省）の地震調査研究推進本部（以下、地震調査研究推進本部と記す。）が大きな被害をもたらす可能性が高い活断層として、地震発生確率値を含む長期評価を行っている「主要活断層帯」に含まれる岩国―五日市断層帯、中央構造線断層帯、安芸灘断層帯、長者ヶ原―芳井断層、筒賀断層、広島湾―岩国沖断層帯等があり、ひとたび地震が発生すれば、局地的な激震が発生する可能性がある。

※ 活断層：活断層とは、最近の地質時代に繰返し活動し、将来も活動することが推定される断層をいう。本調査では、最近の地質時代を第四紀（約200万年以前）から現在までとしている。

図 I.3.1-6 主要活断層帯の概略位置図¹¹

2 社会状況

(1) 人口

本県の推計人口は、広島県人口移動統計調査によると、令和 7 年 6 月 1 日現在 2,744,334 人¹²であるが、そのほとんどが沿岸部の市町に集中している。

表 I. 3. 2-1 市町別人口分布状況¹²

市 区 町	各年6月1日現在 (単位:人、%)						
	令和5年 (A)	令和6年 (B)	令和7年 (C)	人口増減数		人口増減率	
				R7 (C-B=D)	R6 (B-A=E)	R7 (D/B)	R6 (E/A)
広 島 県	2,744,334	2,722,362	2,699,796	△ 22,566	△ 21,972	△ 0.83	△ 0.80
市 部	2,576,530	2,555,894	2,535,335	△ 20,559	△ 20,636	△ 0.80	△ 0.80
郡 部	167,804	166,468	164,461	△ 2,007	△ 1,336	△ 1.21	△ 0.80
広 島 市	1,187,249	1,181,049	1,175,634	△ 5,415	△ 6,200	△ 0.46	△ 0.52
中 区	143,243	143,773	143,757	△ 16	530	△ 0.01	0.37
東 区	117,300	116,500	115,865	△ 635	△ 800	△ 0.55	△ 0.68
南 区	144,307	143,693	143,267	△ 426	△ 614	△ 0.30	△ 0.43
西 区	187,236	186,072	185,661	△ 411	△ 1,164	△ 0.22	△ 0.62
安 佐 南 区	245,860	245,001	244,217	△ 784	△ 859	△ 0.32	△ 0.35
安 佐 北 区	134,953	133,597	132,038	△ 1,559	△ 1,356	△ 1.17	△ 1.00
安 芸 区	74,762	73,668	72,695	△ 973	△ 1,094	△ 1.32	△ 1.46
佐 伯 区	139,588	138,745	138,134	△ 611	△ 843	△ 0.44	△ 0.60
呉 市	203,517	199,084	194,827	△ 4,257	△ 4,433	△ 2.14	△ 2.18
竹 原 市	22,632	22,224	21,599	△ 625	△ 408	△ 2.81	△ 1.80
三 原 市	86,791	85,628	84,487	△ 1,141	△ 1,163	△ 1.33	△ 1.34
尾 道 市	125,601	123,643	121,759	△ 1,884	△ 1,958	△ 1.52	△ 1.56
福 山 市	452,614	450,209	446,824	△ 3,385	△ 2,405	△ 0.75	△ 0.53
府 中 市	35,583	34,808	34,089	△ 719	△ 775	△ 2.07	△ 2.18
三 次 市	48,424	47,625	46,803	△ 822	△ 799	△ 1.73	△ 1.65
庄 原 市	31,672	30,941	30,064	△ 877	△ 731	△ 2.83	△ 2.31
大 竹 市	25,609	25,170	24,806	△ 364	△ 439	△ 1.45	△ 1.71
東 広 島 市	197,894	197,932	198,597	665	38	0.34	0.02
廿 日 市	113,229	112,741	112,078	△ 663	△ 488	△ 0.59	△ 0.43
安 芸 高 田 市	25,160	24,603	23,985	△ 618	△ 557	△ 2.51	△ 2.21
江 田 島 市	20,555	20,237	19,783	△ 454	△ 318	△ 2.24	△ 1.55
安 芸 郡	116,941	116,640	115,847	△ 793	△ 301	△ 0.68	△ 0.26
府 中 町	51,852	51,515	51,072	△ 443	△ 337	△ 0.86	△ 0.65
海 田 町	30,063	30,252	30,153	△ 99	189	△ 0.33	0.63
熊 野 町	22,546	22,562	22,514	△ 48	16	△ 0.21	0.07
坂 町	12,480	12,311	12,108	△ 203	△ 169	△ 1.65	△ 1.35
山 県 郡	22,119	21,695	21,242	△ 453	△ 424	△ 2.09	△ 1.92
安 芸 太 田 町	5,307	5,117	4,954	△ 163	△ 190	△ 3.19	△ 3.58
北 広 島 町	16,812	16,578	16,288	△ 290	△ 234	△ 1.75	△ 1.39
豊 田 郡							
大 崎 上 島 町	6,778	6,671	6,530	△ 141	△ 107	△ 2.11	△ 1.58
世 羅 郡							
世 羅 町	14,331	14,040	13,660	△ 380	△ 291	△ 2.71	△ 2.03
神 石 郡							
神 石 高 原 町	7,635	7,422	7,182	△ 240	△ 213	△ 3.23	△ 2.79

国勢調査によれば、夜間人口と昼間人口の差が 10%以上ある市町は熊野町、坂町、北広島町の 3 市町のみである¹³。

また、老年人口比率は全国平均を上回り、生産年齢人口比率は全国平均を下回って推移している。また、図 I.3.2-1 の通り、推計人口はピークである平成 10 年以降、減少が続いている。

表 I.3.2-2 広島県の人口¹³

都道府県・市区町村名	総人口 (人)	生産年齢人口 (15～64歳) (人)	老年人口 (65歳以上) (人)	生産年齢 人口割合 (%)	老年人口 割合 (%)	昼間人口 (人)	昼夜間 人口比率 (%)
全国	126,146,099	72,922,764	35,335,805	59.2	28.7	126,146,099	100.0
広島県	2,799,702	1,580,054	811,931	57.6	29.6	2,804,391	100.2
広島市	1,200,754	706,497	300,882	60.6	25.8	1,214,150	101.1
呉市	214,592	114,245	75,706	53.6	35.5	212,083	98.8
竹原市	23,993	11,643	10,082	48.8	42.3	23,534	98.1
三原市	90,573	47,477	32,182	52.7	35.7	90,528	100.0
尾道市	131,170	68,334	47,641	52.4	36.6	132,442	101.0
福山市	460,930	260,383	132,167	57.5	29.2	459,916	99.8
府中市	37,655	19,284	14,371	51.3	38.2	39,303	104.4
三次市	50,681	25,685	18,437	51.3	36.8	51,303	101.2
庄原市	33,633	15,411	14,579	46.1	43.6	34,077	101.3
大竹市	26,319	13,975	9,406	53.3	35.8	27,650	105.1
東広島市	196,608	118,251	45,736	62.0	24.0	196,038	99.7
廿日市市	114,173	63,443	34,962	56.0	30.8	104,221	91.3
安芸高田市	26,448	12,684	11,112	48.0	42.1	27,628	104.5
江田島市	21,930	10,656	9,572	48.7	43.7	21,133	96.4
府中町	51,155	30,651	12,570	60.4	24.8	52,565	102.8
海田町	29,636	18,016	7,061	61.1	24.0	29,284	98.8
熊野町	22,834	11,778	8,136	51.7	35.7	18,119	79.4
坂町	12,582	7,021	3,716	55.9	29.6	14,332	113.9
安芸太田町	5,740	2,283	2,991	39.8	52.1	5,957	103.8
北広島町	17,763	8,732	6,917	50.0	39.6	19,711	111.0
大崎上島町	7,158	3,228	3,305	45.6	46.6	7,783	108.7
世羅町	15,125	6,893	6,342	46.6	42.9	14,547	96.2
神石高原町	8,250	3,484	4,058	42.2	49.2	8,087	98.0

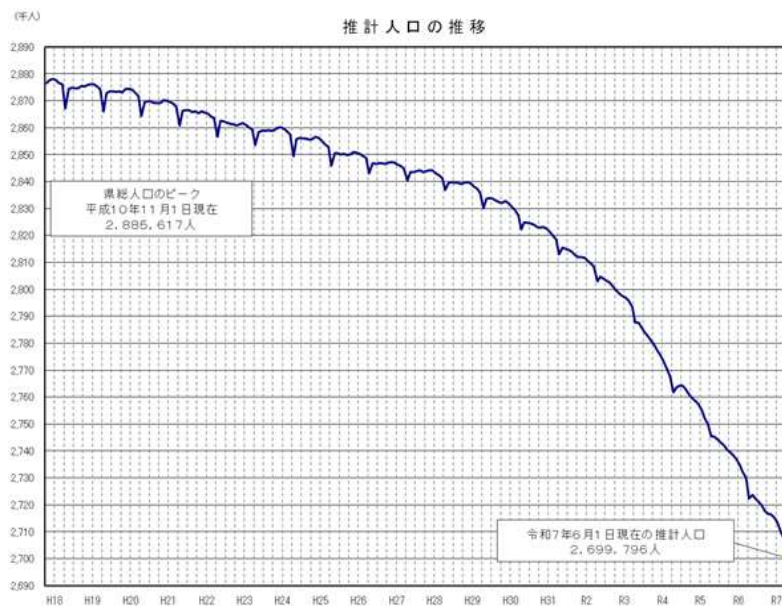


図 I . 3. 2-1 広島県人口推移図¹²

(2) 市町と生活圏

平成の市町村大合併によって、広島県では平成 14 年 4 月時点で 86 あった市町村は平成 18 年 3 月までに 14 市 9 町に再編された。

また、通勤・通学、買い物、入院・通院などの日常活動における生活利便性を維持するための都市的サービスが提供される自立的な生活圏（概ね時間距離で 1 時間前後のまとまりを持つ圏域）は、本県の場合、3 つの生活圏（広島、備後、備北）に分けられる。

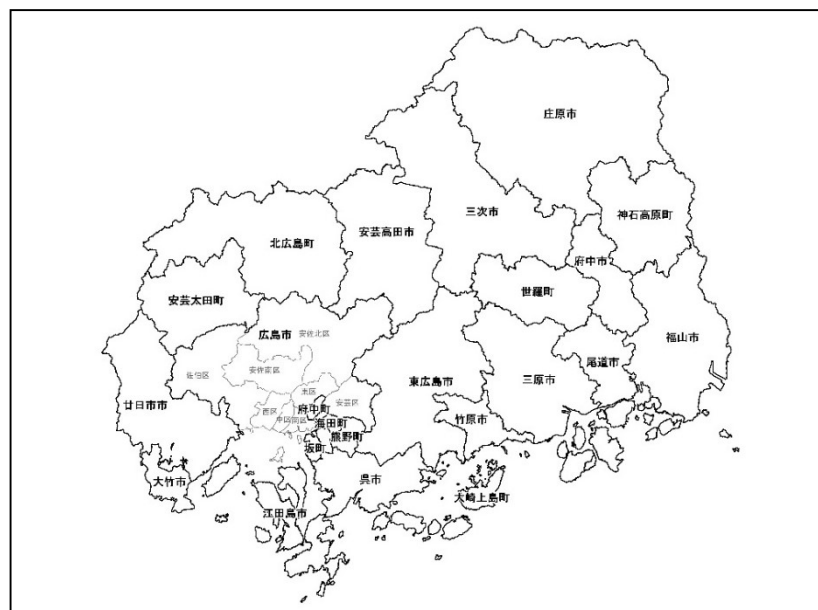


図 I . 3. 2-2 広島県市町位置図

(3) 土地利用

県土面積は約 8,478km²で、全国 10 位である。県土利用については、北部県境に中国山地を配しているため、森林原野の面積が 6,167km²と最も多く県全体の約 73%（全国平均約 67%）を占めている¹⁴。一般住宅地、商業地、工業用地等の宅地の割合は、瀬戸内海沿岸を中心に県全体の 5.6%である。市街地は、主に太田川、芦田川、沼田川等の中・下流域の沖積層地帯を中心に形成されている。

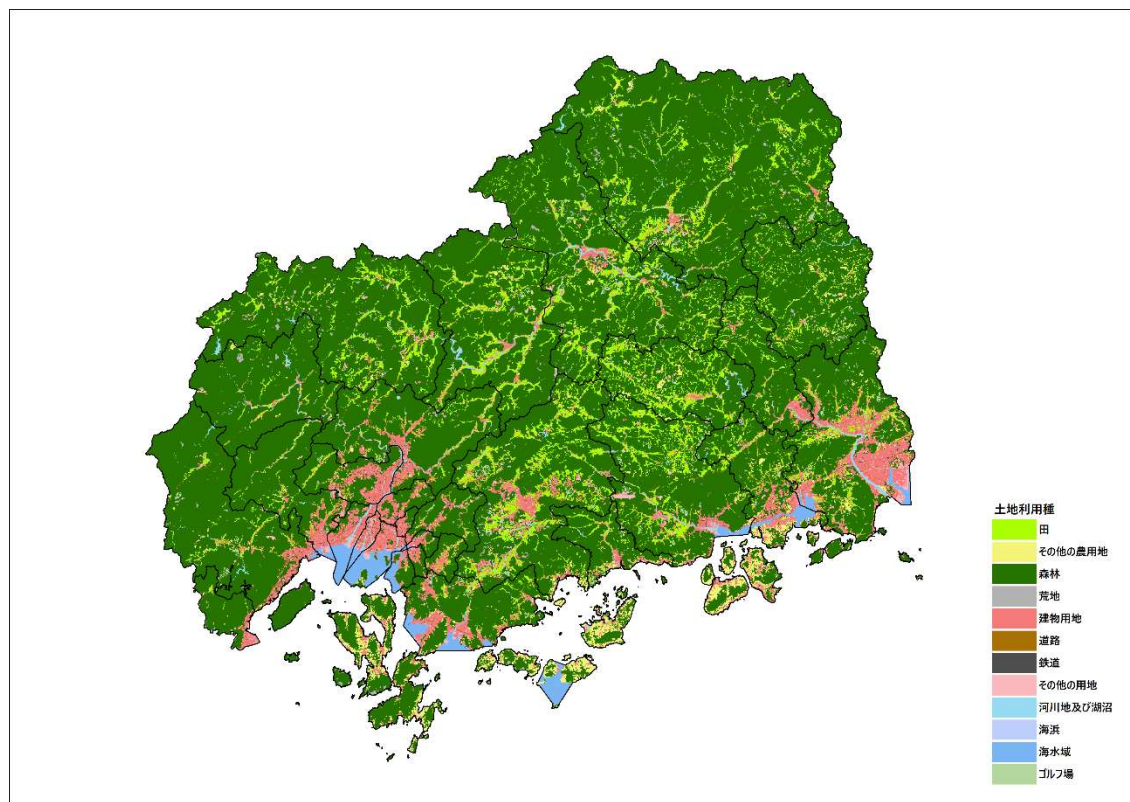


図 I.3.2-3 広島県土地利用状況¹⁵

(4) 建物

令和 5（2023）年の住宅・土地統計調査（総務省統計局）では、県内の総住宅数は約 147 万戸、そのうち人が居住するものが約 123 万戸である。建物構造別には木造住宅が約 65 万戸（53.2%）、非木造住宅が約 57 万戸（46.8%）である。平成 5 年から令和 5 年までの 30 年間で住宅全体に占める非木造の割合が 30.1%から 46.8%に上昇している一方、木造の割合が 69.9%から 53.2%に低下しており、住宅の非木造化が進行している。

また、空き家数を見ると、約 23 万戸であり、空き家率は 15.8%と過去最多である。

表 I.3.2-3 住宅の構造別住宅数¹⁶

対象年	調査項目	木造	非木造	合計
平成 5 年	住宅数 (戸)	682, 800	293, 500	976, 300
	割合 (%)	69. 9	30. 1	100
令和 5 年	住宅数 (戸)	653, 900	574, 500	1, 228, 400
	割合 (%)	53. 2	46. 8	100

なお、地震被害想定を行うに当たり、事務所、倉庫、店舗など人が建物内あるいは建物付近に滞在し、建物倒壊等により被災する状況やライフライン等の社会基盤の被害を適切に反映するため、住宅以外の建物についてもデータに含めた。

(5) 産業

本県における県内総生産は、約 12 兆 4,761 億円（令和 4 年度名目値）である¹⁷。

経済構造実態調査（2024）¹⁸によると製造品出荷額等は全国で第 11 位、中国・四国・九州地域では第 2 位となるなど、本県は「ものづくり県」と言える。

図 I.3.2-4 に示すとおり、令和 6 年の製造品出荷額等を業種別に見ると最も出荷額が大きいのは輸送用機械で、次いで鉄鋼業、生産用機械器具製造業の順であり、上位 3 業種で県全体の約 6 割を占めている¹⁸。

瀬戸内海沿岸地域に製造業が集積しており、東部の備後地域（福山市、府中市、尾道市）には、我が国最大級の製鉄所や電気機械産業などが集積し、県中央部（東広島市、三原市）には、電子部品メーカー、県西部（広島市、呉市、大竹市）には、大手自動車メーカーやその関連産業、化学コンビナート工場などが集積している。その他、県沿岸部に多数の造船会社が立地するなど、多様な産業が集積している。

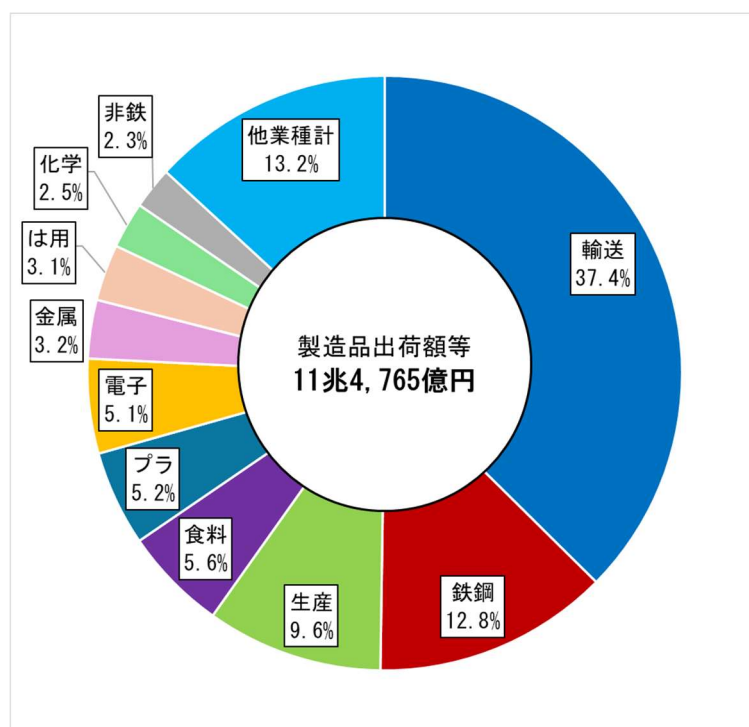


図 I.3.2-4 広島県の製造品出荷額等の産業別状況（全事業所・構成比順）

(6) 交通

本県の道路網は、県境を越えた広域交流ネットワークを形成する高規格幹線道路として、中国縦貫自動車道が北部を東西に、山陽自動車道（広島岩国道路を含む）が南部を東西に、広島市と島根県浜田市を結ぶ中国横断自動車道広島浜田線が南北に、尾道市と島根県松江市を結ぶ中国横断自動車道尾道松江線が南北に、瀬戸内しまなみ海道（西瀬戸自動車道）が広島県から島々を通り愛媛県に繋がるように走っている。また、山陽自動車道と平行して、一般国道 2 号が東西の主要幹線を形成し、広島市と松江市を結ぶ一般国道 54 号が南北の主要幹線を形成している。

緊急輸送道路に指定された路線（総延長 2,790.2km）¹⁹は、地形上の制約から路線上には橋梁、トンネル、盛土、切土斜面が数多く存在する。

鉄道は、関西、九州を結ぶ主要幹線として山陽本線及び山陽新幹線が東西に走っている。その他、広島市及び廿日市市にかけて路面電車網が整備され、広島市の中心市街地から北部へアストラムライン（新交通システム（広島高速交通広島新交通 1 号線）、以下では「アストラムライン」と記す）が整備されている。

空港は、広島空港が三原市本郷町にあり、3,000m の滑走路を備えた中国・四国地方最大級の空港である。また、広島市西区の広島西飛行場は平成 24 年 11 月に廃港となり広島ヘリポートとして供用されている。

港湾は、44 港（国際拠点港湾 1 港、重要港湾 3 港、地方港湾 40 港）²⁰存在する。

これまでに、広域的な交流・連携を支える基盤づくりとして広島港・福山港の国際コンテナターミナルの整備、広島空港の機能強化や国際航空ネットワークの充実、中国横断自動車道尾道松江線の整備などが進められてきた。

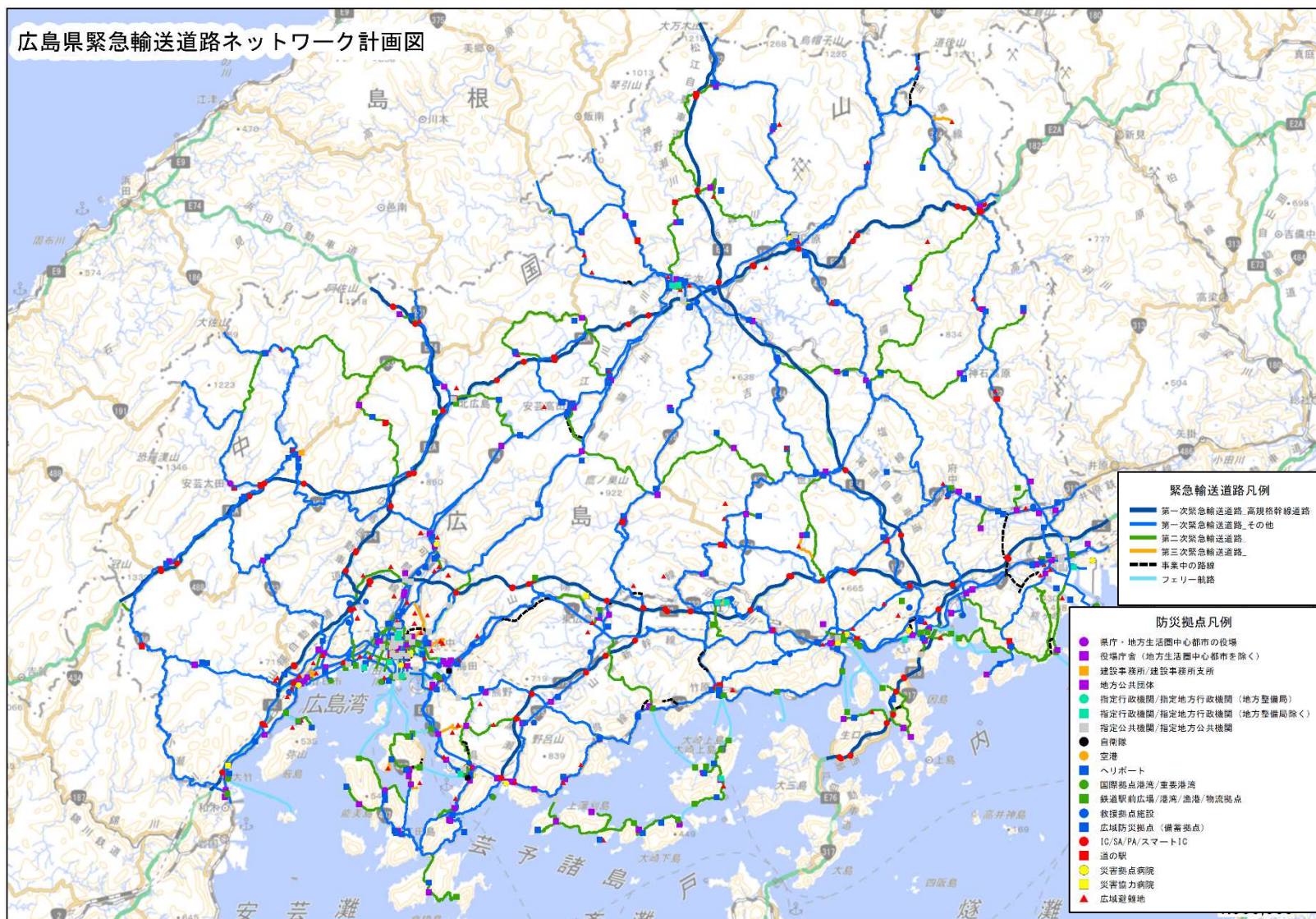


図 I. 3. 2-5 広島県緊急輸送道路ネットワーク計画図（令和 6 年 10 月時点、広島県ホームページより。）

(7) ライフライン

ア 電気・ガス

県内の電力供給を示す電灯軒数は架空配電約 203 万軒、地中配電約 2 万軒であり、配電用の電柱約 51 万本が設置されている。また、県内のガス供給のうち、都市ガス 3 社（広島ガス（株）、福山ガス（株）、因の島ガス（株））によって約 47 万世帯が供給されている。

イ 上下水道

上水道は全市町に普及し、令和 5 年度末現在の給水人口 101 人以上の水道施設数（認可を受けた水道用水供給事業、上水道事業及び簡易水道事業、未着工・未給水を除く専用水道）は、191 施設（水道用水供給水道 3、上水道 19、簡易水道 3、専用水道 166）である。給水人口は 261.0 万人（上水道 259.5、簡易水道 0.8、専用水道 0.7）である。また、水道普及率は 95.4%であり、全国平均の 98.2%と比べると低く、未普及人口は約 12.7 万人である。地域別には、島しょ部の普及率は 95%を超える一方、陸地部では山間部の過疎地域を中心に水道未普及地域を抱えており、普及率は 74.3%と低い。

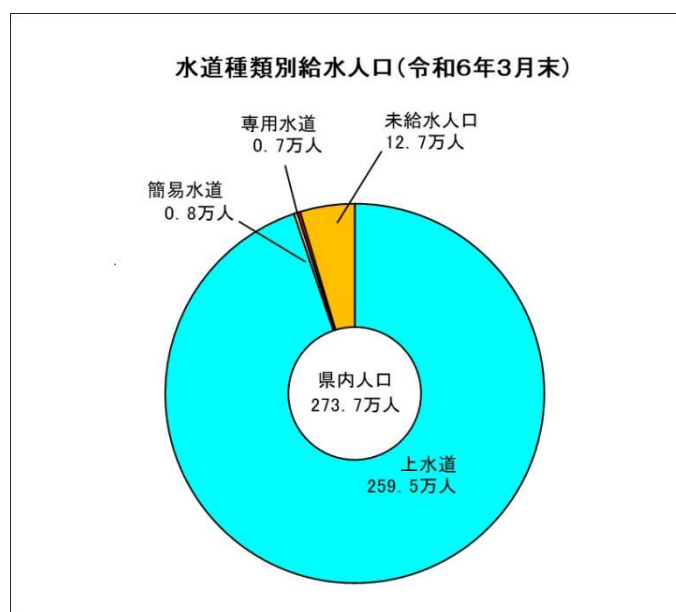


図 I.3.2-6 水道種別給水人口(令和 6 年 3 月末)²¹

下水道は、現在、県内 23 市町のうち、14 市 8 町の 22 市町で公共下水道事業を実施し、流域下水道の 3 処理場を始め、県内 65 箇所の処理場で人口約 212 万人分の処理を行っており、公共下水道における下水道処理人口普及率は 77.5%に達している。また、公共下水道以外の集落排水と浄化槽などを含めた汚水処理人口普及率は、90.7%である。

平成 30 年度末時点の 75.3%から着実に向上しているものの、全国平均の 81.4%に比べて立ち遅れている²²。

表 I.3.2-4 汚水処理人口普及率の現状

区 分		事 業 名	令和 5 年度（直近実績）	
			処理人口 （千人）	汚水処理 人口普及率 （%）
汚水 処理 施設	集合処理	公 共 下 水 道	2,121.8	77.5
		農 業 集 落 排 水 施 設	42.9	1.6
		漁 業 集 落 排 水 施 設	5.5	0.2
	個別処理	合併処理浄化槽及び コミュニティプラント	312.6	11.4
	小 計		2,482.8	90.7
行 政 人 口			2,737.4	100.0

注：汚水処理施設別の各数値は四捨五入を行ったため、合計が合わないことがある。

※：人口は、住民基本台帳による実績。

3 防災状況

(1) 防災拠点

県は、大規模災害発生時における災害対策活動を迅速かつ効果的に実施するため、平成 15 年 3 月、県中央部に位置する広島空港の隣接地（三原市本郷町）に防災拠点施設を開設した。この施設には災害発生後 1 日分の食料・生活必需品及び防災資機材を備蓄しているほか、防災航空センターを設置しており、災害時における救援物資の集積・搬送、救援部隊の集結、連絡・調整などの後方支援の拠点機能を担っている。

また、防災拠点施設の機能を補完するため、救援物資輸送拠点（18 箇所）あるいは救援部隊集結拠点（28 箇所）として、既存の公園や体育館、港湾等の施設を指定している²³。

市町が指定する避難場所は、令和 7 年 7 月 1 日現在で県内に 4,045 箇所ある²⁴。

表 I.3.3-1 広島県防災拠点施設の概要²³

整備目的	大規模災害時における災害対策活動の拠点とする。		
併用開始	平成 15 年 3 月 24 日（月）		
設置場所	三原市本郷町善入寺 94-22(広島空港滑走路北側用地)		
整備内容	区 分	規 模	用 途
	備蓄倉庫棟※	鉄骨造 4,482m ²	食料・生活必需品、防災資機材の備蓄 救援物資の集積・搬送
	管理棟※	鉄骨造	防災航空センター事務室、会議室
	ヘリ格納庫※	1,883m ²	防災ヘリコプター格納
	防災広場	約 8,500m ²	救援物資の仕分け作業スペース 救援部隊の集結スペース
	駐車場	約 2,800m ²	防災活動用の駐車場

※ 免震構造

(2) 医療機関

本県は 7 つの二次保健医療圏に分かれており、令和 6 年（2024 年）の県内の病院数は 231 施設で、平成 2 年（1990 年）の 296 施設をピークに減少している。

県は、災害拠点病院として、基幹災害拠点病院を 1 箇所、地域災害拠点病院を 18 箇所指定し、二次保健医療圏ごとに最低 1 箇所の災害医療を担う拠点病院を確保している²⁵。

災害時の救急医療機関や医療機関に関する情報については、広域災害救急医療情報システムや広島県救急医療情報ネットワークが運用されている。

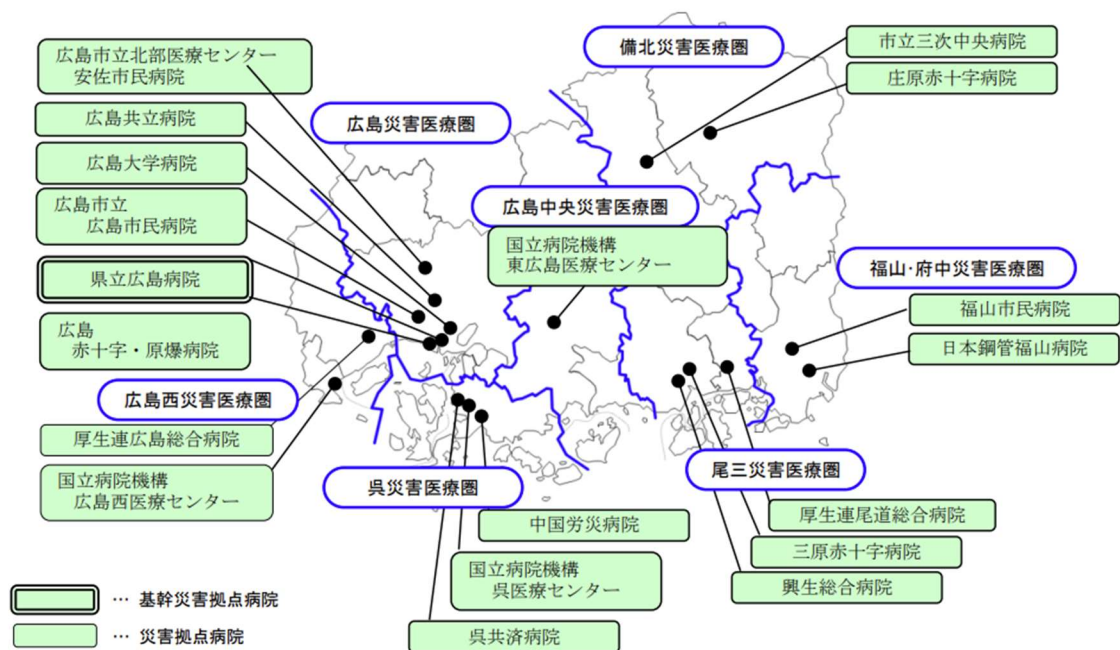


図 I.3.3-1 災害拠点病院の位置²⁵

(3) 災害対応力

広島県内の自主防災組織の組織率は94.7%（令和5年4月1日現在）である²⁶。自主防災組織の組織率の全国平均は85.4%であり、同時点の広島県は全国平均を上回っている²⁷。

また、平成22年度に県が実施した「防災意識に関するアンケート調査」では、災害時に備えた家庭内の備蓄について約70%が備蓄していないと回答し、地震に備えた家具の固定の有無についても69.3%が固定していないと回答していた。しかし、令和6年度に県が実施した「防災・減災に関する県民意識調査」²⁸では、60.3%が備蓄していると回答し、64.7%が家具固定していると回答しており、県民の半数が災害に備えている。よって、県民の防災意識は向上しているといえる。

第4章 想定地震・津波の選定条件等

1 想定地震・津波の選定

広島県の地震・津波対策において被害想定を行うべき地震として、既に明らかとなっている断層等を震源とする地震及びどこでも起こりうる直下の地震を選定した。

(1) 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震・津波

過去の被害地震や活断層調査結果を踏まえ、次の①、②、③を基準とし、「既に明らかとなっている断層等を震源とする地震」を15ケース選定した。

- ① 歴史的に繰り返し発生し、将来発生する可能性が高い地震
- ② 地震調査研究推進本部が長期評価を行っている「主要活断層帯」による地震
- ③ 地震規模及び本県と震源との距離から、発生した際に本県に及ぼす被害が甚大となる可能性が高い地震

なお、選定した想定地震のうち、震源が海域に位置するものについては、津波についても併せて被害想定を行うこととした。

(2) どこでも起こりうる直下の地震

選定した既に明らかとなっている断層等を震源とする地震により地震被害想定を行う場合、震源から離れた自治体では比較的軽微な被害にしかならないことがある。

しかしながら、平成12年(2000年)鳥取県西部地震のように、活断層が確認されていない地域においても地震は発生しており、今後、どの地域においても直下の地震が発生する可能性は否定できない。このため、前回調査と同様に、既に明らかとなっている断層等を震源とする地震の影響が小さい地域において防災対策を行う上での基礎資料として役立てることを目的として、県内23の各市町役場の所在地に震源位置を仮定した「どこでも起こりうる直下の地震」を選定した。

(3) その他の断層による地震

上記(1)及び(2)に該当しないが、広島県に影響を与える可能性がある地震を、次の①、②、③を基準とし、「その他の断層による地震」として選定した。

- ① 地震調査研究推進本部が長期評価を行っている活断層のうち、「主要活断層帯」として取り扱われていない断層
- ② 『新編 日本の活断層』・『活断層詳細デジタルマップ』に記載されている断層
- ③ 最新の論文等に記載されている断層

なお、これらの地震については、断層の存在を県民へ周知することを目的とし、簡便法を用いた震度分布の想定を行った。

選定した断層及び震度分布の想定結果は巻末資料に示す。

表 I.4.1-1 選定した想定地震

想定地震		選定基準※			想定対象		参考
		①	②	③	地震	津波	広島県に被害を及ぼした主な地震
1 プレート間の地震 南海トラフ巨大地震							昭和 21 年（1946 年）南海地震 安政元年（1854 年）安政南海地震 宝永 4 年（1707 年）宝永地震
	1) 南海トラフ巨大地震	○	○	○	○	○	
2 プレート内の地震 日向灘及び南西諸島海溝周辺							平成 13 年（2001 年）芸予地震 昭和 24 年（1949 年）安芸灘 明治 38 年（1905 年）芸予地震 安政 4 年（1857 年）芸予地震
	2) 安芸灘～伊予灘～豊後水道	○	○	○	○	○	
3 地殻内の地震 中央構造線断層帯							平成 12 年（2000 年）鳥取県西部地震 明治 5 年（1872 年）浜田地震
	3) 讃岐山脈南縁西部区間	－	○	○	○	○	
	4) 石鎚山脈北縁区間	－	○	○	○	○	
	5) 石鎚山脈北縁西部区間	－	○	○	○	○	
	6) 伊予灘区間	－	○	○	○		
	7) 3)～6)の 4 連動	－	○	○	○	○	
岩国－五日市断層帯							
	8) 己斐断層区間	－	○	○	○	－	
	9) 五日市断層区間	－	○	○	○	－	
	10) 岩国断層区間	－	○	○	○	－	
	11) 8)～10)の 3 連動	－	○	○	○	－	
安芸灘断層帯							
	12) 安芸灘断層帯	－	○	○	○	○	
広島湾－岩国沖断層帯							
	13) 広島湾－岩国沖断層帯	－	○	○	○	○	
長者ヶ原－芳井断層							
	14) 長者ヶ原－芳井断層	－	○	○	○	－	
筒賀断層							
	15) 筒賀断層	－	○	○	○	－	
どこでも起こりうる直下の地震							
	どこでも起こりうる直下の地震 (23 市町役場直下に震源を配置)	－	－	－	○	－	

※選定基準

①歴史的に繰返し発生し、将来発生する可能性が高い地震

②地震調査研究推進本部が長期評価を行っている「主要活断層帯」による地震

③地震規模及び本県と震源との距離から、発生した際に本県に及ぼす被害が甚大となる可能性が高い地震

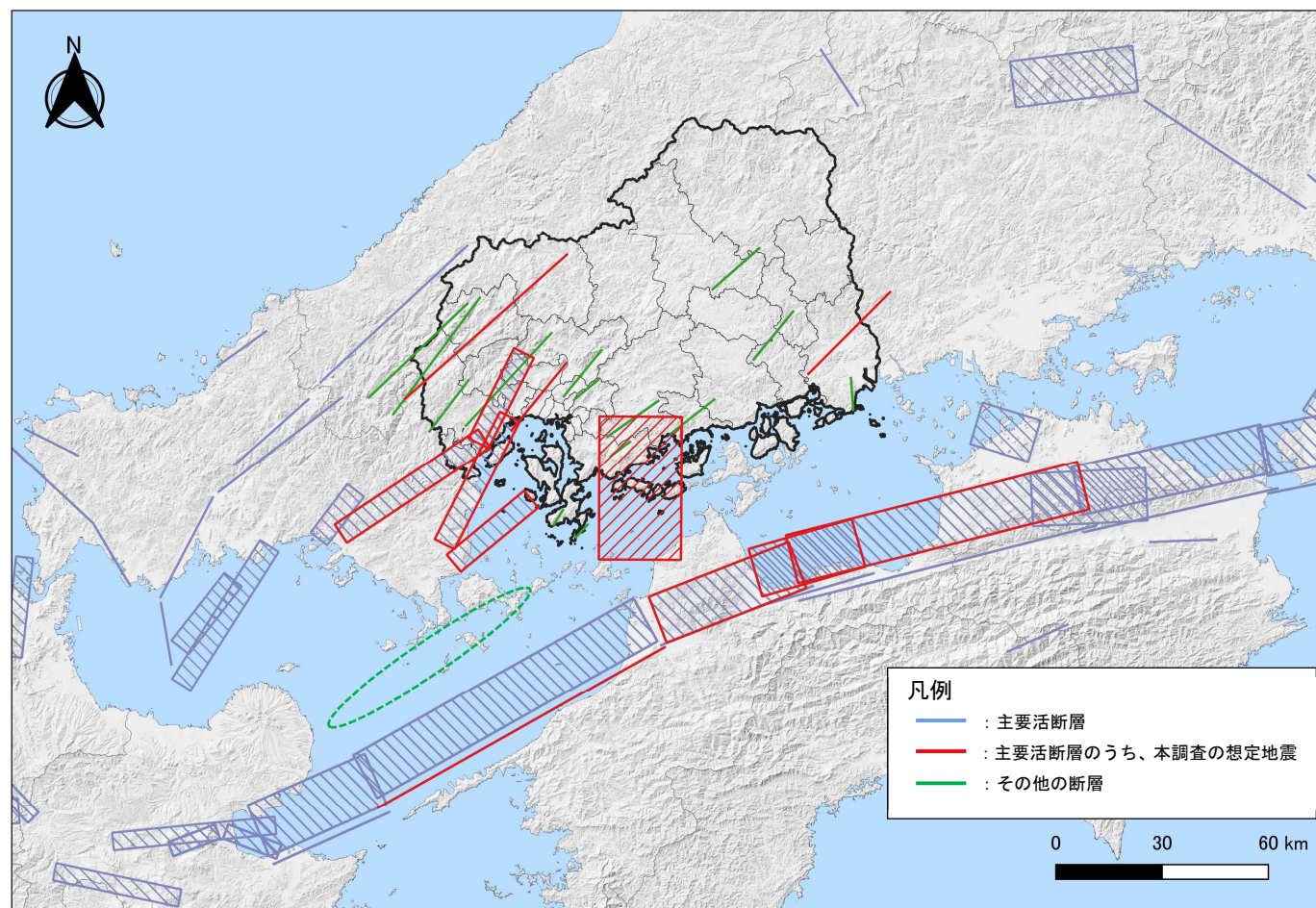


図 I . 4. 1-1 広島県周辺の断層位置図 29、30、31、32、33、34

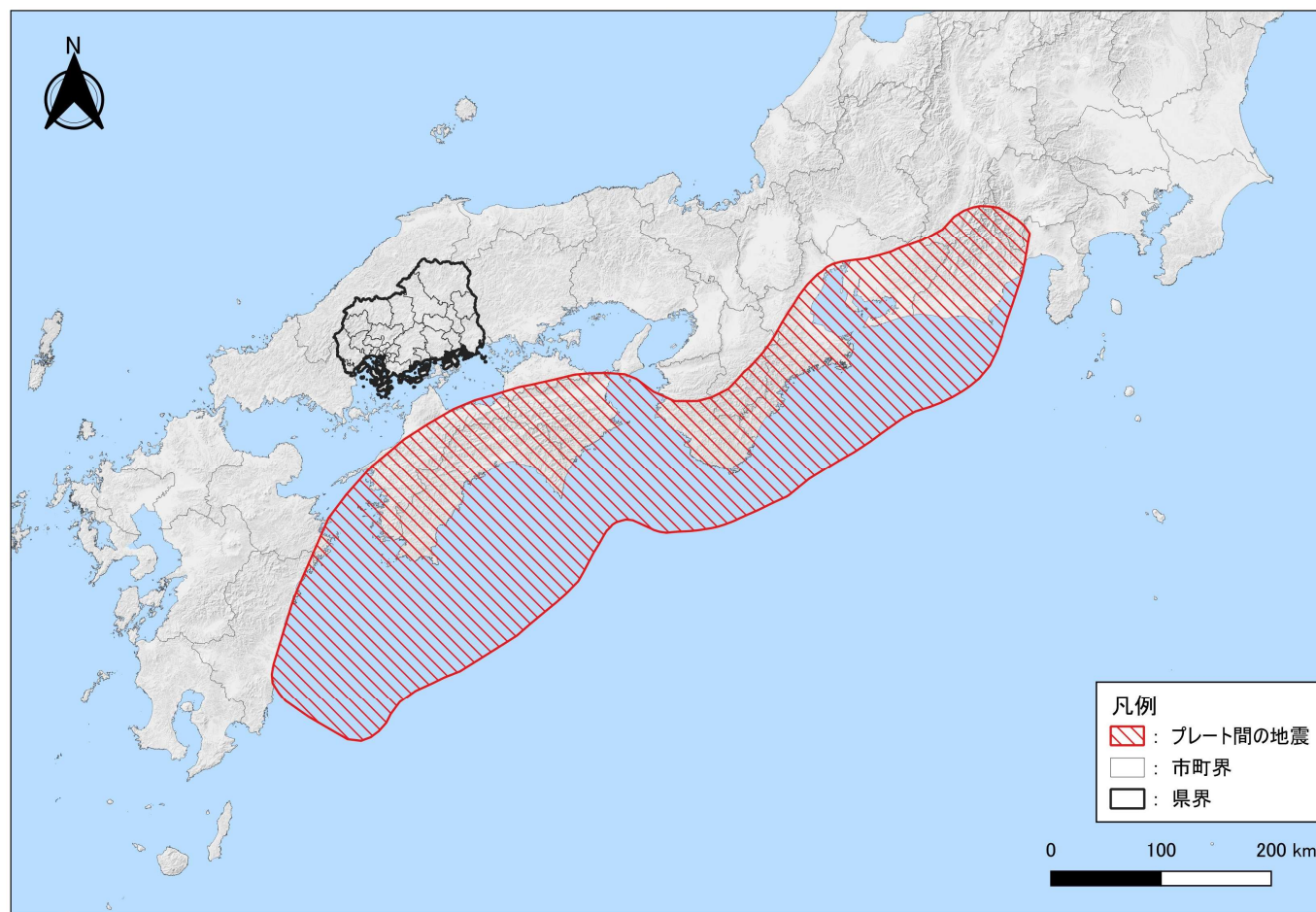


図 I.4.1-2 想定地震位置図（南海トラフ巨大地震）³⁵

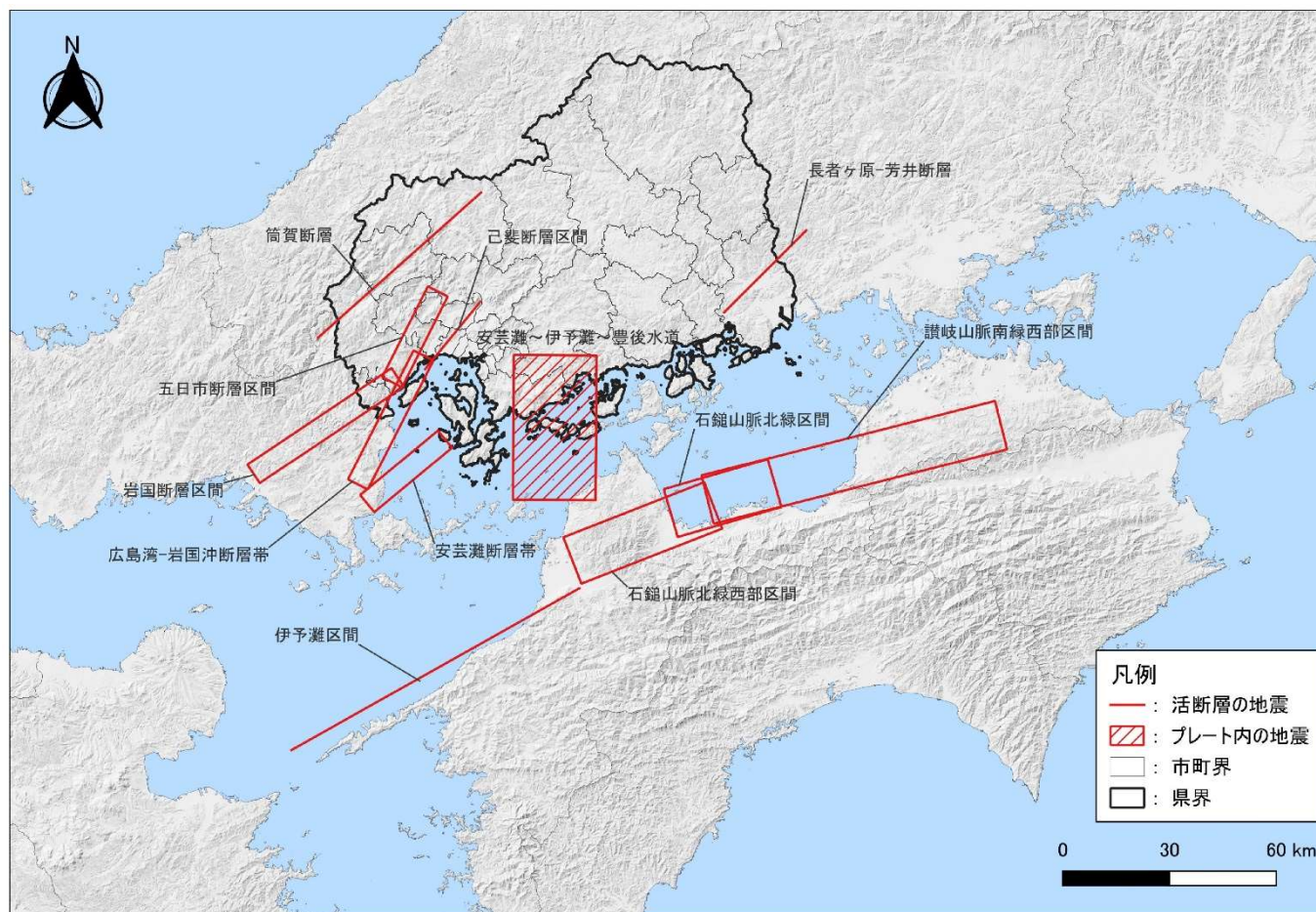


図 I.4.1-3 想定地震位置図（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）^{29, 34}

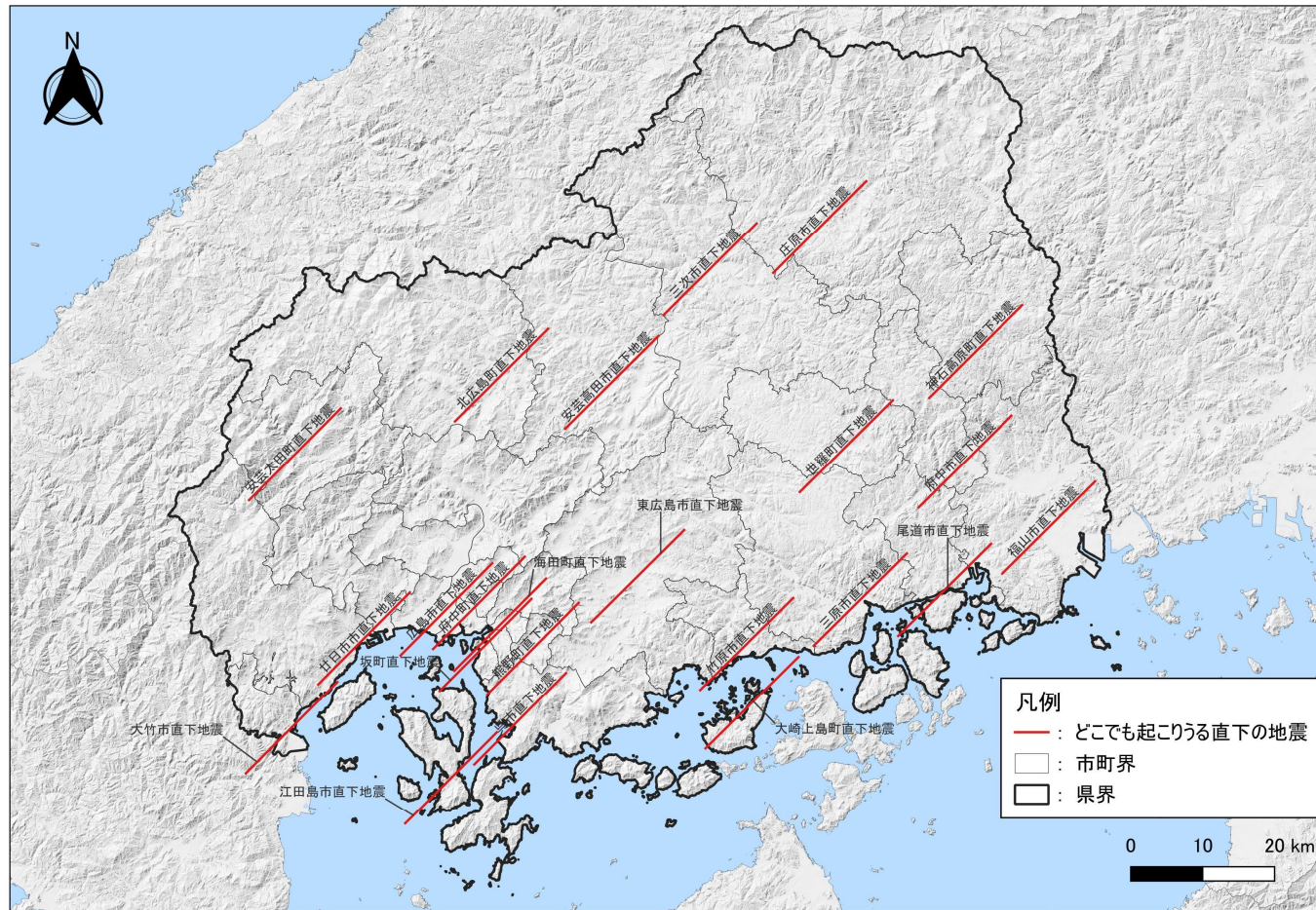


図 I.4.1-4 想定地震位置図（どこでも起こりうる直下の地震）

2 想定地震の諸元

(1) 既に明らかとなっている断層等を震源とする地震

ア 南海トラフ（南海トラフ巨大地震）

南海トラフとは、駿河湾から日向灘沖にかけての海底の溝状の地形を指す。南海トラフでは、日本列島が位置する陸のプレート（ユーラシアプレート）の下に、海のプレート（フィリピン海プレート）が南側から年間数cmの割合で沈み込んでおり、この沈み込みに伴い、2つのプレートの境界には、徐々にひずみが蓄積されており、このひずみが限界に達したときに蓄積されたひずみを解放する大地震が発生している。過去 1,400 年間を見ると、南海トラフでは約 100～200 年の間隔で大地震が発生しており、近年発生した地震では、昭和東南海地震（1944 年）、昭和南海地震（1946 年）がこれに当たる。昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから 80 年近くが経過しており、日本列島の広い範囲に強い揺れと大きな津波による災害を引き起こすことが懸念されている。

本調査においては、南海トラフを震源域とした地震が発生した場合には、県域に影響を及ぼす恐れのあることから想定地震として選定した。

想定規模は、「南海トラフの巨大地震モデル検討会」及び「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」の検討結果を踏まえ、モーメントマグニチュード 9.0 とした。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位（-1.9m～+11.8m 程度）が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

イ 日向灘及び南西諸島海溝周辺（安芸灘～伊予灘～豊後水道）の地震

安芸灘～伊予灘～豊後水道では、南海トラフから西北西に沈み込むフィリピン海プレート（深さ 40～60km）においてプレート内部の破壊（ずれ）によるプレート内の地震が発生している。近年では平成 13 年芸予地震（マグニチュード 6.7）が記憶に新しく、それ以前にも死者 11 名の被害となった芸予地震（1905 年：マグニチュード 6.7）など、マグニチュード 6.7 の地震が江戸時代以降（17 世紀以降）だけでも 6 回発生している。

また、地震調査研究推進本部では、当該地域における地震活動の長期評価を行っており、今後 30 年以内に当該領域のどこかで地震が発生する確率を 40%程度、地震の規模はマグニチュード 6.7～7.4 と推定している。

本調査においては、当該地域が広島県域に近く、過去に何度も地震が発生していること、さらに芸予地震の例からも再び地震が発生した場合には県域に大きな影響を及ぼす恐れがあることから、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震を対象地震とした。

想定規模は、記録上最大規模となる 1854 年 12 月 26 日の地震と同程度かつ地震調査研究推進本部による想定規模の最大値であるマグニチュード 7.4 とした。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位（-0.7m～+0.1m 程度）が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

ウ 中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）

中央構造線断層帯は、近畿地方の金剛山地の東縁から、和泉山脈の南縁、淡路島南部の海域を経て、四国北部を東西に横断し、伊予灘、別府湾を経て由布院に達する全長約 444km の長大な断層帯である。地震調査研究推進本部の長期評価では、中央構造線断層帯を過去の活動時期や断層の形状等の違い、平均的なずれの速度などから 10 の区間に分けて評価している。讃岐山脈南縁西部区間はその一つであり、三野断層、箸蔵断層、池田断層、佐野断層、寒川断層、畑野断層及び石鎚断層からなる約 82km の断層である。この断層の長期評価による地震発生の可能性は、今後 30 年以内にほぼ 0-0.4%とされ、日本の活断層の中では発生確率がやや高いグループとなっている。また、想定される地震の規模もマグニチュード 8.0 程度もしくはそれ以上とされ、県域にも比較的近いため、地震が発生した場合には県域に影響を及ぼす恐れのある地震として想定地震として選定した。

想定 の 規 模 は、同 評 価 に よ る 想 定 規 模 を 参 考 に マ グ ニ チ ュ ー ド 8.0 と し た。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位（-1.0m～+0.1m 程度）が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

エ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）

石鎚山脈北縁区間も、地震調査研究推進本部の長期評価による中央構造線断層帯の 10 の区間の一つであり、岡村断層からなる約 29km の断層である。この断層の長期評価による地震発生の可能性は、今後 30 年以内に 0.02%以下とされている。また、想定される地震の規模もマグニチュード 7.3 程度とされ、県域にも比較的近いため、地震が発生した場合には県域に影響を及ぼす恐れのある地震として想定地震として選定した。

想定 の 規 模 は、地 震 調 査 研 究 推 進 本 部 に よ る 想 定 規 模 を 参 考 に、マ グ ニ チ ュ ー ド 7.3 と し た。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位（-0.4m～+0.0m 程度）が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

オ 中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間)

石鎚山脈北縁西部区間も、地震調査研究推進本部の長期評価による中央構造線断層帯の 10 の区間の一つであり、川上断層及び重信断層からなる約 41km の断層である。この断層の長期評価による地震発生の可能性は、今後 30 年以内にほぼ 0-12%とされている。また、想定される地震の規模もマグニチュード 7.5 程度とされ、県域にも比較的近いいため、地震が発生した場合には県域に影響を及ぼす恐れのある地震として想定地震として選定した。

想定規模は、地震調査研究推進本部による想定規模を参考に、マグニチュード 7.5 とした。

また、本調査のうちの津波による被害想定では、中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間)および中央構造線断層帯(伊予灘区間)の 2 区間が同時に活動する 2 連動を対象とした。なお、2 連動の地震に伴う海底変位は-1.8m~+0.5m 程度である。

カ 中央構造線断層帯(伊予灘区間)

伊予灘区間も、地震調査研究推進本部の長期評価による中央構造線断層帯の 10 の区間の一つであり、伊予断層、米湊断層、伊予灘東部断層及び伊予灘西部断層からなる約 88km の断層である。この断層の長期評価による地震発生の可能性は、今後 30 年以内にほぼ 0%とされている。また、想定される地震の規模もマグニチュード 8.0 程度もしくはそれ以上とされ、県域にも比較的近いいため、地震が発生した場合には県域に影響を及ぼす恐れのある地震として想定地震として選定した。

想定規模は、地震調査研究推進本部による想定規模を参考に、マグニチュード 8.1 とした。

また、本調査のうちの津波による被害想定では、中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間)および中央構造線断層帯(伊予灘区間)の 2 区間が同時に活動する 2 連動を対象とした。なお、2 連動の地震に伴う海底変位は-1.8m~+0.5m 程度である。

キ 中央構造線断層帯(4 連動)

地震調査研究推進本部の長期評価によると、中央構造線断層帯を構成する 10 区分された複数の隣接した区間が同時に活動する可能性や断層帯全体が同時に活動する可能性も否定できない。また、断層帯全体が同時に活動した場合は、マグニチュード 8.0 程度もしくはそれ以上の地震が発生すると推定される。この場合の地震発生率の長期確率は求めることはできないが、10 区間が個別に活動する長期確率を超えることはないと考えられるとしている。本調査では、10 区間のうち地震が発生した場合には県域に影響を及ぼす恐れのある上記 4 区間が同時に活動する 4 連動についても、参考として評価する。

ク 岩国―五日市断層帯（己斐断層区間）

岩国―五日市断層帯は、広島県大竹市から山口県周南市、広島県廿日市市を経て、広島市安佐北区に至る断層帯である。全体の長さは約 78km で、北東―南西方向に延びる右横ずれ主体の断層帯であり、北西側ないし西側隆起の逆断層成分を伴う。

地震調査研究推進本部では、岩国―五日市断層帯を構成する活断層の分布形状、活動時期等の特徴に基づき、3つの区間に区分している。

己斐断層区間はその一つであり、広島市安佐南区から同市西区その沖合に至る長さ約 23km の断層である。同評価では、平均的な活動間隔に関するデータが得られていないため、今後の地震発生確率は求められていないが、マグニチュード 7.1 程度の地震が起こる可能性があると考えられていることから想定地震として選定した。

想定規模は、地震調査研究推進本部による想定規模を踏まえ、マグニチュード 7.1 とした。

なお、震源の南端は海岸線沿いに位置するが海域にはほとんどかからないため、津波を引き起こす可能性は低いと考え、津波による建物被害等の試算は行っていない。

ケ 岩国―五日市断層帯（五日市断層区間）

五日市断層区間も、地震調査研究推進本部の長期評価による岩国―五日市断層帯の3つの区間の一つであり、広島市安佐北区から同市佐伯区を経て広島県廿日市市に至る長さ約 27km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、己斐断層区間と同様に、平均活動間隔が不明とされており、今後の地震発生確率は求められていないが、マグニチュード 7.2 程度の地震が起こる可能性があると考えられていることから想定地震として選定した。

想定規模は、地震調査研究推進本部による想定規模を踏まえ、マグニチュード 7.2 とした。

なお、震源の南端は海岸線沿いに位置するが海域にはほとんどかからないため、津波を引き起こす可能性は低いと考え、津波による建物被害等の試算は行っていない。

コ 岩国―五日市断層帯（岩国断層区間）

岩国断層区間も、地震調査研究推進本部の長期評価による岩国―五日市断層帯の3つの区間の一つであり、広島県大竹市から山口県周南市に至る長さ約 46km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、平均活動間隔などから今後 30 年以内に地震が発生する確率を 0.03―2%、マグニチュード 7.6 程度の地震が発生する可能性があると考えられていることから想定地震として選定した。

想定規模は、地震調査研究推進本部による想定規模を踏まえ、マグニチュード 7.6 とした。

なお、震源の北端は海岸線沿いに位置するが海域にはほとんどかからないため、津波を引き起こす可能性は低いと考え、津波による建物被害等の試算は行っていない。

サ 岩国―五日市断層帯(3 連動)

地震調査研究推進本部の長期評価によると、岩国―五日市断層帯の各区間はそれぞれ別々に活動すると推定されるが、複数区間が同時に活動する可能性も否定できない。その場合にはマグニチュード 7.9～8.0 程度の地震が発生する可能性もある。この場合の地震発生確率を求めることはできないが、各区間がそれぞれ単独で活動する確率より大きくなることはないと考えられるとしている。本調査では、3 区間が同時に活動する 3 連動についても、参考として評価する。

シ 安芸灘断層帯

安芸灘断層帯は、広島県江田島市沖から山口県岩国市沖に分布する長さ約 26km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、平均活動間隔などから今後 30 年以内に地震が発生する確率を 0.1%-10%としており、日本全体の活断層のなかでは、発生確率が高いグループに属している。また、全体が一つの区間として活動した場合マグニチュード 7.2 程度の地震が発生する可能性があるとしてされていることから想定地震として選定した。

想定規模は、同評価を踏まえてマグニチュード 7.2 とした。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位 (-0.1m～+0.2m 程度) が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

ス 広島湾―岩国沖断層帯

広島湾―岩国沖断層帯は、広島市沖から山口県岩国市の陸域にかけて分布する長さ約 38km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、最新活動時期、平均活動間隔が不明なため、今後の地震発生率の長期確率(今後 30 年間の地震発生確率)も不明となっている。

しかしながら、同評価において全体が一つの区間として活動した場合、マグニチュード 7.5 程度の地震が発生するとされていることから、想定地震として選定した。

想定規模は、同評価を踏まえてマグニチュード 7.5 とした。

なお、震源が海域に位置するため、地震に伴う海底変位 (-0.2m～+0.1m 程度) が津波を引き起こす可能性を考慮し、津波による被害想定の対象とした。

セ 長者ヶ原―芳井断層

長者ヶ原―芳井断層は、岡山県井原市芳井町から広島県福山市本郷町にかけて分

布する長さ約 30km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、最新活動時期、平均活動間隔が不明なため、今後の地震発生の長期確率（今後 30 年間の地震発生確率）も不明となっている。

しかしながら、同評価において全体が一つの区間として活動した場合、マグニチュード 7.3 程度の地震が発生するとされていることから、想定地震として選定した。

想定規模は、同評価を踏まえてマグニチュード 7.3 とした。

なお、震源は海域にはかからないため、津波を引き起こす可能性は低いと考え、津波による建物被害等の試算は行っていない。

ソ 筒賀断層

筒賀断層は、広島県山県郡北広島町から安芸太田町、廿日市市にかけて分布する長さ約 58km の断層である。地震調査研究推進本部の長期評価では、最新活動時期、平均活動間隔が不明なため、今後の地震発生の長期確率（今後 30 年間の地震発生確率）も不明となっている。

しかしながら、同評価において全体が一つの区間として活動した場合、マグニチュード 7.8 程度の地震が発生するとされていることから、想定地震として選定した。

想定規模は、同評価を踏まえてマグニチュード 7.8 とした。

なお、震源は海域にはかからないため、津波を引き起こす可能性は低いと考え、津波による建物被害等の試算は行っていない。

(2) どこでも起こりうる直下の地震

平成 30 年北海道胆振東部地震(マグニチュード 6.9)や平成 12 年鳥取県西部地震(マグニチュード 7.3)のように、明瞭な活断層が地表に存在せず、地震が発生しないと考えられていた地域でも、過去に地震が発生している。このため、これらの地震に備えるため、県内各市町役場の所在地に震源位置を仮定した 23 の地震を想定地震とする。

内閣府(2005)³⁶では、活断層が地表で認められない地震規模の上限を、防災上の観点からマグニチュード 6 位の最大であるマグニチュード 6.9 として想定している。

この想定を参考として、活断層が確認されていない地域においても発生しうる地震(どこでも起こりうる直下の地震)の想定規模をマグニチュード 6.9 とした。

なお、広島県及びその周辺の活断層の多くが北東-南西の走向を持つことから、この走向(45°)を採用して配置した。

表 I.4.2-1 想定地震の諸元 ^{35、37、38、39、40、41、42}

地震名	地震タイプ	端部の位置 緯度，経度	一般走向	傾斜	長さ	幅	上端深さ	マグニチュード※1	今後30年以内 の発生確率
南海トラフ巨大地震	プレート間	— — 、 —	—	—	—	—	—	9.0	60～90%程度以上
安芸灘～伊予灘～豊後水道	プレート内	— — 、 —	—	—	—	—	—	6.7～7.4	40%程度
中央構造線断層帯 (讃岐山脈南縁西部区間)	地殻内	東端 34° 05′ 、 134° 06′	N75° E	高角度 北傾斜	約82km	25～30km 程度	0km	8.0程度もしくはそれ以上	ほぼ0～0.4%
中央構造線断層帯 (石鎚山脈北縁区間)	地殻内	東端 33° 58′ 、 133° 25′	N74° E	高角度	約29km	25～30km 程度	0km	7.3程度	0.02%以下
中央構造線断層帯 (石鎚山脈北縁西部区間)	地殻内	東端 33° 56′ 、 133° 14′	N68° E	高角度	約41km	30km程度	0km	7.5程度	ほぼ0～12%
中央構造線断層帯 (伊予灘区間)	地殻内	東端 33° 46′ 、 132° 47′	N59° E	高角度	約88km	25km程度	0km	8.0程度もしくはそれ以上	ほぼ0%
中央構造線断層帯 (4連動)	地殻内	東端 33° 46′ 、 132° 47′	—	—	—	25～30km 程度	0km	8.0程度もしくはそれ以上	不明
岩国－五日市断層帯 (己斐断層区間)	地殻内	北東端 34° 30′ 、 132° 30′	N40° E	ほぼ鉛直	約23km	20km程度	0km	7.1程度	不明
岩国－五日市断層帯 (五日市断層区間)	地殻内	北東端 34° 30′ 、 132° 25′	N26° E	高角 (西傾斜)	約27km	20km程度	0km	7.2程度	不明
岩国－五日市断層帯 (岩国断層区間)	地殻内	北東端 34° 16′ 、 132° 16′	N56° E	高角 北西傾斜	約46km	20km程度	0km	7.6程度	0.03～2%
岩国－五日市断層帯 (3連動)	地殻内	北東端 34° 30′ 、 132° 30′	—	—	—	20km程度	0km	7.9～8.0程度	不明
安芸灘断層帯	地殻内	北東端 34° 07′ 、 132° 25′	N50° E	不明	約26km	不明	0km	7.2程度	0.1～10%
広島湾－岩国沖断層帯	地殻内	北東端 34° 20′ 、 132° 22′	N28° E	不明	約38km	不明	0km	7.5程度	不明
長者ヶ原－芳井断層	地殻内	東端 34° 40′ 、 133° 29′	N45° E	ほぼ鉛直	約30km	不明	0km	7.3程度	不明
筒賀断層	地殻内	東端 34° 45′ 、 132° 30′	N48° E	ほぼ鉛直	約58km	不明	0km	7.8程度	不明
どこでも起こりうる直下の地震 ※2	地殻内	市町役場位置に断層中心	N45° E	—	—	—	—	6.9	—

注:表中の数値等は、内閣府の「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」、地震調査研究推進本部の各断層等の「長期評価」による。
地震動等の計算に用いたモデルの詳細は、第IV編に整理した。

※1：気象庁マグニチュード。ただし、南海トラフ巨大地震のみモーメントマグニチュード

※2：どこでも起こりうる直下の地震は、震源を仮定しているため諸元（傾斜、長さ、幅、上端深さ等）は省略

第5章 被害想定の実施概要

1 被害想定の実施方針

(1) 地震動予測及び被害想定ケース

想定地震ごとに様々なケースの地震動等の予測を行い、被害想定を行った。

南海トラフ巨大地震については、内閣府(2025a)³⁵において、「基本ケース」、「陸側ケース」、「東側ケース」、「西側ケース」の強震断層モデルによる震度、これを補完するための「経験的手法」による震度及び全5ケースの震度を包絡させた「重ね合わせ」について震度分布を予測し、被害想定を行っている。これらの中から「重ね合わせ」(最大クラス)を除いたものを被害想定対象として想定結果の状況を記した。

南海トラフ巨大地震以外の地震では、すべての想定断層について被害想定を行った。

また、活断層が確認されていない地域においても発生しうる地震として、各市町役場の所在地に震源位置を仮定した23の地震による被害想定を行った。

(2) 津波浸水想定

南海トラフ巨大地震の津波断層モデルは、内閣府(2025a)³⁵が設定している11ケースの津波断層モデルの内、広島県沿岸に対して津波の影響が大きいと想定されるケース1、2、3、4、5、8、10、11を検討対象のモデルとして選択した。さらに、その中で広島県内において浸水面積が大きくなると想定される次の津波断層モデルケースを広島県及び市町ごとに選択し、想定対象とした。

広島県：広島県全体で30cm以上浸水深面積が最大となると想定される津波断層モデル「ケース1」と、広島県全体で人的被害が最大となると想定される津波断層モデル「ケース4」を採用した。

各市町：各市町で30cm以上浸水深面積が最大となる津波断層モデルケースと、各市町にとって人的被害が最大となると想定される津波断層モデルケースを選定した。

(30 cm以上浸水深が最大となる津波断層モデルケース)

- ・広島市、呉市、竹原市、大竹市、東広島市、廿日市市、江田島市、府中町、海田町、坂町、大崎上島町は、津波断層モデル「ケース 1」を選定。
- ・三原市は、津波断層モデル「ケース 2」を選定。
- ・尾道市は、津波断層モデル「ケース 5」を選定。
- ・福山市は、津波断層モデル「ケース 4」を選定。

(人的被害が最大となると想定される津波断層モデルケース)

- ・広島市は、津波断層モデル「ケース 4」を選定。
- ・呉市、府中町は、津波断層モデル「ケース 8」を選定。
- ・竹原市、東広島市は、津波断層モデル「ケース 10」を選定。
- ・尾道市、大崎上島町は、津波断層モデル「ケース 2」を選定。
- ・福山市、坂町は、津波断層モデル「ケース 11」を選定。
- ・廿日市市は、津波断層モデル「ケース 3」を選定。
- ・海田町は、津波断層モデル「ケース 5」を選定。
- ・三原市、大竹市、江田島市は、30 cm以上浸水深が最大となる津波断層モデルケースと同じケースを選定。

また、既に明らかとなっている断層等を震源とする地震の内、震源が海域にある次の 7 地震を「瀬戸内海域活断層等による地震」として定義し、想定対象とした。

- ・安芸灘～伊予灘～豊後水道
- ・讃岐山脈南縁西部
- ・石鎚山脈北縁西部～伊予灘
- ・安芸灘断層帯
- ・広島湾～岩国沖断層帯
- ・石鎚山脈北縁
- ・讃岐山脈南縁西部～伊予灘

表 I.5.1-1 南海トラフ巨大地震による被害想定実施ケースの組み合わせ

	地 震						津 波							
	基本 ケース	東側 ケース	西側 ケース	陸側 ケース	経験的 手法	重ね合 わせ	ケース 1	ケース 2	ケース 3	ケース 4	ケース 5	ケース 8	ケース 10	ケース 11
広島県	—	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	—	—	—
広島市	—	—	—	○	—	—	○	—	—	●	—	—	—	—
呉市	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	●	—	—
竹原市	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	●	—
三原市	—	—	—	○	—	—	—	◎	—	—	—	—	—	—
尾道市	—	—	—	○	—	—	—	●	—	—	○	—	—	—
福山市	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	●
府中市	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三次市	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
庄原市	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大竹市	—	—	—	○	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—
東広島市	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	●	—
廿日市市	—	—	—	○	—	—	○	—	●	—	—	—	—	—
安芸高田市	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江田島市	—	—	—	○	—	—	◎	—	—	—	—	—	—	—
府中町	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	●	—	—
海田町	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	●	—	—	—
熊野町	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
坂町	—	—	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	—	●
安芸太田町	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北広島町	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大崎上島町	—	—	—	○	—	—	○	●	—	—	—	—	—	—
世羅町	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
神石高原町	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

地震ケース

基本：基本となるケース

東側：強震動生成域をやや東側の場所に設定

西側：強震動生成域をやや西側の場所に設定

陸側：強震動生成域を可能性がある範囲で最も陸側に設定

経験的手法：震源からの距離にしたがい地震の揺れの強さがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定

重ね合わせ：上記4ケースと経験的手法による震度の各地点における最大値

津波ケース

1：駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域＋超大すべり域」を設定

2：紀伊半島沖に「大すべり域」を設定

3：紀伊半島沖～四国沖に「大すべり域＋超大すべり域」を設定

4：四国沖に「大すべり域＋超大すべり域」を設定

5：四国沖～九州沖に「大すべり域＋超大すべり域」を設定

8：駿河湾～愛知県東部沖と三重県南部沖～徳島県沖に「大すべり域＋超大すべり域」を2箇所設定

10：三重県南部沖～徳島県沖と足摺岬沖に「大すべり域＋超大すべり域」を2箇所設定

11：室戸岬沖と日向灘に「大すべり域＋超大すべり域」を2箇所設定

津波ケースの凡例

○：津波の浸水面積が最大となるケース

●：津波の人的被害が最大となるケース

◎：両者が同じ場合

2 想定シーン

(1) 基本シーンの設定

人々の行動や火気器具の使用状況は、季節・時刻によって変化する。このため、地震が発生する季節や時刻に応じて、人的被害や火災による被害の様相が異なる特徴的な次の3シーンを想定した。

なお、火災による建物被害や人的被害は、風速によって被害想定結果が異なるため、広島県の過去の風速を参考に、夏冬の平均的な風速及び平均的な一日の最大風速※で被害想定を行った。

※ 平均的な一日の最大風速：日最大風速の平均に標準偏差 σ を加えたもの（ 2σ を加えることで正規分布の95.45%値となる）

表 I.5.2-1 想定シーンと想定される被害の特徴

想定シーン	想定される被害の特徴
冬 深夜 〔 平均：風速 5m/s 〕 〔 最大：風速 11m/s 〕	・多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。 ・オフィスや繁華街の滞留者や鉄道・道路の利用者が少ない。
夏 12 時 〔 平均：風速 5m/s 〕 〔 最大：風速 9m/s 〕	・オフィスや繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。 ・木造建物内滞留人口は、1 日の中で最も少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者は冬の深夜と比べて少ない。 ・海水浴客をはじめとする観光客が多く沿岸部等にいる。
冬 18 時 〔 平均：風速 5m/s 〕 〔 最大：風速 11m/s 〕	・住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。 ・オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。 ・鉄道、道路はほぼ帰宅ラッシュ時に近い状態であり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。

(2) 特異シーンの検討

上記の基本シーンは季節・時間帯ごとの平均的な状況を前提としており、人口分布は令和2年国勢調査を基準に作成し、被害想定を行っている。

しかし、令和6年能登半島地震は、元日に発生し、帰省者が多くいたことが指摘されており、平時に比較して滞在人口が多く、避難者が多く発生するなど多くの課題が生じたと考えられることから、そのような特異なシーンが認められる場合にあっては、基本シーンとは別に、平均的な状況とは異なる人口分布を前提としたシーン（以下「特異シーン」という。）に基づく被害想定を行っておく必要がある。

このことを踏まえ、本調査においては、人流統計サービス（以下「人流データ」という。）と国勢調査の比較を行い、県全域の人口について人流データが国勢調査を大

幅に上回るシーンがある場合には、特異シーンとして設定することとした。

結果として、県全域の人口分布を比較したときに、人流データが国勢調査を大幅に上回るシーンは存在しなかったため、本調査においては、特異シーンを設定しないこととした。

ただし、特定の場所・時期においては、人流データが国勢調査を上回ることも確認されたことから、個別の場所・時期における地震防災対策の検討にあたっては、それぞれの場所・時期の実態を踏まえて行う必要がある。

3 被害想定項目及び被害想定実施シーン

(1) 被害想定項目と想定単位

各地震における被害想定項目と想定単位は表 I.5.3-1 のとおりとした。

表 I.5.3-1 被害想定項目（定量評価）（1/2）

	想定項目	想定する値・被害量	想定単位
自然現象	地震動	震度、最大加速度、SI 値	250m メッシュごと
	液状化	PL 値、沈下量	250m メッシュごと
	土砂災害	危険度ランク	危険箇所ごと
	津波	最高津波水位、最大波到達時間、津波影響開始時間、浸水深別面積、浸水開始時間、流速	10m メッシュごと
建物被害等	揺れ	全壊・半壊棟数	250m メッシュごと
	液状化	全壊・半壊棟数	250m メッシュごと
	土砂災害	全壊・半壊棟数	250m メッシュごと
	津波(破堤に伴う浸水を含む)	全壊・半壊棟数	10m メッシュごと
	地震火災 *	焼失棟数	250m メッシュごと
	津波火災	出火件数	市町ごと
	屋外転倒物・屋外落下物	飛散物、非飛散物	250m メッシュごと
人的被害	建物倒壊 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと
	土砂災害 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと
	津波 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと(10m メッシュごとの結果を集計)
	地震火災 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと
	ブロック塀等・自動販売機の転倒、屋外落下物 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと
	屋内収容物移動・転倒、屋内落下物 *	死者数、負傷者数、重傷者数、軽傷者数	市町ごと
	揺れによる建物被害に伴う要救助者(自力脱出困難者) *	自力脱出困難者数	市町ごと
	津波被害に伴う要救助者・要搜索者 *	要救助者数、要搜索者数	市町ごと
	災害関連死 *	死者数	市町ごと

表 I.5.3-1 被害想定項目（定量評価）（2/2）

想定項目		想定する被害量	想定単位
ライフライン	上水道	被害箇所数、断水人口	10m メッシュ(津波)、 250m メッシュごと
	下水道	管渠被害延長、機能支障人口	10m メッシュ(津波)、 250m メッシュごと
	電力 *	電柱被害本数、停電軒数	10m メッシュ(津波)、 250m メッシュごと
	通信 *	電柱被害本数、固定電話の不通回線数、携帯電話の不通ランク	10m メッシュ(津波)、 250m メッシュごと
	ガス	供給停止戸数	250m メッシュごと
交通施設	道路	被害箇所数	直轄国道、直轄国道以外
	鉄道	被害箇所数	新幹線、在来線
	港湾	港湾岸壁施設等の被害箇所数	港湾施設ごと
生活への影響	避難者 *	避難者数（避難所、避難所外）	市町ごと
	帰宅困難者 *	帰宅困難者数、滞留者数	市区町ごと
	物資不足量（食料、飲料水、毛布、仮設トイレ） *	食料、飲料水、毛布、仮設トイレの不足量	市町ごと
	医療機能支障 *	要転院患者数、医療需要過不足数	二次医療圏ごと
災害廃棄物等	災害廃棄物、津波堆積物 *	災害廃棄物発生量、津波堆積物発生量	市町ごと
その他の被害	エレベータ内閉じ込め	エレベータ停止台数・閉込め者数	市町ごと
	道路閉塞	幅員 13m 以下道路リンク閉塞率	250m メッシュごと
	要配慮者	要配慮者数（避難所）	市町ごと
	危険物施設・コンビナート施設	被害箇所数	市町ごと
	文化財 *	被害件数	文化財ごと
	孤立集落	孤立集落数	孤立集落ごと
	ため池の決壊	危険度ランク	ため池ごと
	漁船・水産関連施設	漁船被害数、かき筏被害数	漁業施設ごと
	重要施設 *	災害対策拠点施設、避難拠点施設、医療拠点施設の機能支障の程度	重要施設ごと
経済被害	直接被害 *	被害額	市町ごと
	間接被害 *	被害額	県域

*：条件により被害量が異なる想定項目

表 I.5.3-2 被害想定項目（定性評価）

想定項目		想定単位
交通施設被害	空港の使用可能性	空港単位
その他の被害	長周期地震動	県域
	道路上への落石・崩土	
	交通人的被害（道路）	
	交通人的被害（鉄道）	
	宅地造成地	
	大規模集客施設等	
	地下街・ターミナル駅	
	災害応急対策等	
	地盤沈下による長期湛水	
	複合災害	
	治安	

(2) 被害想定実施シーン

季節・時刻・風速条件により被害量が異なるものは、条件の違いを考慮して次のシーンについて被害想定を行う。

表 I.5.3-3 被害想定実施シーン

想定項目		想定する被害量	被害想定実施シーン					
			冬 深夜		夏 12 時		冬 18 時	
			風速 5m/s	風速 11m/s	風速 5m/s	風速 9m/s	風速 5m/s	風速 11m/s
建物被害	地震火災	全壊棟数、半壊棟数	○	○	○	○	○	○
人的被害	建物倒壊	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○		○		○	
	土砂災害	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○		○		○	
	津波 (破壊に伴う浸水被害も含む)	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○		○		○	
	地震火災	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○	○	○	○	○	○
	ブロック塀等・自動 販売機の転倒、屋外 落下物	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○		○		○	
	屋内収容物移動・転 倒、屋内落下物	死者数、負傷者数、重傷者数、 軽傷者数	○		○		○	
	揺れによる建物被害に 伴う要救助者 (自力脱出困難者)	自力脱出困難者数	○		○		○	
	津波被害に伴う要 救助者・要搜索者	要救助者数、要搜索者数	○		○		○	
	災害関連死	死者数	—	—	—	—	—	○
ライフライン	上水道	被害箇所数、断水人口	—	—	—	—	—	○
	下水道	管渠被害延長、機能支障人口	—	—	—	—	—	○
	電力	電柱被害本数、停電軒数	—	—	—	—	—	○
	通信	電柱被害本数、固定電話の不 通回線数、携帯電話の不通ラ ンク	—	—	—	—	—	○
	ガス	供給停止率	—	—	—	—	—	○
生活への影響	避難者	避難者数(避難所、避難所外)	—	—	—	—	—	○
	帰宅困難者	帰宅困難者数、滞留者数	—	—	○		—	—
	物資不足量(食料、 飲料水、毛布、仮設 トイレ)	食料、飲料水、毛布、仮設ト イレの不足量	—	—	—	—	—	○
	医療機能支障	要転院患者数、医療需要過不 足数	—	○	—	—	—	—
災害廃棄物等	災害廃棄物	災害廃棄物発生量	—	—	—	—	—	○
	津波堆積物	津波堆積物発生量	○					
その他	文化財	文化財被害件数(国宝、重要 文化財)	—	—	—	—	—	○
	重要施設	災害対策拠点施設、避難拠点 施設、医療拠点施設の機能支 障程度	—	—	—	—	—	○
経済被害	直接被害	被害額	—	—	—	—	—	○
	間接被害	被害額	—	—	—	—	—	○

○：被害想定実施シーン

4 被害想定手法及び前提条件

内閣府の「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」が、東日本大震災の被害実態等、最新の科学的知見に基づき示した被害想定手法を参考に、次の手順で被害を想定した。

(1) 被害想定手法及び前提条件の検討

ア 地震動の予測手法

南海トラフ巨大地震は、内閣府の予測結果を、それ以外の地震は近年の被害想定手法の進展を踏まえ、統計的グリーン関数法、地盤応答計算等の手法を用いた。防災科学技術研究所の地震ハザードステーション(J-SHIS)が公開している震源断層を特定した地震動予測地図などを参考に、再現性の検証を行い、より詳細な手法を決定した。

イ 液状化危険度の予測及び地盤沈下量の想定手法

内閣府の手法を参考として、東日本大震災の実態を踏まえた最新の液状化危険度評価手法を採用した。

ウ 土砂災害・建物被害の想定手法

内閣府の手法を参考として、土砂災害警戒区域に適用するにあたり、耐震ランクの設定方法や対策工の考慮方法について検討を行い、手法を決定した。

エ 津波浸水想定手法

津波浸水想定は、「津波浸水想定の設定の手引き Ver. 2.11（国土交通省・国土技術政策総合研究所、2023年4月）」に基づき浸水シミュレーションを実施した。

オ 人的・物的・ライフライン・経済被害の想定手法

内閣府の「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」の手法を参考とした。ただし、津波にかかわる想定的前提条件の設定、漁船・かき筏の被害に関する想定、ため池の決壊や重要施設の被害に関する評価、広島市の経済中枢性に着目した経済被害の想定(パラメータの設定)等については、本県独自の検討を行った。

カ 津波に係る被害想定条件

1) 構造物（護岸、堤防、防波堤、水門等）の取扱

震度6弱以上の地域では、堤防に亀裂が発生したり、水門の機能支障が発生するなど、海岸構造物が十分に機能しない場合が考えられる（阪神・淡路大震災では、震度6強以上の地域で約半数、震度6弱の地域で約1/3の水門に機能支障が生じた）。

そこで、震度6強以上の範囲では1/2、震度6弱の範囲では1/3の割合で堤防や水門等の構造物の機能支障が発生すると仮定し、被害想定を行った。

2) 津波に対する避難行動

津波に対する避難行動の違いは、地域住民の意識によって変化する。

本調査の想定では、内閣府（2025a）³⁵ が示した東日本大震災や日本海中部地震等の過去の災害事例を参考とした 4 つの避難パターンのうち、本県の過去の津波災害事例の少なさなどを考慮し、早期避難者率が低い場合（地震発生後すぐに避難する者の割合を 20%、避難するが、すぐには避難しない者の割合を 50%、切迫避難※あるいは避難しない者の割合 30%）と設定し、被害想定を行った。

また、津波避難ビルが浸水域内に設定されているところでは、津波避難ビルによる人的被害軽減効果を考慮して被害想定を行った。

※ 切迫避難：揺れがおさまった後、すぐには避難せず、なんらかの行動をしている最中に津波が迫って来てからとる避難行動

（2） 自然状況や社会状況データの収集・整理

ア 地震動・液状化

想定に必要な地盤データは、前回調査の報告書作成時に構築されたデータをベースに、新たに収集した大規模盛土造成地のデータを地盤モデルに反映させた。

イ 土砂災害警戒区域

対策工事の完了状況などを含む、土砂災害（特別）警戒区域に対する最新の基礎調査のデータを収集した。

ウ 津波浸水

必要な海域、陸域の地形データは、最新の測量成果（レーザー測量データなど）を収集した。また、護岸、堤防、防波堤、水門等の構造物のデータについても、最新の測量成果を収集した。

エ 社会状況

建物や人口の分布、産業構造等の社会状況データは、全て最新のデータを収集した。

（3） 被害量の算定

- ・ 県内を 250m×250m に区分したメッシュを基本として被害量を算定した。
- ・ 建物被害は、複数の要因で重複して被害を起こす可能性がある（例；揺れによって全壊した後に津波で流失）。本調査では、被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→土砂災害→津波→火災焼失」の順番で被害の要因を割り当てることとした。

- ・ 土砂災害警戒区域、港湾施設、重要施設、ため池などについては、区域・施設毎に被害を想定した。
- ・ 空港、大規模集客施設等、地下街・ターミナル駅などについては、定量的な被害想定手法が確立していないため、定性的に被害を想定した。

5 被害想定の流れ

被害想定全体の流れを図 I.5.5-1 に示した。

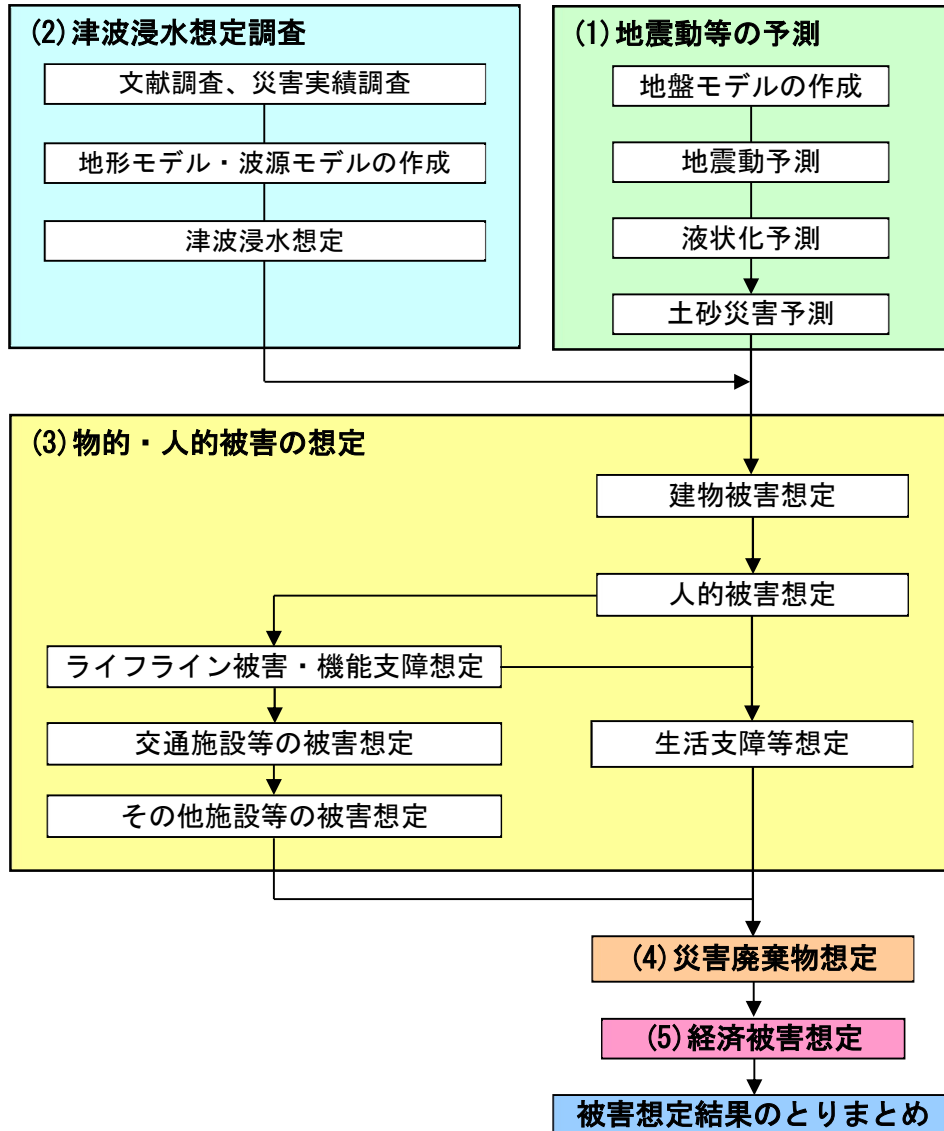


図 I.5.5-1 被害想定の流れ

第 6 章 被害想定結果の概要

既に明らかとなっている断層等を震源とする地震の被害想定結果の概要は次のとおりである。

なお、どこでも起こりうる直下の地震の被害想定結果の概要は、第Ⅱ編で示す。

1 概要

表 I.6.1-1(1) 被害想定結果一覧表（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）

想定項目	想定地震	南海トラフ巨大地震		安芸灘～伊予灘～豊後水道	讃岐山脈南縁西部区間
		陸側ケース 津波ケース1	陸側ケース 津波ケース4	南から破壊	西から破壊
	マグニチュード	9.0		7.4	8.0
	地震タイプ	プレート間		プレート内	地殻内
	今後30年以内の発生確率	60～90%程度以上		40%程度	ほぼ0～0.4%
地震動・液状化	最大震度7の市町	-		-	-
	県全面積に対する震度7の面積率	-		-	-
	最大震度6強の市町	三原市、尾道市、福山市、大竹市		広島市、呉市、竹原市 三原市、尾道市 福山市、東広島市 海田町、熊野町、坂町 大崎上島町	福山市
	県全面積に対する震度6強の面積率	0.3%		0.9%	0.1%未満
	最大震度6弱の市町エリア	広島市、呉市、竹原市、府中市、東広島市 廿日市市、安芸高田市、江田島市、府中町 海田町、熊野町、坂町、大崎上島町、世羅町		三次市、大竹市、 廿日市市、安芸高田市 江田島市、府中町 安芸太田町、北広島町 世羅町	三原市、尾道市
	県全面積に対する震度6弱の面積率	8.6%		14.0%	0.3%
土砂災害	県全面積に対する液状化危険度面積率（PL15の面積率）		7.8%	10.6%	1.2%
	①急傾斜地 ②地滑り	危険度ランクが高い箇所	3,520 9	5,411 7	143 1
津波被害	津波浸水深1cm以上の面積（ha）		12,029 11,611	6,653	6,412
建物被害	全壊の主な原因		液状化	液状化	津波
	全壊棟数（棟）		89,819	89,949	73,373
	半壊棟数（棟）		245,922	244,378	240,154
	焼失棟数（棟） *1		917	919	1,550
人的被害	死傷者数が最大となる発災季節・時間		冬深夜	夏12時	冬深夜
	死傷者の主な原因		津波	津波	津波
	死者数（人）		12,125	13,797	13,009
	負傷者数（人）		10,584	8,510	13,404
	重傷者数（負傷者の内数）（人）		1,526	1,395	1,634
ライフライン施設被害	上水道（1日後の断水人口）（人） *1		652,942	663,546	539,532
	下水道（1日後の機能支障人口）（人） *1		867,621	865,607	634,409
	電力（直後の停電軒数） *1		130,551	123,650	79,324
	通信（直後の固定電話不通回線数） *1		35,129	35,201	19,631
	ガス（1日後の供給停止戸数） *1		64,479	64,479	90,129
交通施設被害	道路（被害箇所数）		1,359	1,348	1,311
	鉄道（被害箇所数）		800	797	842
	港湾（揺れによる被害箇所数）		228	228	187
生活支障	避難所避難者数（当日・1日後）（人） *1		470,367	463,158	420,287
	帰宅困難者数（人） *3		135,826	135,826	135,826
	食料の不足量（当日・1日後）（食） *1		1,516,174	1,489,248	1,329,600
	仮設トイレの不足量（当日・1日後）（基） *1		0	0	0
	医療機能支障（医療需要過不足数）（＜0：不足） *2		-11,636	-12,084	-14,556
災害廃棄物	災害廃棄物発生量		災害廃棄物（万t） 津波堆積物（万t） *1	2,223 785	2,199 721
				1,861 399	725 408
その他施設等被害	エレベータ内閉じ込め者数（人） *4		234	230	203
	道路閉塞（幅員13m未満）（%） 道路リンク10～50%以下		5.8	5.8	6.7
	要配慮者数（当日・1日後）（人） *1		116,109	114,273	103,137
	危険物施設の被害箇所数（箇所）		57	57	66
	文化財の被害件数（件） *1		6	5	6
	孤立集落（集落）		16	16	74
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の箇所数）		159	159	266
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の被害人口）		105,888	105,888	55,920
	重要施設	①災害対策本部等	272	272	285
		②避難拠点施設	2,797	2,797	2,963
		③医療施設	310	310	313
		使用に支障のある施設数（棟） *1			
経済被害	直接被害（億円） *1		157,040	155,393	151,563
	間接被害（億円） *1		31,586	31,606	29,151
	合計（億円）		188,626	186,999	180,714

※ は、被害の最大値を示す

※ 県全面積は8,478km²

*1：冬 18時、風速11m/s

*2：冬 深夜、風速11m/s

*3：昼12時

*4：朝7時～8時

*5：ライフライン施設の被害想定に関し、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.1-1(2) 被害想定結果一覧表（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）

想定項目			想定地震	石鎚山脈北縁区間	石鎚山脈北縁西部区間	伊予灘区間	中央構造線断層帯 (4運動)
				西から破壊	西から破壊	西から破壊	西から破壊
			マグニチュード	7.3	7.5	8.1	8.8
			地震タイプ	地殻内	地殻内	地殻内	地殻内
今後30年以内の発生確率			0.02%以下	ほぼ0～12%	ほぼ0%	不明	
地震動・ 液状化	最大震度7の市町		-	-	-	-	
	県全面積に対する震度7の面積率		-	-	-	-	
	最大震度6強の市町		-	-	-	福山市	
	県全面積に対する震度6強の面積率		-	-	-	0.1%未満	
	最大震度6弱の市町エリア		三原市、尾道市 福山市	尾道市	-	呉市、三原市、尾道市	
	県全面積に対する震度6弱の面積率		0.1%未満	0.1%未満	-	0.4%	
県全面積に対する液状化危険度面積率（PL>15の面積率）			0.3%	0.2%	0.1%未満	1.9%	
土砂 災害	①急傾斜地	危険度ランクが高い箇所	17	16	3	206	
	②地滑り		0	0	0	1	
津波 被害	津波の浸水面積（ha）		4,538	4,681	4,681	6,676	
建物 被害	全壊の主な原因		津波	津波	津波	津波	
	全壊棟数（棟）		9,812	10,422	9,827	28,353	
	半壊棟数（棟）		53,971	55,810	53,500	105,704	
	焼失棟数（棟）		*1 0	0	0	17	
人的 被害	死傷者数が最大となる発災季節・時間		冬深夜	冬深夜	冬深夜	冬深夜	
	死傷者の主な原因		津波	津波	津波	津波	
	死者数（人）		11,689	12,056	12,056	12,887	
	負傷者数（人）		3,492	3,241	3,234	3,106	
	重傷者数（負傷者の内数）（人）		1,184	1,099	1,099	972	
ライフ ライン 施設 被害	上水道（1日後の断水人口）（人）		*1 67,153	69,389	68,076	197,234	
	下水道（1日後の機能支障人口）（人）		*1 329,959	339,165	339,379	357,295	
	電力（直後の停電軒数）		*1 36,257	37,416	37,313	54,448	
	通信（直後の固定電話不通回線数）		*1 8,041	8,294	8,233	16,423	
	ガス（1日後の供給停止戸数）		*1 50,956	50,956	50,956	50,956	
交通施 設被害	道路（被害箇所数）		202	220	208	417	
	鉄道（被害箇所数）		122	136	125	221	
	港湾（揺れによる被害箇所数）		5	8	3	45	
生活 支障	避難所避難者数（当日・1日後）（人）		*1 163,133	166,579	164,518	235,378	
	帰宅困難者数（人）		*3 26,999	47,519	83,372	128,357	
	食料の不足量（当日・1日後）（食）		*1 299,160	314,160	303,491	604,850	
	仮設トイレの不足量（当日・1日後）（基）		*1 0	0	0	0	
	医療機能支障（医療需要過不足数）（＜0：不足）		*2 -4,622	-4,406	-4,400	-4,330	
災害廃 棄物	災害廃棄物発生量		災害廃棄物（万t） 津波堆積物（万t）	*1 *1	434 -	449 -	434 403
	エレベータ内閉じ込め者数（人）		*4 64	51	42	75	
その他 施設等 被害	道路閉塞（幅員13m未満）（%）		道路リンク10～50%以下	0.0	0.1	0.0	0.6
	要配慮者数（当日・1日後）（人）		*1 39,537	40,424	39,858	57,812	
	危険物施設の被害箇所数（箇所）		0	0	0	1	
	文化財の被害件数（件）		*1 2	2	2	2	
	孤立集落（集落）		0	0	0	2	
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の箇所数）		0	0	0	7	
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の被害人口）		0	0	0	2,364	
	重要施設	①災害対策本部等	使用に支障のある施設数 （棟）	*1 2	1	0	14
		②避難拠点施設		3	7	0	189
		③医療施設		0	0	0	14
	経済 被害	直接被害（億円）		*1 26,887	28,131	27,318	53,047
		間接被害（億円）		*1 5,732	5,702	7,179	15,318
合計（億円）		32,619	33,833	34,497	68,365		

※ は、被害の最大値を示す

※ 県全面積は8,478km²

*1：冬 18時，風速11m/s

*2：冬 深夜，風速11m/s

*3：昼12時

*4：朝7時～8時

*5：ライフライン施設の被害想定に関し、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.1-1(3) 被害想定結果一覧表（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）

想定項目		想定地震	己斐断層区間	五日市断層区間	岩国断層区間	岩国～五日市断層帯 (3運動)
			南から破壊	南から破壊	南から破壊	岩国断層区間 南から破壊
		マグニチュード	7.1	7.2	7.6	8.1
		地震タイプ	地殻内	地殻内	地殻内	地殻内
今後30年以内の発生確率		不明	不明	0.03～2%	不明	
地震動・ 液状化	最大震度7の市町		－	－	－	－
	県全面積に対する震度7の面積率		－	－	－	－
	最大震度6強の市町		広島市	広島市、廿日市市	大竹市、廿日市市	広島市、大竹市 廿日市市、府中町 海田町、坂町 安芸太田町
	県全面積に対する震度6強の面積率		0.5%	1.0%	0.3%	2.1%
	最大震度6弱の市町エリア		東広島市、廿日市市 府中町、海田町 熊野町、坂町 安芸太田町	大竹市、府中町 海田町、坂町 安芸太田町	広島市、江田島市	呉市、東広島市、 安芸高田市、江田島市 熊野町、安芸太田町 北広島町
	県全面積に対する震度6弱の面積率		3.5%	4.1%	1.9%	7.8%
	県全面積に対する液状化危険度面積率（PL>15の面積率）		3.3%	3.5%	1.8%	4.4%
土砂 災害	①急傾斜地	危険度ランクが高い箇所	2,055	2,023	541	3,717
	②地滑り		0	1	2	3
津波 被害	津波の浸水面積（ha）		－	－	－	－
建物 被害	全壊の主な原因		液状化	液状化	液状化	液状化
	全壊棟数（棟）		49,447	42,177	21,955	64,411
	半壊棟数（棟）		137,110	117,721	67,454	153,374
	焼失棟数（棟）＊1		2,887	1,633	397	4,105
人的 被害	死傷者数が最大となる発災季節・時間		冬18時	冬18時	冬18時	冬深夜
	死傷者の主な原因		建物倒壊	建物倒壊	建物倒壊	建物倒壊
	死者数（人）		1,060	593	66	2,105
	負傷者数（人）		9,016	5,191	788	16,652
	重傷者数（負傷者の内数）（人）		1,043	581	46	2,570
ライフ ライン 施設 被害	上水道（1日後の断水人口）（人）＊1		243,929	171,299	63,210	373,154
	下水道（1日後の機能支障人口）（人）＊1		82,349	53,358	19,284	118,708
	電力（直後の停電軒数）＊1		28,133	21,679	9,925	37,025
	通信（直後の固定電話不通回線数）＊1		8,178	6,471	3,094	11,170
	ガス（1日後の供給停止戸数）＊1		150,165	29,701	0	206,901
交通施 設被害	道路（被害箇所数）		523	485	307	667
	鉄道（被害箇所数）		389	298	189	476
	港湾（揺れによる被害箇所数）		24	21	21	45
生活 支障	避難所避難者数（当日・1日後）（人）＊1		256,770	220,268	117,849	303,121
	帰宅困難者数（人）＊3		129,572	126,696	124,651	130,490
	食料の不足量（当日・1日後）（食）＊1		615,195	479,157	104,548	788,773
	仮設トイレの不足量（当日・1日後）（基）＊1		0	0	0	0
	医療機能支障（医療需要過不足数）（＜0：不足）＊2		－11,474	－6,547	－916	－16,737
災害廃 棄物	災害廃棄物発生量	災害廃棄物（万t）＊1	1,052	906	474	1,304
		津波堆積物（万t）＊1	－	－	－	－
その他 施設等 被害	エレベーター内閉じ込め者数（人）＊4		114	98	67	130
	道路閉塞（幅員13m未満）（％）道路リンク10～50％以下		4.3	3.7	2.7	5.4
	要配慮者数（当日・1日後）（人）＊1		61,362	52,681	28,383	72,580
	危険物施設の被害箇所数（箇所）		36	25	28	79
	文化財の被害件数（件）＊1		2	1	0	4
	孤立集落（集落）		28	46	2	103
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の箇所数）		15	18	10	38
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の被害人口）		9,276	8,488	1,284	18,616
	重要施設	①災害対策本部等	173	171	96	194
		②避難拠点施設	1,538	1,456	985	1,801
		③医療施設	174	165	131	182
経済 被害	直接被害（億円）＊1		108,075	92,133	51,368	128,398
	間接被害（億円）＊1		21,545	18,879	12,757	26,925
	合計（億円）		129,621	111,012	64,124	155,323

※ は、被害の最大値を示す

※ 県全面積は8,478km²

*1：冬 18時、風速11m/s

*2：冬 深夜、風速11m/s

*3：昼12時

*4：朝7時～8時

*5：ライフライン施設の被害想定に關し、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.1-1(4) 被害想定結果一覧表（既に明らかとなっている断層等を震源とする地震）

想定項目		想定地震	安芸灘断層帯	広島湾－岩国冲断層帯	長者ヶ原断層－芳井断層	筒賀断層	
			南から破壊	南から破壊	北から破壊	北から破壊	
		マグニチュード	7.2	7.5	7.3	7.8	
		地震タイプ	地殻内	地殻内	地殻内	地殻内	
今後30年以内の発生確率		0.1～10%	不明	不明	不明		
地震動・液状化	最大震度7の市町		-	-	福山市	安芸太田町 北広島町	
	県全面積に対する震度7の面積率		-	-	0.1%未満	0.1%未満	
	最大震度6強の市町		-	広島市、大竹市 廿日市市	尾道市、府中市	広島市、廿日市市	
	県全面積に対する震度6強の面積率		-	0.5%	1.7%	2.9%	
	最大震度6弱の市町エリア		呉市、大竹市 江田島市	呉市、江田島市、坂町	竹原市、三原市 世羅町、神石高原町	府中町、海田町 安芸太田町	
	県全面積に対する震度6弱の面積率		0.1%	3.3%	3.9%	10.7%	
県全面積に対する液状化危険度面積率（PL15の面積率）		0.9%	3.3%	3.3%	4.0%		
土砂災害	①急傾斜地	危険度ランクが高い箇所	192	1,434	2,203	2,312	
	②地滑り		1	1	13	16	
津波被害	津波の浸水面積（ha）		4,471	4,580	-	-	
建物被害	全壊の主な原因		津波	液状化	揺れ	液状化	
	全壊棟数（棟）		13,815	45,079	28,059	34,258	
	半壊棟数（棟）		71,399	145,405	78,860	101,006	
	焼失棟数（棟）※1		16	976	893	773	
人的被害	死傷者数が最大となる発災季節・時間		冬深夜	冬深夜	冬深夜	冬18時	
	死傷者の主な原因		津波	津波	建物倒壊	建物倒壊	
	死者数（人）		10,812	10,450	1,151	278	
	負傷者数（人）		3,844	7,390	7,679	2,879	
	重傷者数（負傷者の内数）（人）		1,251	1,395	1,286	272	
ライフライン施設被害	上水道（1日後の断水人口）（人）※1		78,941	208,782	334,209	128,941	
	下水道（1日後の機能支障人口）（人）※1		251,508	284,648	40,459	27,402	
	電力（直後の停電軒数）※1		36,136	46,761	8,354	14,721	
	通信（直後の固定電話不通回線数）※1		8,069	11,395	4,950	4,858	
	ガス（1日後の供給停止戸数）※1		50,956	76,913	30,500	0	
交通施設被害	道路（被害箇所数）		296	582	405	543	
	鉄道（被害箇所数）		167	350	268	251	
	港湾（揺れによる被害箇所数）		32	57	64	7	
生活支障	避難所避難者数（当日・1日後）（人）※1		182,760	306,607	81,540	168,348	
	帰宅困難者数（人）※3		122,103	126,696	56,060	132,150	
	食料の不足量（当日・1日後）（食）※1		389,965	847,953	0	289,137	
	仮設トイレの不足量（当日・1日後）（基）※1		0	0	0	0	
	医療機能支障（医療需要過不足数）（＜0：不足）※2		-4,876	-8,333	-7,751	-3,573	
災害廃棄物	災害廃棄物発生量		災害廃棄物（万t）※1	535	1,151	551	
	津波堆積物（万t）※1		269	276	-	-	
その他施設等被害	エレベータ内閉じ込め者数（人）※4		53	116	46	77	
	道路閉塞（幅員13m未満）（%）道路リンク10～50%以下		0.5	3.8	1.7	3.8	
	要配慮者数（当日・1日後）（人）※1		44,462	74,027	20,861	40,501	
	危険物施設の被害箇所数（箇所）		0	42	49	13	
	文化財の被害件数（件）※1		2	15	6	1	
	孤立集落（集落）		0	5	43	91	
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の箇所数）		2	11	273	43	
	ため池（災害発生の危険性が高いため池の被害人口）		148	5,312	194,964	4,212	
	重要施設	①災害対策本部等	使用に支障のある施設数（棟）※1	8	148	55	167
		②避難拠点施設		175	1,361	753	1,468
		③医療施設		18	148	89	156
	経済被害	直接被被害（億円）※1		38,654	100,962	36,146	75,351
間接被害（億円）※1		6,394	20,011	20,832	11,994		
合計（億円）		45,048	120,973	56,978	87,345		

※ は、被害の最大値を示す

※ 県全面積は8,478km²

*1：冬 18時, 風速11m/s

*2：冬 深夜, 風速11m/s

*3：昼12時

*4：朝7時～8時

*5：ライフライン施設の被害想定に関し、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

2 地震動等の予測

(1) 地震動

想定地震の規模、震源からの距離、地盤条件等をもとに、250m メッシュ毎の震度分布を想定した。各想定地震における県全面積に対する震度別の面積割合を表 I.6.2-1 に示した。

南海トラフ巨大地震については、内閣府（2025a）³⁵ が示した「基本ケース」、「陸側ケース」、「東側ケース」、「西側ケース」の4つの強震断層モデルと、これを補完するための「経験的手法」及びこれらの震度の最大値の「重ね合わせ」の地震動の予測を行い、これらの中から「重ね合わせ」を除き、最も震度が大きくなる「陸側ケース」について記した。

南海トラフ巨大地震以外の地震では、想定断層の両端に破壊開始点を設定した2ケースの地震動の予測を行い、このうち震度が大きくなるケースについて記した。

ア 南海トラフ巨大地震

陸側ケースにおいて、三原市及び島しょ部の平地の一部地域で震度6強となる。また、県南部の広い範囲の海沿いの平地と内陸の河川沿いの平地で震度6弱、県東部から西部の沿岸部から内陸部に及ぶ広い範囲で震度5強の地域が見られる。

なお、建物被害が発生しはじめる震度6弱以上の面積は、県全体の8.9%を占める。

イ 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震

南から破壊のケースにおいて、県中央部の内陸部及び沿岸部ならびに島しょ部の平地の一部地域で震度6強となる。また、県南部の広い範囲の平地や河川沿いで震度6弱、県中央部の沿岸部から東広島市の内陸部を中心とする広い範囲で震度5強の地域が見られる。震度6弱以上の面積は、県全体の14.9%を占め、想定地震の中で最も広い。

ウ 中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）の地震

西からの破壊ケースにおいて、島しょ部の平地の一部地域で震度6強となる。また、その周辺の平地及び県東部の沿岸部ならびに島しょ部の平地の一部地域で震度6弱、県東部の河川沿いを中心に震度5強となる。震度6弱以上の面積は、県全体の0.3%を占める。

エ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、県南部の沿岸部及び島しょ部の平地の一部地域で震度5強となる。また、島しょ部の平地の一部で震度6弱となるが、その範囲は狭く、震度6弱以上の面積は、県全体の0.1%未満となる。

オ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、県南部の沿岸部及び島しょ部の平地の一部地域で震度 5 強となる。また、島しょ部の平地の一部で震度 6 弱となるが、その範囲は狭く、震度 6 弱以上の面積は、県全体の 0.1%未満となる。

カ 中央構造線断層帯（伊予灘区間）の地震

西からの破壊ケースにおいて、県東部及び県西部の沿岸部ならびに島しょ部の平地の一部地域で震度 5 強となる。震度 6 弱以上となる地域はない。

キ 中央構造線断層帯（4 連動）の地震

西からの破壊ケースにおいて、島しょ部の平地の一部地域で震度 6 強となる。また、その周辺の平地及び県東部の沿岸部ならびに島しょ部の平地の一部地域で震度 6 弱、県東部の河川沿いを中心に震度 5 強となる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 0.4%を占める。

ク 岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）

南からの破壊ケースにおいて、広島市を中心とする県西部の平地の一部地域で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 4.0%を占める。

ケ 岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、広島市を中心とする県西部の沿岸部及び平地の一部地域で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 5.1%を占める。

コ 岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、岩国市を中心とする県西部の沿岸部及び平地の一部地域で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 2.2%を占める。

サ 岩国－五日市断層帯（3 連動）の地震

岩国断層区間南から破壊のケースにおいて、大竹市及び広島市を中心とする県西部の沿岸部及び平地の一部地域で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 9.9%を占める。

シ 安芸灘断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、呉市、大竹市及び江田島市の一部地域で震度 6 弱となり、その周辺で震度 5 強となる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 0.1%を占める。

ス 広島湾－岩国沖断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、厳島を中心とする県西部の広島湾周辺の沿岸部及び島しょ部の平地の一部地域で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 3.8%を占める。

セ 長者ヶ原断層－芳井断層の地震

北から破壊のケースにおいて、福山市のごく狭い範囲で震度 7 となる。また、福山市を中心とする県東部の沿岸部及び島しょ部の平地で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の南東部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 5.6%を占める。

ソ 筒賀断層の地震

北から破壊のケースにおいて、安芸太田町及び北広島町のごく狭い範囲で震度 7 となる。また、広島市及び廿日市市を中心とする県北西部の山間部で震度 6 強となり、その周辺で震度 6 弱となる。更にその周辺で震度 5 強となるが、その範囲は県の北西部に限られる。震度 6 弱以上の面積は、県全体の 13.6%を占める。

表 I. 6. 2-1 震度別の面積割合

想定地震		マグニ チュード	震度 面積割合 (%) ※1					
			4 以下	5 弱	5 強	6 弱	6 強	7
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	81.2	14.6	4.1	0.1未満	－	－
	陸側ケース		8.2	48.9	34.1	8.6	0.3	－
	東側ケース		70.0	25.0	4.8	0.2	－	－
	西側ケース		71.0	23.3	5.5	0.2	－	－
	経験的手法※2		21.8	50.8	22.6	4.7	0.1未満	－
	重ね合わせ※3		8.1	47.9	34.8	8.9	0.3	－
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	25.0	35.5	27.7	11.6	0.3	－
	南から破壊		15.3	37.7	32.1	14.0	0.9	－
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	92.9	5.0	1.8	0.3	0.1未満	－
	西から破壊		93.7	4.2	1.8	0.3	0.1未満	－
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	97.9	1.8	0.3	－	－	－
	西から破壊		98.0	1.7	0.3	0.1未満	－	－
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	96.7	2.9	0.3	－	－	－
	西から破壊		96.6	2.9	0.4	0.1未満	－	－
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	98.5	1.4	0.1未満	－	－	－
	西から破壊		98.0	1.9	0.1	－	－	－
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	90.1	7.4	2.2	0.3	0.1未満	－
	西から破壊		87.0	9.8	2.8	0.4	0.1未満	－
岩国 - 五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	74.0	15.2	7.4	3.0	0.4	－
	南から破壊		72.9	14.9	8.2	3.5	0.5	－
岩国 - 五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	74.1	12.6	8.6	3.8	0.9	－
	南から破壊		69.4	16.2	9.3	4.1	1.0	－
岩国 - 五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	87.7	7.3	3.6	1.3	0.2	－
	南から破壊		80.8	11.8	5.2	1.9	0.3	－
岩国 - 五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	66.0	15.0	10.4	7.3	1.3	－
	五日市断層区間 北から破壊		66.2	14.9	10.9	6.8	1.3	－
	岩国断層区間 北から破壊		59.4	17.2	13.5	7.8	2.1	－
	岩国断層区間 南から破壊		59.4	17.2	13.5	7.8	2.1	－
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	94.9	4.0	1.0	0.1未満	－	－
	南から破壊		91.1	6.4	2.3	0.1	－	－
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	82.0	9.5	5.7	2.4	0.4	0.1未満
	南から破壊		73.8	14.4	7.9	3.3	0.5	－
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	75.9	10.7	7.7	3.9	1.7	0.1未満
	南から破壊		77.5	11.0	6.5	3.2	1.7	0.1未満
筒賀断層	北から破壊	7.1	57.3	15.3	13.8	10.7	2.9	0.1未満
	南から破壊		53.2	18.2	15.1	10.7	2.9	0.1未満

※1：県全面積は8,478km²

※2：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※3：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

(2) 液状化

震度分布と土質状況をもとに、250m メッシュごとの液状化の危険度を示す P_L 値分布を想定した。

各想定地震における県全面積に対する液状化危険度判定基準別の面積割合を表 I.6.2-3(1)に示した。このとき、液状化の危険度の判定は、液状化可能性のある震度 5 弱以上の範囲で行い、震度 4 以下の場合、 $P_L=0$ とした。

南海トラフ巨大地震については、内閣府 (2025a) ³⁵ が示した「基本ケース」、「陸側ケース」、「東側ケース」、「西側ケース」の 4 つの強震断層モデルと、これを補完するための「経験的手法」及びこれらの震度の最大値の「重ね合わせ」の P_L 値分布の想定を行い、これらの中から「重ね合わせ」を除き、最も P_L 値が大きくなる「陸側ケース」について記した。

南海トラフ巨大地震以外の地震では、想定断層の両端に破壊開始点を設定した 2 ケースの地震動の P_L 値分布の想定を行い、このうち P_L 値が大きくなるケースについて記した。

P_L 値による液状化危険度判定基準は次のとおりである。

表 I.6.2-2 液状化危険度

液状化危険度	P_L 値
液状化危険度が極めて高い (以下「極めて高い」)	$30 < P_L$
液状化危険度がかなり高い (以下「かなり高い」)	$15 < P_L \leq 30$
液状化危険度が高い (以下「高い」)	$5 < P_L \leq 15$
液状化危険度が低い (以下「低い」)	$0 < P_L \leq 5$
液状化危険度がかなり低い (以下「かなり低い」)	$P_L=0$

また、建物被害想定に使用する沈下量も併せて想定した (表 I.6.2-3(2))。

なお、液状化危険度評価等について、盛土地域においては、他地域と同様に地下水位を地表面下 1.0m とし、 N 値も $N=5$ と軟らかい地盤として設定しており、過大評価となる場合がある。本調査で設定した盛土地域については、図 IV.2.1-7 に示す。

ア 南海トラフ巨大地震

陸側ケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部から西部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県全面積の 7.8% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、陸側ケースで県東部から西部の沿岸部及び島しょ部の河川沿いの広い範囲で 0.1~0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.5% を占める。

イ 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部から西部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に広く分布し、県全面積の 10.6% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部から西部の沿岸部の河川沿いの広い範囲で 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 2.7% を占める。

ウ 中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県全面積の 1.2% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部の沿岸部の河川沿いで 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 0.1% を占める。

エ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県全面積の 0.3% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部の沿岸部の河川沿いで 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、0.3m 以上沈下する地域はごくわずかな範囲であり、県全面積の 0.1% 未満となる。

オ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部及び中央部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県全面積の 0.2% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部及び中央部の沿岸部で 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、0.3m 以上沈下する地域はごくわずかな範囲であり、県全面積の 0.1% 未満となる。

カ 中央構造線断層帯（伊予灘区間）の地震

西から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部及び県中央部の沿岸部、並びに島しょ部の沿岸平地に分布するが、分布範囲は狭く、県全面積の 0.1% 未満となる。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部及び中央部の沿岸部で 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、0.3m 以上沈下する地域はない。

キ 中央構造線断層帯（4 連動）の地震

西から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部から西部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県

全面積の 1.9%を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部から西部の沿岸部の河川沿いで 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 0.2%を占める。

ク 岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域（ $P_L > 15$ ）は、県西部の太田川三角州や広島湾沿岸の平地部に分布し、県全面積の 3.3%を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の太田川三角州や広島湾沿岸の平地部に 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.4%を占める。

ケ 岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域（ $P_L > 15$ ）は、県西部の太田川三角州や広島湾沿岸の平地部に分布し、県全面積の 3.5%を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の太田川三角州や広島湾沿岸の平地部に 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.4%を占める。

コ 岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域（ $P_L > 15$ ）は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部に分布し、県全面積の 1.8%を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部に 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 0.5%を占める。

サ 岩国－五日市断層帯（3 連動）の地震

岩国断層区間南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域（ $P_L > 15$ ）は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部の広い範囲に分布し、県全面積の 4.4%を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部に 0.1～0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.7%を占める。

シ 安芸灘断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県西部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に分布し、県全面積の 0.9% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の沿岸部及び島しょ部の沿岸平地に 0.1~0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 0.1% を占める。

ス 広島湾－岩国冲断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部に分布し、県全面積の 3.3% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の大竹市から広島湾沿岸や太田川三角州の平地部に 0.1~0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.1% を占める。

セ 長者ヶ原断層－芳井断層の地震

北から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県東部の芦田川三角州や沿岸の平地部に分布し、県全面積の 3.3% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県東部の芦田川三角州や沿岸の平地部に 0.1~0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 0.6% を占める。

ソ 筒賀断層の地震

北から破壊のケースにおいて、液状化危険度が「極めて高い」及び「かなり高い」地域 ($P_L > 15$) は、県西部の太田川三角州や県北西部の中国山地内の平地部に分布し、県全面積の 4.0% を占める。なお、液状化による建物被害を想定するのに用いる沈下量は、県西部の太田川三角州の平地部に 0.1~0.3m 沈下する地域が見られる。また、河川沿いの平地部の一部には 0.3m 以上沈下する地域が分布し、県全面積の 1.3% を占める。

表 I. 6. 2-3(1) 液状化危険度判定基準別の面積割合 (P_L 値)

想定地震		マグニ チュード	液状化危険度 面積割合 (%) ※1				
			かなり低い	低い	高い	かなり高い	極めて高い
			P _L =0	0<P _L ≤5	5<P _L ≤15	15<P _L ≤30	30<P _L
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	90.5	3.2	3.1	3.0	0.3
	陸側ケース		79.5	3.9	8.8	4.6	3.2
	東側ケース		87.5	6.0	2.6	3.5	0.4
	西側ケース		87.7	5.4	2.0	4.5	0.5
	経験的手法※2		80.1	5.3	7.6	4.6	2.3
	重ね合わせ※3		79.5	4.0	8.8	4.5	3.3
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	78.5	2.1	10.4	4.1	4.9
	南から破壊		78.1	2.1	9.2	5.4	5.2
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	96.4	1.1	1.2	1.1	0.1
	西から破壊		96.8	1.0	0.9	1.1	0.1
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	98.8	0.4	0.5	0.2	0.1未満
	西から破壊		98.8	0.4	0.5	0.3	0.1未満
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	98.3	0.9	0.6	0.2	－
	西から破壊		98.1	0.8	0.8	0.2	0.1未満
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	99.5	0.4	0.1未満	0.1未満	－
	西から破壊		99.4	0.5	0.1未満	0.1未満	－
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	95.1	2.0	1.6	1.3	0.1
	西から破壊		93.7	2.3	2.0	1.7	0.2
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	90.6	2.4	3.6	1.0	2.3
	南から破壊		89.9	1.5	5.2	1.0	2.3
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	91.2	3.1	2.5	1.3	2.0
	南から破壊		90.4	2.4	3.7	1.3	2.2
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	96.1	1.9	1.1	0.5	0.4
	南から破壊		94.0	2.0	2.1	1.2	0.6
岩国－五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	89.2	2.8	4.0	1.5	2.5
	五日市断層区間 北から破壊		89.0	2.3	4.8	1.3	2.6
	岩国断層区間 南から破壊		87.7	1.9	6.0	1.6	2.8
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	97.8	1.0	0.7	0.3	0.2
	南から破壊		96.4	1.7	1.0	0.5	0.4
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	93.4	1.8	2.1	1.6	1.0
	南から破壊		91.6	2.5	2.6	1.8	1.5
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	91.9	1.5	3.3	1.7	1.6
	南から破壊		92.5	1.4	3.2	1.4	1.5
筒賀断層	北から破壊	7.1	88.6	3.5	3.9	2.9	1.1
	南から破壊		87.4	3.7	5.1	2.9	1.0

注：震度5弱以上の地域を危険度判定の対象としており、震度4以下についてはP_L=0として評価している※1：県全面積は8,478km²

※2：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※3：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

表 I. 6. 2-3(2) 沈下量の面積割合

想定地震		沈下量 面積割合 (%) ※1				
		S=0. 0m	0. 0m<S<0. 1m	0. 1m≦S<0. 3m	0. 3m≦S<0. 5m	0. 5m≦S
南海トラフ巨大地震	基本ケース	90. 4	5. 4	4. 0	0. 2	－
	陸側ケース	79. 5	15. 0	3. 9	1. 5	－
	東側ケース	87. 5	8. 1	4. 2	0. 2	－
	西側ケース	87. 6	7. 9	4. 3	0. 2	－
	経験的手法※2	80. 1	14. 6	4. 3	1. 1	－
	重ね合わせ※3	79. 5	15. 0	3. 9	1. 6	－
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	78. 5	16. 1	2. 9	2. 5	－
	南から破壊	78. 1	16. 5	2. 8	2. 7	－
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	96. 4	2. 3	1. 2	0. 1	－
	西から破壊	96. 8	1. 9	1. 2	0. 1	－
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	98. 8	1. 1	0. 1	－	－
	西から破壊	98. 8	1. 1	0. 1	0. 1未満	－
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	98. 3	1. 6	0. 1	－	－
	西から破壊	98. 1	1. 7	0. 1	0. 1未満	－
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	99. 5	0. 5	0. 1未満	－	－
	西から破壊	99. 4	0. 6	0. 1未満	－	－
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	95. 1	3. 4	1. 4	0. 1	－
	西から破壊	93. 7	4. 1	2. 0	0. 2	－
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	90. 6	6. 8	1. 3	1. 3	－
	南から破壊	89. 9	7. 4	1. 3	1. 4	－
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	91. 2	6. 4	1. 2	1. 3	－
	南から破壊	90. 4	7. 0	1. 2	1. 4	－
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	96. 1	2. 7	0. 9	0. 3	－
	南から破壊	94. 0	4. 2	1. 3	0. 5	－
岩国－五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	89. 2	8. 1	1. 2	1. 5	－
	五日市断層区間 北から破壊	89. 0	8. 2	1. 2	1. 6	－
	岩国断層区間 南から破壊	87. 7	9. 4	1. 2	1. 7	－
安芸灘断層帯	北から破壊	97. 8	1. 7	0. 4	0. 1未満	－
	南から破壊	96. 4	2. 8	0. 7	0. 1	－
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	93. 4	4. 3	1. 4	0. 9	－
	南から破壊	91. 6	5. 8	1. 4	1. 1	－
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	91. 9	5. 8	1. 7	0. 6	－
	南から破壊	92. 5	5. 3	1. 6	0. 6	－
筒賀断層	北から破壊	88. 6	9. 1	1. 1	1. 3	－
	南から破壊	87. 4	10. 4	1. 0	1. 2	－

注：震度 5 弱以上の地域を危険度判定の対象としており、震度 4 以下については $P_L=0$ として評価している

※1：県全面積は8, 478km²

※2：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※3：基本，陸側，東側，西側，経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

(3) 土砂災害

土砂災害は、大きく「がけ崩れ（急傾斜地崩壊）」、「地すべり」、「土石流」に分類される。このうち「土石流」については、その発生と地震との関連性について予測手法等の知見が確立されていないこと、また、大雨が原因となり降雨後に発生することが多く、警戒避難等による対応が可能であることなどを踏まえ、本調査では、地震直後の土石流の発生やそれによる人的被害は対象外とし、地震を誘因とする斜面崩壊のみを土砂災害の評価対象とした。

本調査における土砂災害の想定は、土砂災害警戒区域（急傾斜地、地滑り）を対象に、各区域の耐震ランクと震度から危険度ランク（A、B、C）を判定した。各想定地震における土砂災害警戒区域（急傾斜地、地滑り）の危険度ランク別の区域数を表 I.6.2-5 (1)～(2)に示した。

南海トラフ巨大地震については、内閣府（2025a）³⁵ が示した「基本ケース」、「陸側ケース」、「東側ケース」、「西側ケース」の4つの強震断層モデルと、これを補完するための「経験的手法」及びこれらの震度の最大値の「重ね合わせ」の土砂災害危険度ランクの想定を行った。

南海トラフ巨大地震以外の地震では、想定断層の両端に破壊開始点を設定した2ケースの地震動の土砂災害危険度ランクの想定を行った。

ここでいう危険度は、相対的なランク区分であるが、概ね次のように危険度ランクを区分する。

表 I.6.2-4 土砂災害危険度

ランク	危険度
A	発生する可能性が高い
B	発生する可能性がある
C	発生する可能性が低い

ア 南海トラフ巨大地震

陸側ケースにおいて、廿日市市から福山市にかけての広い範囲で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランクAの区域が見られる。ランクAと予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は3,520区域であり、全体の約12%を占める。ランクAと予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は9区域であり、全体の約7%を占める。震度6弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では6,461区域で全体の約21%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では18区域で全体の約14%を占める。

イ 安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震

南から破壊のケースにおいて、県西部南側から県中央部南側にかけての広い範囲で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランクAの区域が見られる。ランクAと

予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 5,411 区域であり、全体の約 18%を占め、想定地震の中で最も多い。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 7 区域であり、全体の約 6%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 10,544 区域で全体の約 34%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 13 区域で全体の約 10%を占める。

ウ 中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）の地震

東から破壊のケースにおいて、尾道市や三原市の南部の一部で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 156 区域であり、全体の約 0.5%を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 1 区域であり、全体の約 0.8%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 212 区域で全体の約 0.7%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 1 区域で全体の約 0.8%を占める。

エ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）の地震

西からの破壊のケースにおいて、三原市南部のごく一部などで土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 17 区域であり、全体の 0.1%未満となる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）はない。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 9 区域で全体の約 0.1%未満となり、土砂災害警戒区域（地滑り）では該当する区域はない。

オ 中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）の地震

西からの破壊のケースにおいて、三原市南部のごく一部などで土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 16 区域であり、全体の 0.1%未満となる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）はない。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 1 区域で全体の約 0.1%未満となり、土砂災害警戒区域（地滑り）では該当する区域はない。

カ 中央構造線断層帯（伊予灘区間）の地震

西からの破壊のケースにおいて、三原市南部や江田島市のごく一部で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 3 区域であり、全体の 0.1%未満となる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）はない。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地、地滑り）で該当する区域はない。

キ 中央構造線断層帯（4 連動）の地震

西からの破壊ケースにおいて、三原市南部から福山市南部の一部で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 206 区域であり、全体の約 0.7% を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 1 区域であり、全体の約 0.8% を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 244 区域で全体の約 0.8% を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 1 区域で全体の約 0.8% を占める。

ク 岩国―五日市断層帯（己斐断層区間）

南からの破壊ケースにおいて、広島市全域を中心に土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 2,055 区域であり、全体の約 7% を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）はない。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 3,405 区域で全体の約 11% を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では該当する区域はない。

ケ 岩国―五日市断層帯（五日市断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、広島市全域を中心に土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 2,023 区域であり、全体の約 7% を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 1 区域であり、全体の約 0.8% を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 3,214 区域で全体の約 11% を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 4 区域で全体の約 3% を占める。

コ 岩国―五日市断層帯（岩国断層区間）の地震

南から破壊のケースにおいて、大竹市や廿日市市の南部から広島市南部にかけての一部で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 541 区域であり、全体の約 2% を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 2 区域であり、全体の約 2% を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 810 区域で全体の約 3% を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 2 区域で全体の約 2% を占める。

サ 岩国―五日市断層帯（3 連動）の地震

岩国断層区間南から破壊のケースにおいて、大竹市や廿日市市の南部から広島市全域にかけて土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 3,717 区域であり、全体の約 12% を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 3 区域であ

り、全体の約 2%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 5,817 区域で全体の約 19%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 6 区域で全体の約 5%を占める。

シ 安芸灘断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、呉市南部や江田島市南部などで土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 192 区域であり、全体の約 0.6%を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 1 区域であり、全体の約 0.8%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 107 区域で全体の約 0.4%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 1 区域で全体の約 0.8%を占める。

ス 広島湾一岩国沖断層帯の地震

南から破壊のケースにおいて、大竹市や広島市、呉市にかけての南部を中心に土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 1,434 区域であり、全体の約 5%を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 1 区域であり、全体の約 0.8%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 2,347 区域で全体の約 8%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 1 区域で全体の約 0.8%を占める。

セ 長者ヶ原断層－芳井断層の地震

北から破壊のケースにおいて、福山市から尾道市にかけて土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 2,203 区域であり、全体の約 7%を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は 13 区域であり、全体の約 10%を占める。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 3,496 区域で全体の約 11%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 20 区域で全体の約 16%を占める。

ソ 筒賀断層の地震

北から破壊のケースにおいて、北広島町、安芸太田町、廿日市市及び広島市などの広島県西部で土砂災害警戒区域（急傾斜地）に対するランク A の区域が見られる。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（急傾斜地）は 2,312 区域であり、全体の約 8%を占める。ランク A と予測される土砂災害警戒区域（地滑り）は、南から破壊のケースにおいて 17 区域で全体の約 13%を占め、想定地震の中で最も多い。震度 6 弱以上となる区域は、土砂災害警戒区域（急傾斜地）では 3,738 区域で全体の約 12%を占め、土砂災害警戒区域（地滑り）では 18 区域で全体の約 14%を占める。

表 I . 6. 2-5(1) 土砂災害警戒区域の危険度ランク別の区域数（急傾斜地）

想定地震		マグニ チュード	危険度ランク（区域）			合計
			A	B	C	
			可能性が高い	可能性がある	可能性は低い	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	203	1,853	28,513	30,569
	陸側ケース		3,520	9,492	17,557	
	東側ケース		252	2,095	28,222	
	西側ケース		347	2,548	27,674	
	経験的手法※1		2,446	7,487	20,636	
	重ね合わせ※2		3,842	9,582	17,145	
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	4,521	9,751	16,297	
	南から破壊		5,411	10,521	14,637	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	156	739	29,674	
	西から破壊		143	677	29,749	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	10	154	30,405	
	西から破壊		17	147	30,405	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	13	260	30,296	
	西から破壊		16	286	30,267	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	0	62	30,507	
	西から破壊		3	115	30,451	
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	177	996	29,396	
	西から破壊		206	1,302	29,061	
岩国 - 五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	1,919	3,367	25,283	
	南から破壊		2,055	3,550	24,964	
岩国 - 五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	1,863	3,176	25,530	
	南から破壊		2,023	3,304	25,242	
岩国 - 五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	345	1,276	28,948	
	南から破壊		541	1,922	28,106	
岩国 - 五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	3,099	4,018	23,452	
	五日市断層区間 北から破壊		3,140	4,097	23,332	
	岩国断層区間 南から破壊		3,717	4,457	22,395	
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	42	581	29,946	
	南から破壊		192	1,145	29,232	
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	897	2,626	27,046	
	南から破壊		1,434	3,532	25,603	
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	2,203	2,861	25,505	
	南から破壊		1,921	2,420	26,228	
筒賀断層	北から破壊	7.1	2,312	3,908	24,349	
	南から破壊		2,259	3,966	24,344	

※1：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的式を用いて震度を簡便に推定する手法による震度を表示したケース

※2：基本、陸側、東側、西側、経験的式の5ケースを重ね合わせ最大となる震度を表示したケース

表 I.6.2-5(2) 土砂災害警戒区域の危険度ランク別の区域数（地滑り）

想定地震		マグニ チュード	危険度ランク（区域）			合計
			A	B	C	
			可能性が高い	可能性がある	可能性は低い	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	0	4	123	127
	陸側ケース		9	39	79	
	東側ケース		0	6	121	
	西側ケース		0	4	123	
	経験的手法※1		4	15	108	
	重ね合わせ※2		9	39	79	
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	5	20	102	
	南から破壊		7	28	92	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	1	2	124	
	西から破壊		1	2	124	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	0	1	126	
	西から破壊		0	1	126	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	0	1	126	
	西から破壊		0	1	126	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	0	0	127	
	西から破壊		0	1	126	
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	1	2	124	
	西から破壊		1	3	123	
岩国 - 五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	0	5	122	
	南から破壊		0	6	121	
岩国 - 五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	2	6	119	
	南から破壊		1	13	113	
岩国 - 五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	2	1	124	
	南から破壊		2	1	124	
岩国 - 五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	3	16	108	
	五日市断層区間 北から破壊		3	10	108	
	岩国断層区間 南から破壊		3	15	109	
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	1	0	126	
	南から破壊		1	0	126	
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	1	2	124	
	南から破壊		1	2	124	
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	13	10	104	
	南から破壊		13	8	106	
筒賀断層	北から破壊	7.1	16	6	105	
	南から破壊		17	7	103	

※1：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法による震度を表示したケース

※2：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせ最大となる震度を表示したケース

表 I . 6. 2-6 (1) 土砂災害警戒区域の震度別の区域数（急傾斜地）

想定地震		マグニ チュード	震度						合計
			7	6 強	6 弱	5 強	5 弱	4	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	0	0	46	3,372	10,418	16,733	30,569
	陸側ケース		0	239	6,222	15,109	8,515	484	
	東側ケース		0	0	128	3,603	14,228	12,610	
	西側ケース		0	0	192	4,712	12,859	12,806	
	経験的手法※1		0	61	4,043	13,029	11,854	1,582	
	重ね合わせ※2		0	303	6,785	14,698	8,316	467	
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	0	300	8,643	12,285	7,398	1,943	
	南から破壊		0	645	9,899	12,758	6,321	946	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	0	0	212	1,136	3,427	25,794	
	西から破壊		0	2	184	1,085	2,889	26,409	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	0	0	0	230	1,183	29,156	
	西から破壊		0	0	9	258	1,033	29,269	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	0	0	0	315	2,716	27,538	
	西から破壊		0	0	1	393	2,578	27,597	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	0	0	0	0	1,324	29,245	
	西から破壊		0	0	0	50	1,825	28,694	
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	0	0	227	1,428	5,659	23,255	
	西から破壊		0	2	242	2,003	7,029	21,293	
岩国 - 五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	0	561	2,453	4,760	5,134	17,661	
	南から破壊		0	551	2,854	4,671	5,491	17,002	
岩国 - 五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	0	701	2,183	4,320	4,630	18,735	
	南から破壊		0	764	2,450	4,313	5,257	17,785	
岩国 - 五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	0	83	456	1,972	4,777	23,281	
	南から破壊		0	119	691	3,018	6,116	20,625	
岩国 - 五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	0	1,169	3,850	4,516	4,584	16,450	
	五日市断層区間 北から破壊		0	1,192	3,876	4,682	4,537	16,282	
	岩国断層区間 南から破壊		0	1,681	4,136	5,233	4,804	14,715	
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	0	0	16	924	2,952	26,677	
	南から破壊		0	0	107	2,170	3,573	24,719	
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	5	189	1,189	4,132	4,688	20,366	
	南から破壊		0	256	2,091	5,161	4,716	18,345	
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	6	987	2,503	3,436	4,008	19,629	
	南から破壊		4	969	1,997	2,999	4,124	20,476	
筒賀断層	北から破壊	7.1	4	1,098	2,636	5,204	6,569	15,058	
	南から破壊		3	1,025	2,579	5,577	7,100	14,285	

※1：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※2：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

表 I. 6. 2-6(2) 土砂災害警戒区域の震度別の区域数（地滑り）

想定地震		マグニ チュード	震度						合計
			7	6 強	6 弱	5 強	5 弱	4	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	9.0	0	0	0	6	17	104	127
	陸側ケース		0	1	17	46	54	9	
	東側ケース		0	0	0	12	31	84	
	西側ケース		0	0	0	8	26	93	
	経験的手法※1		0	0	8	23	68	28	
	重ね合わせ※2		0	1	17	46	54	9	
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7.5	0	1	6	36	56	28	
	南から破壊		0	1	12	40	63	11	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7.3	0	0	1	3	14	109	
	西から破壊		0	0	1	2	14	110	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	6.8	0	0	0	1	2	124	
	西から破壊		0	0	0	1	2	124	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	6.9	0	0	0	1	1	125	
	西から破壊		0	0	0	1	3	123	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	7.4	0	0	0	0	2	125	
	西から破壊		0	0	0	1	2	124	
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	7.6	0	0	1	3	15	108	
	西から破壊		0	0	1	4	15	107	
岩国 - 五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6.6	0	0	0	8	14	105	
	南から破壊		0	0	0	9	14	104	
岩国 - 五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6.7	0	0	4	6	13	104	
	南から破壊		0	0	4	11	10	102	
岩国 - 五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	7.0	0	1	1	1	6	118	
	南から破壊		0	1	1	2	10	113	
岩国 - 五日市断層帯（3連動）	己斐断層区間 北から破壊	7.1	0	1	5	15	5	101	
	五日市断層区間 北から破壊		0	1	4	11	11	100	
	岩国断層区間 南から破壊		0	2	4	15	10	96	
安芸灘断層帯	北から破壊	6.7	0	0	1	0	2	124	
	南から破壊		0	0	1	0	2	124	
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6.9	0	1	0	3	10	113	
	南から破壊		0	0	1	5	15	106	
長者ヶ原－芳井断層	北から破壊	6.8	0	8	12	8	21	78	
	南から破壊		0	10	6	12	19	80	
筒賀断層	北から破壊	7.1	0	13	5	4	14	91	
	南から破壊		0	12	7	5	22	81	

※1：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて震度を簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※2：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

(4) 津波

想定地震のうち、南海トラフ巨大地震、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、讃岐山脈南縁西部の地震、石鎚山脈北縁西部～伊予灘の地震、安芸灘断層帯の地震、広島湾一岩国沖断層帯の地震、石鎚山脈北縁の地震、讃岐山脈南縁西部～伊予灘の地震については、津波による被害を想定した。

被害想定を行う上で必要となる最高津波水位、最大波到達時間、津波影響開始時間、浸水深別面積、浸水開始時間、浸水継続時間及び流速別海域面積について、想定地震ごとに表 I.6.2-7～表 I.6.2-11 に示す。ここで、南海トラフ巨大地震の津波については内閣府（2025a）³⁵ が示した津波断層モデル 11 ケースのうち、広島県にとって被害の大きい（人的被害に結びつく浸水深 30cm 以上の広島県全域での浸水面積が最大）津波断層モデルケース 1 の場合を示す。

なお、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、讃岐山脈南縁西部の地震、石鎚山脈北縁西部～伊予灘の地震、安芸灘断層帯の地震、広島湾一岩国沖断層帯の地震、石鎚山脈北縁の地震、讃岐山脈南縁西部～伊予灘の地震をここでは「瀬戸内海域活断層等による地震」と呼ぶ。

ア 最高津波水位、最大波到達時間及び津波影響開始時間

表 I.6.2-7 に想定地震ごとに、県沿岸で最も高水位の津波が到達する地点における最高津波水位、最大波到達時間及び県沿岸で最も津波影響開始時間が短い地点における津波影響開始時間を示した。

最高津波水位は南海トラフ巨大地震が最大で 4.0m となる。続いて讃岐山脈南縁西部～伊予灘の地震で 3.3m となる。

最大波到達時間は安芸灘断層帯および安芸灘断層帯が最も早く 12 分、続いて広島湾一岩国沖断層帯の地震で 22 分となる。

津波影響開始時間は広島湾一岩国沖断層帯が最も早く 1 分、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の 9 分となる。なお、南海トラフ巨大地震の津波影響開始時間が 11 分と瀬戸内海域活断層等による地震と大きな差がないのは、地震に伴う地盤変動で瀬戸内海の水面が傾き、水位変動が生じることをとらえていることによる。

表 I.6.2-7 最高津波水位、最大波到達時間及び津波影響開始時間

想定地震	最高津波水位 (m)	最大波 到達時間(分)	津波影響 開始時間(分)
南海トラフケース1	4.0	249	11
安芸灘～伊予灘～豊後水道	3.1	157	9
讃岐山脈南縁西部	2.9	76	27
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	2.7	179	41
安芸灘断層帯	2.5	12	10
広島湾一岩国沖断層帯	2.6	22	1
石鎚山脈北縁	2.4	87	45
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	3.3	77	26

津波：ケース 1 駿河湾～紀伊半島沖に「大すべり域＋超大すべり域」を設定したケース

イ 浸水深別面積

表 I. 6. 2-8 に想定地震ごとの浸水深別面積を示した。

浸水面積が最も広いのは、南海トラフ巨大地震で 12, 029ha となる。続いて讃岐山脈南縁西部～伊予灘の地震で 6, 676ha となる。また、避難を必要とする浸水深 30cm 以上の浸水面積を見ると、ここでも最も広いのは南海トラフ巨大地震で 10, 142ha、続いて讃岐山脈南縁西部～伊予灘の地震で 5, 616ha となる。

表 I. 6. 2-8 浸水深別面積 (ha)

想定地震	浸水深 1cm以上	浸水深 30cm以上	浸水深 1m以上	浸水深 2m以上	浸水深 5m以上
南海トラフケース1	12, 029	10, 142	6, 148	2, 797	2
安芸灘～伊予灘～豊後水道	6, 653	5, 458	3, 424	1, 073	1
讃岐山脈南縁西部	6, 412	5, 446	3, 588	1, 332	1
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	4, 681	3, 956	2, 515	564	1
安芸灘断層帯	4, 471	3, 810	2, 404	504	1
広島湾一岩国沖断層帯	4, 580	3, 893	2, 478	540	1
石鎚山脈北縁	4, 538	3, 868	2, 456	544	1
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	6, 676	5, 616	3, 674	1, 385	1

ウ 浸水開始時間

表 I.6.2-9 に浸水開始時間別の浸水面積を示した。この浸水開始時間は浸水深が初めて 1cm 以上となる時の地震発生からの経過時間を表しており、浸水開始時間の区分毎に浸水面積を集計したものである。

南海トラフ巨大地震は、浸水開始に 180 分以上かかる面積が 8,761ha と非常に広がっている。これは、太平洋側で発生した高水位の津波が 180 分以後に広島県沿岸に到達することにより浸水が生じるためである。また、津波の被害想定を行った他の瀬戸内海域活断層等の地震に伴う浸水は、南海トラフ巨大地震の様に 180 分以後に集中する時間分布ではなく、概ねどの時間帯においても浸水が生じている。

表 I.6.2-9 浸水開始時間別浸水面積 (ha)

想定地震	5分未満	5分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上 180分未満	180分以上
南海トラフケース1	553	1,134	541	496	545	8,761
安芸灘～伊予灘～豊後水道	558	1,243	919	1,294	1,517	1,122
讃岐山脈南縁西部	557	1,192	661	1,444	648	1,911
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	556	1,187	731	894	433	881
安芸灘断層帯	557	1,194	679	734	452	855
広島湾－岩国沖断層帯	555	1,153	674	895	475	829
石鎚山脈北縁	556	1,190	675	759	405	952
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	556	1,191	674	1,759	672	1,824

エ 浸水継続時間

表Ⅰ.6.2-10(1)～(2)に、地震発生後からの時間別浸水面積を示した。ここでは1時間ごとの浸水面積について、ha単位表記によるものと、1時間ごとの浸水面積の最大値を基準とした百分率表記によるものの2パターンで示した。浸水が解消するまでの継続時間は12時間以上の長期に及ぶことが見込まれる。

表Ⅰ.6.2-10(1) 時間別浸水面積（現況堤防）（ha）

想定地震	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間
南海トラフケース1	2,006	2,469	3,005	7,390	7,450	8,351	9,070	10,273	9,292	9,367	8,938	9,068
安芸灘～伊予灘～豊後水道	2,617	3,773	5,217	5,286	5,340	5,712	5,631	5,897	6,084	5,854	5,698	5,652
讃岐山脈南縁西部	2,254	3,603	4,050	4,665	4,973	5,206	5,509	5,579	5,717	5,893	5,924	5,935
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	2,392	3,217	3,606	3,910	3,999	4,171	4,168	4,288	4,294	4,396	4,431	4,450
安芸灘断層帯	2,318	3,049	3,511	3,770	3,922	4,042	4,120	4,195	4,242	4,270	4,311	4,348
広島湾～岩国沖断層帯	2,275	3,176	3,622	3,875	4,006	4,114	4,201	4,272	4,336	4,366	4,360	4,406
石鎚山脈北縁	2,302	3,055	3,449	3,754	3,913	4,034	4,143	4,188	4,254	4,313	4,346	4,369
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	2,267	3,859	4,247	4,901	5,116	5,384	5,628	5,724	5,811	6,036	6,069	6,060

表Ⅰ.6.2-10(2) 時間別浸水面積（現況堤防）（最大となる時間の浸水面積を基準）

想定地震	1時間	2時間	3時間	4時間	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間	12時間
南海トラフケース1	20	24	29	72	73	81	88	100	90	91	87	88
安芸灘～伊予灘～豊後水道	43	62	86	87	88	94	93	97	100	96	94	93
讃岐山脈南縁西部	38	61	68	79	84	88	93	94	96	99	100	100
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	54	72	81	88	90	94	94	96	97	99	100	100
安芸灘断層帯	53	70	81	87	90	93	95	96	98	98	99	100
広島湾～岩国沖断層帯	52	72	82	88	91	93	95	97	98	99	99	100
石鎚山脈北縁	53	70	79	86	90	92	95	96	97	99	99	100
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	37	64	70	81	84	89	93	94	96	99	100	100

オ 流速

表 I.6.2-11 に、漁船、水産関連施設被害算定に用いる流速別の海域面積を示した。いずれの地震についても、漁船や養殖筏に被害が生じない流速 1m/秒未満の海域がほとんどを占めている。

また、流速 1～2m/秒、流速 2m/秒以上の面積は、南海トラフ巨大地震が最も広く、続いて讃岐山脈南縁西部～伊予灘となる。

表 I.6.2-11 流速別海域面積

想定地震	1m/秒未満 (km ²)	1～2m/秒 (km ²)	2m/秒以上 (km ²)
南海トラフケース1	1230.9	25.6	3.0
安芸灘～伊予灘～豊後水道	1254.1	3.8	1.3
讃岐山脈南縁西部	1251.5	6.1	1.5
石鎚山脈北縁西部～伊予灘	1254.8	3.0	1.2
安芸灘断層帯	1255.0	2.8	1.1
広島湾－岩国沖断層帯	1255.0	2.8	1.1
石鎚山脈北縁	1255.0	2.8	1.1
讃岐山脈南縁西部～伊予灘	1247.1	10.3	1.7

カ 浸水による影響の評価

ここでは、浸水想定結果をもとに、サンプル地点において、浸水深ごとにどのような被害は発生しうるかを定性的に記載した。一般的に浸水深 30cm から人的被害が発生するとされているが、浸水に気づくタイミングとして浸水深 1 cm と、津波に巻き込まれた者が全て死亡してしまうとされている浸水深 1m 以上についても様相を記載した。

- 1) 地震発生 3 分後の堤防の沈下によって浸水が開始する地域（揺れている時間に避難を開始しないと間に合わない可能性がある地域）

浸水深 1cm：地震の揺れが収まるとともに浸水が始まり、早期避難・用事後避難の余裕がなく、ほぼ全ての住民が浸水到達に気づいてからの避難（切迫避難）と同じような状況となってしまう。

浸水深 30cm：30cm の波が到達する時刻は 1cm 到達時刻とあまり差が無く、子供、高齢者は津波に巻き込まれる方も発生する。大人であっても足を取られ避難できずに巻き込まれる可能性も高くなる。垂直避難可能な住民は上層階に避難を行う。

浸水深 1m～: 浸水から逃げきれない住民はすべて津波に巻き込まれてしまう。
ただし、浸水深よりも高い位置に垂直避難できた住民は難を逃れる。長期湛水となった場合は垂直避難した住民が孤立する可能性がある。

2) 地震発生 3 分後の堤防の沈下の影響を受けずに津波が到達する地域（早期避難・用事後避難が十分に機能する地域）

浸水深 1cm: 早期避難・用事後避難を行った住民は避難済みであり、到達に気づいてから避難開始する住民が慌てて避難を開始する（切迫避難）又は避難しない人も存在する。

浸水深 30cm: 切迫避難となった住民（大人・子供・高齢者）が津波に巻き込まれる。垂直避難可能な住民は上層階に避難を行う。

浸水深 1m～: 切迫避難で浸水から逃げきれない住民はすべて津波に巻き込まれる。浸水深より高い位置に垂直避難できた住民は難を逃れる。長期湛水となった場合は垂直避難した住民が孤立する可能性がある。

3 被害の想定

(1) 建物被害

揺れ、液状化、土砂災害、火災を原因とする全壊棟数、半壊棟数を 250m メッシュ単位で、津波を原因とする場合は 10m メッシュ単位で想定した。

原因別の全壊棟数、半壊棟数について、県全域で集計した結果を表 I.6.3-1(1)、(2)に示す。

なお、建物被害の全壊、半壊の基準⁴⁴は次のとおりである。

【全壊】

住家がその居住のための基本的機能を喪失したもの、すなわち、住家全部が倒壊、流失、埋没、焼失したもの、又は住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失若しくは流失した部分の床面積がその住家の延床面積の 70%以上に達した程度のも、又は住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が 50%以上に達した程度のもとする。

なお、液状化を原因とするものにおいては、外観目視調査で住家が 1/20 以上傾斜している場合、又は、床上 1m まで地盤面下に潜り込んでいる場合などは、全壊としている。

浸水を原因とするものにおいては、一見して浸水深の一番浅い部分が 1 階天井まで達した場合などは、全壊としている⁴⁵。

【半壊】

住家がその居住のための基本的機能の一部を喪失したもの、すなわち、住家の損壊が甚だしいが、補修すれば元通りに再使用できる程度のも、具体的には、損壊部分がその住家の延床面積の 20%以上 70%未満のも、又は住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が 20%以上 50%未満のもとする。

なお、液状化を原因とするものにおいては、外観目視調査で住家に不同沈下があり、かつ、傾斜が 1/100 以上 1/20 未満の場合、又は、基礎の天端下 25cm まで地盤面下に潜り込んでいる場合は、半壊（うち傾斜が 1/60 以上、又は、床まで潜り込んでいる場合は大規模半壊）としている。

浸水を原因とするものにおいては、一見して浸水深の一番浅い部分が床上まで達した場合などは、半壊（うち床上 1m まで達したものを大規模半壊）としている。

ア 揺れによる建物被害

揺れによる建物被害が最大となるのは、岩国―五日市断層帯の地震（(3 連動) 岩国断層区間南から破壊）で、県中央部を中心に全壊が 26, 855 棟、半壊が 52, 277 棟である。続いて、岩国―五日市断層帯の地震（(3 連動) 己斐断層区間北から破壊）で、全壊が 17, 632 棟、半壊が 45, 661 棟、岩国―五日市断層帯の地震（(3 連動) 五日市断層区間北から破壊）が 17, 548 棟、半壊が 45, 896 棟である。

イ 液状化による建物被害

液状化による建物被害が最大となるのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）が最も多く、全壊が 47, 503 棟、半壊が約 146, 965 棟である。続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で、全壊が 46, 960 棟、半壊が 144, 829 棟である。

ウ 土砂災害による建物被害

土砂災害による建物被害は揺れ、液状化、津波による被害に比べて少ない結果となった。被害が最大となるのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）が最も多く、全壊が 782 棟、半壊が約 1, 231 棟である。続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で、全壊が 732 棟、半壊が 1, 156 棟である。

エ 津波による建物被害

建物の全壊被害が発生し始める浸水深 1m 以上の面積が最大となる南海トラフ巨大地震で建物被害が最大となり、津波ケース 1 における全壊は 38, 221 棟、半壊が 61, 557 棟である。（以下の各被害項目も南海トラフ巨大地震は津波ケース 1 を対象とした。）続いて、中央構造線断層帯の地震（(4 連動) 東から破壊）で、全壊が 19, 731 棟、半壊が 67, 527 棟である。

表 I.6.3-1(1) 建物全壊棟数

(単位：棟)

想定地震		原因別全壊棟数				合計
		揺れ	液状化	土砂災害	津波※1	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	12	26,544	58	—	26,615
	陸側ケース	5,937	45,102	558	38,221	89,819
	東側ケース	54	26,748	62	—	26,864
	西側ケース	55	29,622	91	—	29,769
	経験的手法※2	3,424	43,461	471	—	47,355
	最大クラス※3	6,468	45,305	631	—	52,403
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7,096	46,960	732	16,049	70,837
	南から破壊	9,059	47,503	782	16,029	73,373
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	70	4,326	28	18,949	23,372
	西から破壊	88	4,418	28	18,933	23,467
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	472	1	9,326	9,799
	西から破壊	2	482	2	9,326	9,812
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	674	3	9,640	10,317
	西から破壊	0	781	3	9,637	10,422
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	176	0	9,643	9,819
	西から破壊	0	184	1	9,643	9,827
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	77	5,179	32	19,731	25,020
	西から破壊	100	8,532	41	19,679	28,353
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	11,500	35,411	368	—	47,279
	南から破壊	13,363	35,689	396	0	49,447
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	6,255	34,102	256	—	40,613
	南から破壊	7,417	34,489	270	0	42,177
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	378	11,496	54	—	11,928
	南から破壊	632	21,229	94	0	21,955
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	17,632	35,982	488	—	54,102
	南から破壊	17,548	36,178	505	0	54,230
安芸灘断層帯	北から破壊	26,855	36,961	594	0	64,411
	南から破壊	3	1,957	12	8,780	10,752
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	12	5,068	57	8,678	13,815
	南から破壊	2,045	30,637	168	8,748	41,598
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2,983	33,186	257	8,653	45,079
	南から破壊	17,481	10,249	329	—	28,059
筒賀断層	北から破壊	16,301	9,546	294	0	26,142
	南から破壊	3,719	30,333	206	—	34,258
	北から破壊	3,196	28,058	200	0	31,454
	南から破壊					

※1：南海トラフ巨大地震における津波による被害は津波ケース1による。

※2：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※3：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-1(2) 建物半壊棟数

(単位：棟)

想定地震		原因別半壊棟数				合計
		揺れ	液状化	土砂災害	津波※1	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2,802	91,029	122	—	93,953
	陸側ケース	42,298	141,116	951	61,557	245,922
	東側ケース	4,310	93,092	127	—	97,529
	西側ケース	5,032	100,825	187	—	106,043
	経験的手法※2	30,287	137,296	833	—	168,417
	最大クラス※3	44,097	141,889	1,073	—	187,059
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	49,482	144,829	1,156	37,702	233,169
	南から破壊	54,375	146,965	1,231	37,584	240,154
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	1,837	19,607	58	66,661	88,163
	西から破壊	1,834	20,364	59	66,370	88,626
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	87	2,021	3	51,638	53,749
	西から破壊	98	2,240	5	51,629	53,971
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	75	3,003	7	52,514	55,599
	西から破壊	104	3,246	8	52,452	55,810
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	805	0	52,613	53,419
	西から破壊	48	847	1	52,604	53,500
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	1,976	23,425	68	67,527	92,995
	西から破壊	2,372	37,163	87	66,082	105,704
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	39,740	95,560	452	—	135,752
	南から破壊	40,446	96,188	476	0	137,110
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	20,703	91,701	359	—	112,764
	南から破壊	24,020	93,335	367	0	117,721
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	2,212	37,078	87	—	39,378
	南から破壊	5,412	61,885	157	0	67,454
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	45,661	97,545	591	—	143,797
	南から破壊	45,896	98,265	615	0	144,776
安芸灘断層帯	北から破壊	392	8,670	25	51,154	60,241
	南から破壊	1,484	20,418	120	49,377	71,399
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	11,023	83,356	267	38,391	133,037
	南から破壊	18,232	90,093	392	36,688	145,405
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	34,322	44,027	510	—	78,860
	南から破壊	31,763	41,444	459	0	73,666
筒賀断層	北から破壊	16,783	83,907	317	—	101,006
	南から破壊	16,995	79,213	314	0	96,523

※1：南海トラフ巨大地震における津波による被害は津波ケース1による。

※2：震源からの距離に従い、地震の揺れがどの程度減衰するかを示す経験的な式を用いて簡便に推定する手法で震度を表示したケース

※3：基本、陸側、東側、西側、経験的手法の5ケースを重ね合わせて最大となる震度を表示したケース

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

オ 地震火災による建物被害

地震火災による被害は、出火の発生頻度や延焼の拡大を考慮した想定とするため、冬 深夜、夏 12 時、冬 18 時の 3 シーン及び広島県の気象状況を踏まえた平均風速（冬：5m/s、夏：5m/s）及び最大風速（冬：11m/s、夏：9m/s）を組み合わせた合計 6 パターンで想定した。各想定地震の火災による焼失棟数を表 I.6.3-2(1)、(2)に示す。

地震火災による焼失棟数は、震度 6 弱以上の地域に建物が多い岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動)岩国断層区間南から破壊）で最大となり、冬 18 時、風速 11m/s の場合で 4,105 棟、続いて岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動)五日市区間北から破壊）で 3,143 棟、岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動)己斐区間北から破壊）で 2,979 棟である。

表 I.6.3-2(1) 地震火災による建物焼失棟数（平均風速時）

想定地震	冬深夜 風速5m/s			夏12時 風速5m/s			冬18時 風速5m/s		
	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)
南海トラフ巨大地震	1	0	0	2	0	0	7	1	7
	8	1	6	11	5	34	36	28	389
	1	0	0	2	0	0	8	1	7
	1	0	0	2	0	0	10	2	10
	5	0	0	8	1	7	27	21	300
	8	1	6	12	5	36	37	29	427
安芸灘～伊予灘～豊後水道	9	4	71	14	9	108	41	33	652
	12	7	131	17	14	168	49	39	620
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	0	0	0	1	0	0	3	0	0
	0	0	0	1	0	0	3	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中央構造線断層帯（4連動）	1	0	0	1	0	0	4	0	0
	1	0	0	1	0	0	5	1	7
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	12	10	339	14	12	394	39	38	1,191
	14	12	427	17	13	458	45	43	1,367
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	8	7	144	9	8	154	27	24	601
	9	6	135	10	8	215	29	25	641
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	1	1	6	2	1	7	7	5	89
	2	1	6	3	2	10	10	8	158
岩国－五日市断層帯（3連動）	18	16	453	21	19	516	52	51	1,423
	18	16	466	21	19	531	54	53	1,519
	27	22	652	31	26	770	72	68	1,960
安芸灘断層帯	0	0	0	0	0	0	1	1	7
	0	0	0	1	0	0	3	1	7
広島湾－岩国沖断層帯	4	3	36	5	5	44	18	13	225
	5	3	35	7	4	39	23	21	465
長者ヶ原断層－芳井断層	18	14	173	23	19	226	48	43	508
	17	14	171	22	19	228	46	42	510
筒賀断層	4	3	7	6	5	13	17	15	274
	4	2	5	5	3	7	17	15	275

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I . 6. 3-2(2) 地震火災による建物焼失棟数（強風時）

想定地震	冬深夜 風速11m/s			夏12時 風速9m/s			冬18時 風速11m/s		
	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)	出火件数 (件)	残出火件数 (件)	焼失棟数 (棟)
南海トラフ巨大地震	1	0	0	2	0	0	7	4	157
	8	5	56	11	9	68	36	36	917
	1	0	0	2	0	0	8	5	141
	1	0	0	2	0	0	10	6	241
	5	1	10	8	4	34	27	26	842
	8	5	57	12	9	71	37	37	1,000
安芸灘～伊予灘～豊後水道	9	9	397	14	14	345	41	41	1,449
	12	12	378	17	17	361	49	49	1,550
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	0	0	0	1	0	0	3	0	0
	0	0	0	1	0	0	3	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中央構造線断層帯（4連動）	1	0	0	1	0	0	4	1	6
	1	0	0	1	0	0	5	2	17
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	12	12	793	14	13	577	39	39	2,489
	14	13	913	17	16	772	45	45	2,887
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	8	8	362	9	9	320	27	27	1,297
	9	8	428	10	10	390	29	29	1,633
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	1	1	11	2	2	13	7	6	247
	2	2	15	3	2	12	10	9	397
岩国－五日市断層帯（3連動）	18	18	1,021	21	20	789	52	52	2,979
	18	18	1,053	21	19	764	54	54	3,143
	27	26	1,575	31	31	1,253	72	72	4,105
安芸灘断層帯	0	0	0	0	0	0	1	1	11
	0	0	0	1	1	9	3	2	16
広島湾－岩国沖断層帯	4	3	67	5	5	60	18	17	652
	5	4	71	7	6	144	23	23	976
長者ヶ原断層－芳井断層	18	15	315	23	21	320	48	45	893
	17	15	320	22	20	318	46	44	891
筒賀断層	4	4	144	6	6	111	17	17	773
	4	4	137	5	5	108	17	17	752

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

カ 津波火災

津波火災は、東日本大震災で発生した津波火災の実績に基づき、津波による出火件数を市町別に想定した。

表 I.6.3-3 津波火災の発生

想定地震		津波火災 件数
南海トラフ巨大地震	基本ケース	—
	陸側ケース	60
	東側ケース	—
	西側ケース	—
	経験的手法	—
	最大クラス	—
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	45
	南から破壊	45
讃岐山脈南縁西部区間	東から破壊	47
	西から破壊	47
石鎚山脈北縁区間	東から破壊	40
	西から破壊	40
石鎚山脈北縁西部区間	東から破壊	40
	西から破壊	40
伊予灘区間	東から破壊	40
	西から破壊	40
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	48
	西から破壊	48
己斐断層区間	北から破壊	—
	南から破壊	—
五日市断層区間	北から破壊	—
	南から破壊	—
岩国断層区間	北から破壊	—
	南から破壊	—
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	—
	北から破壊	—
	南から破壊	—
安芸灘断層帯	北から破壊	40
	南から破壊	40
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	40
	南から破壊	40
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	—
	南から破壊	—
筒賀断層	北から破壊	—
	南から破壊	—

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

キ 屋外転倒物・屋外落下物の発生

想定地震ごとに屋外転倒物（ブロック塀、石塀、コンクリート塀の倒壊や自動販売機の転倒）の発生件数と、屋外落下物（窓ガラス、外装材、屋外広告物等）が発生する3階以上の建物棟数を想定した。なお、屋外落下物は、飛散物（窓ガラス、外装材）、非飛散物（屋外広告物）に分けて想定した。

屋外転倒物の発生件数は、震度6弱以上の面積が広い安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で最大となり107,968件、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で98,613件である。

屋外落下物が発生する建物棟数は、震度6弱以上の地域に建物が多い岩国－五日市断層帯（3連動（南から破壊））の地震で最大となり、213棟、続いて、岩国－五日市断層帯（3連動（北から破壊））の地震で183棟である。

表 I.6.3-4 屋外転倒物の発生

想定地震		転倒発生件数 (件)	屋外落下物が 生じる建物の棟数 (棟)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	3,546	1
	陸側ケース	26,555	55
	東側ケース	4,842	3
	西側ケース	5,939	2
	経験的手法	21,322	44
	最大クラス	27,186	57
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	98,613	168
	南から破壊	107,968	154
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7,350	2
	西から破壊	6,985	2
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	961	0
	西から破壊	1,345	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	1,497	0
	西から破壊	1,523	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	424	0
	西から破壊	486	0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	8,511	2
	西から破壊	13,303	2
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	69,040	171
	南から破壊	70,782	173
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	51,979	71
	南から破壊	58,431	74
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	11,208	5
	南から破壊	21,051	8
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	74,861	183
	南から破壊	76,002	178
	南から破壊	85,324	213
安芸灘断層帯	北から破壊	5,319	0
	南から破壊	10,200	0
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	29,966	20
	南から破壊	39,153	42
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	48,781	121
	南から破壊	47,148	117
筒賀断層	北から破壊	36,813	11
	南から破壊	33,585	9

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(2) 人的被害

ア 概要

建物倒壊（屋内収容物移動・転倒による被害を含む）、土砂災害、火災、津波等を原因とする死者、負傷者、重傷者数（負傷者の内数）を市町単位で想定した。

火災による被害は季節と時刻、風速により被害の様相が異なるため、冬 深夜、夏 12 時、冬 18 時の 3 シーン及び広島県の気象状況を踏まえた平均風速（冬：5m/s、夏：5m/s）及び最大風速（冬：11m/s、夏：9m/s）の 2 種類の合計 6 パターンで想定した。

死者数が最大となるのは、冬 深夜、風速 11m/s で、中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）（西から破壊）が最も多く、死者 13,607 人、負傷者 3,201 人、うち重傷者 1,024 人、続いて中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）（東から破壊）で、死者 13,606 人、負傷者 3,197 人、うち重傷者 1,023 人、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で、死者 13,009 人、負傷者 13,404 人、うち重傷者 1,634 人となる。

表 I. 6. 3-5(1) 人的被害の概要（平均風速時）

想定地震		冬深夜 風速5m/s			夏12時 風速5m/s			冬18時 風速5m/s			
		死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	5	281	4	4	276	3	5	263	4	
	陸側ケース	12,123	10,583	1,525	10,520	8,168	1,279	10,210	8,678	1,278	
	東側ケース	7	489	6	6	438	5	7	437	6	
	西側ケース	10	592	8	8	519	7	10	523	8	
	経験的手法	223	4,987	250	187	3,697	197	216	4,090	216	
	最大クラス	422	7,752	476	353	5,654	366	401	6,305	405	
安芸灘～伊予灘～豊後水道		北から破壊	12,884	12,187	1,456	10,559	8,743	1,064	10,381	9,583	1,131
	南から破壊	12,994	13,394	1,630	10,643	9,597	1,187	10,466	10,523	1,265	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）		東から破壊	13,606	3,197	1,023	10,968	2,613	833	10,789	2,591	825
	西から破壊	13,607	3,201	1,024	10,968	2,615	834	10,789	2,594	826	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）		東から破壊	11,689	3,491	1,184	8,866	2,550	865	8,797	2,607	884
	西から破壊	11,689	3,492	1,184	8,866	2,552	865	8,797	2,608	884	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）		東から破壊	12,056	3,239	1,099	9,204	2,496	846	9,136	2,494	846
	西から破壊	12,056	3,241	1,099	9,204	2,498	846	9,136	2,496	846	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）		東から破壊	12,056	3,231	1,099	9,203	2,489	846	9,135	2,487	846
	西から破壊	12,056	3,234	1,099	9,203	2,493	846	9,135	2,490	846	
中央構造線断層帯（4連動）		東から破壊	12,885	3,057	970	10,457	2,520	797	10,334	2,499	789
	西から破壊	12,887	3,106	972	10,459	2,564	798	10,336	2,544	791	
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）		北から破壊	874	10,903	1,095	730	7,601	770	832	8,540	874
	南から破壊	1,018	11,440	1,281	845	7,966	895	960	8,951	1,018	
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）		北から破壊	475	5,546	594	397	3,927	422	450	4,365	473
	南から破壊	560	6,558	710	472	4,618	502	528	5,147	564	
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）		北から破壊	28	366	28	23	286	21	29	305	24
	南から破壊	47	954	48	39	717	36	52	778	42	
岩国－五日市断層帯（3連動）		北から破壊	1,331	13,261	1,663	1,110	9,262	1,169	1,243	10,387	1,319
	北から破壊	1,326	13,274	1,660	1,106	9,271	1,166	1,243	10,397	1,317	
	南から破壊	2,029	16,605	2,551	1,690	11,583	1,781	1,883	12,997	2,014	
安芸灘断層帯		北から破壊	10,808	3,712	1,248	7,755	2,764	927	7,717	2,832	950
	南から破壊	10,812	3,844	1,251	7,759	2,873	930	7,720	2,945	953	
広島湾－岩国冲断層帯		北から破壊	10,360	5,691	1,303	7,872	4,163	955	7,806	4,335	972
	南から破壊	10,448	7,388	1,394	7,949	5,352	1,022	7,903	5,673	1,049	
長者ヶ原断層－芳井断層		北から破壊	1,145	7,675	1,284	954	5,526	927	1,039	6,257	1,052
	南から破壊	1,067	7,119	1,197	889	5,130	864	969	5,806	980	
簡賀断層		北から破壊	263	3,600	325	219	2,572	232	250	2,861	265
	南から破壊	227	3,506	277	188	2,503	197	218	2,786	226	

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I. 6. 3-5(2) 人的被害の概要（強風時）

想定地震		冬深夜 風速11m/s			夏12時 風速9m/s			冬18時 風速11m/s			
		死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	死者	負傷者	重傷者	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	5	281	4	4	276	3	13	268	6	
	陸側ケース	12,125	10,584	1,526	10,522	8,169	1,279	10,238	8,697	1,286	
	東側ケース	7	489	6	6	438	5	13	441	8	
	西側ケース	10	592	8	8	519	7	23	532	11	
	経験的手法	224	4,988	250	188	3,697	197	242	4,108	224	
	最大クラス	424	7,753	477	355	5,655	367	430	6,325	412	
安芸灘～伊予灘～豊後水道		北から破壊	12,902	12,199	1,460	10,572	8,752	1,068	10,427	9,614	1,143
	南から破壊	13,009	13,404	1,634	10,654	9,604	1,190	10,523	10,561	1,280	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）		東から破壊	13,606	3,197	1,023	10,968	2,613	833	10,789	2,591	825
	西から破壊	13,607	3,201	1,024	10,968	2,615	834	10,789	2,594	826	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）		東から破壊	11,689	3,491	1,184	8,866	2,550	865	8,797	2,607	884
	西から破壊	11,689	3,492	1,184	8,866	2,552	865	8,797	2,608	884	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）		東から破壊	12,056	3,239	1,099	9,204	2,496	846	9,136	2,494	846
	西から破壊	12,056	3,241	1,099	9,204	2,498	846	9,136	2,496	846	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）		東から破壊	12,056	3,231	1,099	9,203	2,489	846	9,135	2,487	846
	西から破壊	12,056	3,234	1,099	9,203	2,493	846	9,135	2,490	846	
中央構造線断層帯（4連動）		東から破壊	12,885	3,057	970	10,457	2,520	797	10,334	2,500	789
	西から破壊	12,887	3,106	972	10,459	2,564	798	10,336	2,544	791	
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）		北から破壊	910	10,926	1,104	741	7,608	773	916	8,596	896
	南から破壊	1,055	11,464	1,290	865	7,979	900	1,060	9,016	1,043	
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）		北から破壊	492	5,557	598	409	3,935	425	494	4,395	485
	南から破壊	583	6,573	716	484	4,626	505	593	5,191	581	
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）		北から破壊	28	366	28	23	286	21	39	312	27
	南から破壊	47	954	48	39	717	36	66	788	46	
岩国－五日市断層帯（3連動）		北から破壊	1,377	13,290	1,675	1,128	9,274	1,174	1,348	10,454	1,346
	北から破壊	1,373	13,304	1,672	1,120	9,280	1,170	1,350	10,466	1,345	
	南から破壊	2,105	16,652	2,570	1,721	11,602	1,789	2,032	13,092	2,051	
安芸灘断層帯		北から破壊	10,808	3,712	1,248	7,756	2,765	927	7,717	2,832	950
	南から破壊	10,812	3,844	1,251	7,759	2,874	930	7,721	2,946	953	
広島湾－岩国冲断層帯		北から破壊	10,362	5,692	1,303	7,872	4,163	956	7,835	4,354	980
	南から破壊	10,450	7,390	1,395	7,958	5,358	1,024	7,934	5,694	1,057	
長者ヶ原断層－芳井断層		北から破壊	1,151	7,679	1,286	957	5,528	928	1,053	6,267	1,055
	南から破壊	1,073	7,123	1,199	892	5,133	865	983	5,816	984	
簡賀断層		北から破壊	271	3,606	327	224	2,575	233	278	2,879	272
	南から破壊	234	3,511	279	193	2,506	199	244	2,804	233	

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 原因別の死者、負傷者、重傷者

建物倒壊（屋外収容物移動・転倒による被害を含む）、土砂災害、火災、津波等を原因とする死者、負傷者、重傷者（負傷者の内数）、軽傷者（負傷者の内数）数を市町単位で想定した。

冬深夜、夏 12 時、冬 18 時のシーン別、かつ、平均風速（風速 5m/s、8m/s）の場合と最大風速（風速 11m/s、9m/s）の場合の原因別の死者、負傷者、重傷者数の総数を次に示す。

津波が発生すると想定した地震では、どの想定シーン、風速においても死者、負傷者、重傷者数とも津波を原因とする被害が最も多く、続いて建物倒壊を原因とするものが多くなった。

原因別の被害傾向では、津波を原因とする被害は、オフィスや繁華街等に多数の滞留者が集中する夏の日中において最大となっている。建物倒壊及び土砂災害を原因とする被害においては、屋内滞留人口が最大となる深夜において被害が最大となっている。

火災を原因とする被害では、出火件数と風速の影響を受けるため、出火件数が多く、延焼が多い冬 18 時、風速 11m/s において最大となっている。ブロック塀等の倒壊を原因とする被害は、屋外人口の影響を受けるため、屋外人口が多い夕方 18 時の被害が最大となる。

【冬 深夜、風速 5m/s】

表 I.6.3-6(1) 原因別人的被害（死者数 冬 深夜 風速 5m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	5	0	—	0	5
	陸側ケース	337	36	45	1	11,741	0	12,123
	東側ケース	2	2	5	0	—	0	7
	西側ケース	2	2	7	0	—	0	10
	経験的手法	185	27	37	0	—	0	223
	最大クラス	371	38	50	1	—	0	422
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	441	42	59	4	12,380	0	12,884
	南から破壊	576	48	64	8	12,347	0	12,994
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	2	2	0	13,601	0	13,606
	西から破壊	4	2	2	0	13,601	0	13,607
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	11,689	0	11,689
	西から破壊	0	0	0	0	11,689	0	11,689
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
	西から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
	西から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	3	2	0	12,879	0	12,885
	西から破壊	5	4	3	0	12,879	0	12,887
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	817	68	32	26	—	0	874
	南から破壊	951	79	34	32	0	0	1,018
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	442	45	22	11	—	0	475
	南から破壊	526	50	23	11	0	0	560
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	23	6	4	0	—	0	28
	南から破壊	38	9	8	1	0	0	47
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,252	99	42	37	—	0	1,331
	南から破壊	1,245	101	44	37	0	0	1,326
安芸灘断層帯	北から破壊	1,921	145	53	56	0	0	2,029
	南から破壊	0	0	1	0	10,807	0	10,808
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	1	1	4	0	10,807	0	10,812
	南から破壊	132	18	14	3	10,212	0	10,360
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	197	25	21	3	10,227	0	10,448
	南から破壊	1,110	43	27	8	—	0	1,145
筒賀断層	北から破壊	1,034	40	24	8	0	0	1,067
	南から破壊	245	17	17	0	—	0	263
	北から破壊	210	16	16	0	0	0	227
	南から破壊							

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-6(2) 原因別人的被害（負傷者数 冬 深夜 風速 5m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	275	206	6	0	—	0	281
	陸側ケース	7,325	800	56	2	3,201	0	10,583
	東側ケース	483	227	6	0	—	0	489
	西側ケース	583	260	9	0	—	0	592
	経験的手法	4,940	647	47	1	—	0	4,987
	最大クラス	7,687	825	63	2	—	0	7,752
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	9,531	885	74	4	2,578	0	12,187
	南から破壊	10,731	975	79	7	2,577	0	13,394
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	202	62	3	0	2,993	0	3,197
	西から破壊	206	59	3	0	2,993	0	3,201
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	8	8	0	0	3,483	0	3,491
	西から破壊	9	9	0	0	3,483	0	3,492
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	8	8	0	0	3,231	0	3,239
	西から破壊	10	10	0	0	3,231	0	3,241
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	3,231	0	3,231
	西から破壊	3	3	0	0	3,231	0	3,234
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	219	76	3	0	2,834	0	3,057
	西から破壊	267	111	4	0	2,834	0	3,106
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	10,845	1,159	39	19	—	0	10,903
	南から破壊	11,374	1,328	43	23	0	0	11,440
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	5,510	809	27	8	—	0	5,546
	南から破壊	6,522	882	29	8	0	0	6,558
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	360	163	5	0	—	0	366
	南から破壊	944	247	10	1	0	0	954
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	13,182	1,616	52	26	—	0	13,261
	南から破壊	13,193	1,635	54	26	0	0	13,274
安芸灘断層帯	北から破壊	16,501	2,270	65	38	0	0	16,605
	南から破壊	43	36	1	0	3,668	0	3,712
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	171	77	6	0	3,668	0	3,844
	南から破壊	2,323	396	17	2	3,348	0	5,691
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	4,012	532	26	3	3,346	0	7,388
	南から破壊	7,634	710	34	8	—	0	7,675
筒賀断層	北から破壊	7,082	661	30	7	0	0	7,119
	南から破壊	3,579	394	21	1	—	0	3,600
	北から破壊	3,485	393	20	1	0	0	3,506
	南から破壊							

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-6(3) 原因別人的被害（重傷者数 冬 深夜 風速 5m/s）

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	3	0	—	0	4
	陸側ケース	404	147	28	1	1,092	0	1,525
	東側ケース	3	3	3	0	—	0	6
	西側ケース	3	3	4	0	—	0	8
	経験的手法	226	116	23	0	—	0	250
	最大クラス	444	153	32	1	—	0	476
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	537	166	37	2	879	0	1,456
	南から破壊	708	185	40	3	879	0	1,630
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	4	4	1	0	1,018	0	1,023
	西から破壊	5	5	1	0	1,018	0	1,024
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,184	0	1,184
	西から破壊	0	0	0	0	1,184	0	1,184
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
	西から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
	西から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	2	0	964	0	970
	西から破壊	6	6	2	0	964	0	972
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	1,067	236	20	7	—	0	1,095
	南から破壊	1,250	272	21	9	0	0	1,281
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	577	160	14	3	—	0	594
	南から破壊	692	176	14	3	0	0	710
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	25	25	3	0	—	0	28
	南から破壊	42	42	5	0	0	0	48
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,626	335	26	10	—	0	1,663
	北から破壊	1,622	339	27	10	0	0	1,660
	南から破壊	2,503	479	33	15	0	0	2,551
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	0	1,247	0	1,248
	南から破壊	1	1	3	0	1,247	0	1,251
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	152	72	9	1	1,141	0	1,303
	南から破壊	239	99	13	1	1,141	0	1,394
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	1,264	147	17	3	—	0	1,284
	南から破壊	1,179	137	15	3	0	0	1,197
筒賀断層	北から破壊	314	70	11	0	—	0	325
	南から破壊	267	69	10	0	0	0	277

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-6(4) 原因別人的被害（軽傷者数 冬 深夜 風速 5m/s）

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	275	205	3	0	—	0	278
	陸側ケース	6,921	653	28	1	2,108	0	9,057
	東側ケース	480	224	3	0	—	0	483
	西側ケース	580	257	4	0	—	0	584
	経験的手法	4,713	531	23	1	—	0	4,737
	最大クラス	7,243	672	31	1	—	0	7,276
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	8,994	719	37	3	1,698	0	10,731
	南から破壊	10,023	789	39	4	1,698	0	11,764
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	198	58	1	0	1,975	0	2,174
	西から破壊	200	54	1	0	1,975	0	2,177
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	8	8	0	0	2,299	0	2,307
	西から破壊	9	9	0	0	2,299	0	2,308
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	8	8	0	0	2,133	0	2,140
	西から破壊	10	10	0	0	2,133	0	2,143
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,133	0	2,133
	西から破壊	3	3	0	0	2,133	0	2,136
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	215	72	2	0	1,871	0	2,087
	西から破壊	261	105	2	0	1,870	0	2,134
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	9,777	923	20	11	—	0	9,808
	南から破壊	10,124	1,055	21	14	0	0	10,159
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	4,933	648	13	5	—	0	4,952
	南から破壊	5,829	706	14	5	0	0	5,848
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	335	138	3	0	—	0	338
	南から破壊	901	205	5	0	0	0	906
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	11,556	1,280	26	16	—	0	11,597
	北から破壊	11,571	1,296	27	16	0	0	11,614
	南から破壊	13,998	1,791	32	23	0	0	14,053
安芸灘断層帯	北から破壊	43	36	1	0	2,421	0	2,464
	南から破壊	170	77	3	0	2,421	0	2,594
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	2,171	324	9	1	2,207	0	4,388
	南から破壊	3,773	433	13	2	2,206	0	5,993
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	6,370	563	17	5	—	0	6,391
	南から破壊	5,902	524	15	4	0	0	5,922
筒賀断層	北から破壊	3,265	324	10	0	—	0	3,276
	南から破壊	3,218	323	10	0	0	0	3,229

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

【夏 12 時、風速 5m/s】

表 I.6.3-7(1) 原因別人的被害（死者数 夏 12 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	4	0	—	0	4
	陸側ケース	281	20	37	2	10,200	0	10,520
	東側ケース	2	2	4	0	—	0	6
	西側ケース	2	2	6	0	—	0	8
	経験的手法	155	15	31	1	—	0	187
	最大クラス	309	21	42	2	—	0	353
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	366	23	49	6	10,138	0	10,559
	南から破壊	478	27	53	9	10,103	0	10,643
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	1	2	0	10,963	0	10,968
	西から破壊	4	1	2	0	10,963	0	10,968
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	8,866	0	8,866
	西から破壊	0	0	0	0	8,866	0	8,866
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,204
	西から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,204
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,203
	西から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,203
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	1	2	0	10,452	0	10,457
	西から破壊	4	2	3	0	10,452	0	10,459
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	677	39	26	27	—	0	730
	南から破壊	787	45	28	30	0	0	845
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	368	27	18	10	—	0	397
	南から破壊	438	30	19	15	0	0	472
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	19	3	4	0	—	0	23
	南から破壊	32	5	6	1	0	0	39
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,039	58	35	36	—	0	1,110
	北から破壊	1,033	58	36	36	0	0	1,106
	南から破壊	1,592	83	44	55	0	0	1,690
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	0	7,755	0	7,755
	南から破壊	1	1	4	0	7,755	0	7,759
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	110	10	11	3	7,747	0	7,872
	南から破壊	164	15	18	3	7,765	0	7,949
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	921	24	23	10	—	0	954
	南から破壊	858	22	20	10	0	0	889
筒賀断層	北から破壊	204	10	14	1	—	0	219
	南から破壊	174	9	14	1	0	0	188

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-7(2) 原因別人的被害（負傷者数 夏 12 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	271	110	5	0	—	0	276
	陸側ケース	5,350	442	46	4	2,768	0	8,168
	東側ケース	432	121	5	0	—	0	438
	西側ケース	511	139	7	1	—	0	519
	経験的手法	3,656	353	39	2	—	0	3,697
	最大クラス	5,598	454	52	4	—	0	5,654
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	6,801	499	61	7	1,875	0	8,743
	南から破壊	7,647	546	65	10	1,874	0	9,597
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	175	32	2	0	2,435	0	2,613
	西から破壊	178	30	2	0	2,435	0	2,615
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	2,543	0	2,550
	西から破壊	8	5	0	0	2,543	0	2,552
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	2,489	0	2,496
	西から破壊	9	8	0	0	2,489	0	2,498
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,489	0	2,489
	西から破壊	4	4	0	0	2,489	0	2,493
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	190	39	3	0	2,328	0	2,520
	西から破壊	233	58	3	0	2,328	0	2,564
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	7,548	676	33	20	—	0	7,601
	南から破壊	7,909	753	35	22	0	0	7,966
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,896	475	22	8	—	0	3,927
	南から破壊	4,583	525	24	11	0	0	4,618
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	281	91	5	1	—	0	286
	南から破壊	708	145	8	1	0	0	717
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	9,192	942	43	27	—	0	9,262
	北から破壊	9,199	944	45	27	0	0	9,271
	南から破壊	11,489	1,298	54	40	0	0	11,583
安芸灘断層帯	北から破壊	38	19	1	0	2,725	0	2,764
	南から破壊	144	43	5	0	2,725	0	2,873
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	1,690	232	14	3	2,455	0	4,163
	南から破壊	2,873	309	22	3	2,455	0	5,352
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	5,486	399	28	11	—	0	5,526
	南から破壊	5,094	374	25	11	0	0	5,130
筒賀断層	北から破壊	2,553	224	17	2	—	0	2,572
	南から破壊	2,485	224	17	1	0	0	2,503

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-7(3) 原因別人的被害（重傷者数 夏 12 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	2	0	—	0	3
	陸側ケース	310	82	23	2	944	0	1,279
	東側ケース	3	3	3	0	—	0	5
	西側ケース	3	3	4	0	—	0	7
	経験的手法	177	63	19	1	—	0	197
	最大クラス	338	84	26	2	—	0	366
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	392	94	31	3	639	0	1,064
	南から破壊	511	104	33	4	639	0	1,187
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	3	1	0	828	0	833
	西から破壊	4	4	1	0	828	0	834
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	865	0	865
	西から破壊	0	0	0	0	865	0	865
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	1	0	792	0	797
	西から破壊	5	5	2	0	792	0	798
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	746	138	16	8	—	0	770
	南から破壊	868	154	18	9	0	0	895
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	407	95	11	3	—	0	422
	南から破壊	486	105	12	4	0	0	502
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	19	15	2	0	—	0	21
	南から破壊	32	24	4	0	0	0	36
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,137	196	22	11	—	0	1,169
	南から破壊	1,133	196	23	11	0	0	1,166
安芸灘断層帯	北から破壊	1,738	274	27	16	0	0	1,781
	南から破壊	0	0	0	0	927	0	927
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	1	1	2	0	927	0	930
	南から破壊	111	42	7	1	836	0	955
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	173	58	11	1	836	0	1,022
	南から破壊	909	83	14	5	—	0	927
筒賀断層	北から破壊	848	78	13	4	0	0	864
	南から破壊	222	40	9	1	—	0	232
	北から破壊	188	40	9	1	0	0	197
	南から破壊							

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-7(4) 原因別人的被害（軽傷者数 夏 12 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	270	110	2	0	—	0	273
	陸側ケース	5,039	360	23	2	1,824	0	6,889
	東側ケース	430	118	3	0	—	0	432
	西側ケース	509	136	4	0	—	0	513
	経験的手法	3,479	290	19	1	—	0	3,500
	最大クラス	5,260	370	26	2	—	0	5,288
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	6,408	405	30	4	1,236	0	7,679
	南から破壊	7,136	442	33	6	1,235	0	8,410
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	172	28	1	0	1,607	0	1,780
	西から破壊	173	26	1	0	1,607	0	1,782
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	1,678	0	1,686
	西から破壊	8	5	0	0	1,678	0	1,687
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	1,643	0	1,650
	西から破壊	9	8	0	0	1,643	0	1,652
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,643	0	1,643
	西から破壊	4	4	0	0	1,643	0	1,647
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	186	35	1	0	1,536	0	1,724
	西から破壊	228	53	2	0	1,536	0	1,766
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6,803	538	16	12	—	0	6,831
	南から破壊	7,041	599	17	13	0	0	7,071
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,489	381	11	5	—	0	3,505
	南から破壊	4,097	419	12	7	0	0	4,116
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	262	76	2	0	—	0	265
	南から破壊	677	120	4	1	0	0	681
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	8,055	746	22	16	—	0	8,093
	南から破壊	8,067	748	22	16	0	0	8,105
安芸灘断層帯	北から破壊	9,751	1,024	27	24	0	0	9,802
	南から破壊	38	19	0	0	1,799	0	1,837
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	143	42	2	0	1,798	0	1,944
	南から破壊	1,579	190	7	2	1,620	0	3,207
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2,699	251	11	2	1,619	0	4,331
	南から破壊	4,577	316	14	7	—	0	4,598
筒賀断層	北から破壊	4,247	296	12	7	0	0	4,266
	南から破壊	2,330	184	9	1	—	0	2,340
	北から破壊	2,297	185	8	1	0	0	2,306
	南から破壊							

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

【冬 18 時、風速 5m/s】

表 I.6.3-8(1) 原因別人的被害（死者数 冬 18 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	4	1	—	0	5
	陸側ケース	301	22	40	23	9,846	0	10,210
	東側ケース	2	2	4	1	—	0	7
	西側ケース	2	2	6	1	—	0	10
	経験的手法	166	17	33	17	—	0	216
	最大クラス	331	23	45	24	—	0	401
	北から破壊	391	26	53	42	9,896	0	10,381
安芸灘～伊予灘～豊後水道	南から破壊	510	29	56	38	9,863	0	10,466
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	1	2	0	10,784	0	10,789
	西から破壊	4	1	2	0	10,783	0	10,789
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	8,797	0	8,797
	西から破壊	0	0	0	0	8,797	0	8,797
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,136
	西から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,136
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,135
	西から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,135
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	2	2	0	10,328	0	10,334
	西から破壊	4	2	3	1	10,328	0	10,336
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	719	42	28	85	—	0	832
	南から破壊	836	49	30	94	0	0	960
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	388	28	19	43	—	0	450
	南から破壊	463	32	20	45	0	0	528
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	20	4	4	5	—	0	29
	南から破壊	34	6	7	11	0	0	52
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,102	62	37	105	—	0	1,243
	北から破壊	1,095	62	38	110	0	0	1,243
	南から破壊	1,689	89	46	147	0	0	1,883
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	0	7,715	0	7,717
	南から破壊	1	1	4	1	7,715	0	7,720
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	116	11	12	17	7,662	0	7,806
	南から破壊	173	16	19	34	7,677	0	7,903
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	992	27	24	22	—	0	1,039
	南から破壊	925	25	22	22	0	0	969
筒賀断層	北から破壊	218	10	15	17	—	0	250
	南から破壊	186	10	15	17	0	0	218

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-8(2) 原因別人的被害（負傷者数 冬 18 時 風速 5m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	256	123	5	2	—	0	263
	陸側ケース	5,941	487	49	21	2,666	0	8,678
	東側ケース	430	136	5	2	—	0	437
	西側ケース	513	155	8	2	—	0	523
	経験的手法	4,033	392	41	15	—	0	4,090
	最大クラス	6,228	501	56	22	—	0	6,305
	北から破壊	7,571	544	65	34	1,912	0	9,583
安芸灘～伊予灘～豊後水道	南から破壊	8,508	597	70	33	1,912	0	10,523
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	177	36	2	1	2,411	0	2,591
	西から破壊	180	35	2	1	2,411	0	2,594
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	2,600	0	2,607
	西から破壊	8	6	0	0	2,600	0	2,608
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	2,487	0	2,494
	西から破壊	9	9	0	0	2,487	0	2,496
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,487	0	2,487
	西から破壊	3	3	0	0	2,487	0	2,490
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	192	45	3	1	2,304	0	2,499
	西から破壊	235	66	4	1	2,304	0	2,544
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	8,443	724	35	62	—	0	8,540
	南から破壊	8,846	817	37	67	0	0	8,951
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	4,309	507	24	32	—	0	4,365
	南から破壊	5,088	557	25	34	0	0	5,147
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	296	99	5	4	—	0	305
	南から破壊	761	155	8	9	0	0	778
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	10,265	1,010	46	75	—	0	10,387
	北から破壊	10,271	1,016	48	78	0	0	10,397
	南から破壊	12,836	1,403	57	103	0	0	12,997
安芸灘断層帯	北から破壊	38	21	1	0	2,792	0	2,832
	南から破壊	148	47	5	1	2,792	0	2,945
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	1,844	248	15	14	2,462	0	4,335
	南から破壊	3,163	332	23	26	2,461	0	5,673
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	6,206	438	30	21	—	0	6,257
	南から破壊	5,759	409	27	21	0	0	5,806
筒賀断層	北から破壊	2,828	243	18	14	—	0	2,861
	南から破壊	2,754	243	18	14	0	0	2,786

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-8(3) 原因別人的被害（重傷者数 冬 18 時 風速 5m/s)

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	3	1	—	0	4
	陸側ケース	336	90	25	8	909	0	1,278
	東側ケース	3	3	3	1	—	0	6
	西側ケース	3	3	4	1	—	0	8
	経験的手法	190	70	21	6	—	0	216
	最大クラス	368	93	28	9	—	0	405
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	433	102	33	14	652	0	1,131
	南から破壊	565	114	35	13	652	0	1,265
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	3	1	0	820	0	825
	西から破壊	5	5	1	0	820	0	826
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	884	0	884
	西から破壊	0	0	0	0	884	0	884
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	1	0	783	0	789
	西から破壊	5	5	2	0	783	0	791
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	832	147	17	24	—	0	874
	南から破壊	972	168	19	26	0	0	1,018
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	449	101	12	13	—	0	473
	南から破壊	538	112	13	13	0	0	564
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	20	16	2	2	—	0	24
	南から破壊	34	26	4	4	0	0	42
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,267	210	23	30	—	0	1,319
	北から破壊	1,262	211	24	31	0	0	1,317
安芸灘断層帯	南から破壊	1,944	296	29	41	0	0	2,014
	北から破壊	0	0	1	0	949	0	950
広島湾－岩国冲断層帯	南から破壊	1	1	2	0	949	0	953
	北から破壊	121	45	8	5	838	0	972
長者ヶ原断層－芳井断層	南から破壊	189	62	12	10	838	0	1,049
	北から破壊	1,028	91	15	8	—	0	1,052
筒賀断層	南から破壊	959	85	14	8	0	0	980
	北から破壊	250	43	9	6	—	0	265
筒賀断層	南から破壊	212	43	9	6	0	0	226

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-8(4) 原因別人的被害（軽傷者数 冬 18 時 風速 5m/s)

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	255	123	3	1	—	0	259
	陸側ケース	5,605	397	25	13	1,756	0	7,399
	東側ケース	428	133	3	1	—	0	431
	西側ケース	510	153	4	1	—	0	515
	経験的手法	3,844	322	21	9	—	0	3,874
	最大クラス	5,860	408	28	13	—	0	5,901
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7,138	441	32	21	1,260	0	8,452
	南から破壊	7,943	483	35	20	1,260	0	9,258
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	174	33	1	0	1,591	0	1,766
	西から破壊	175	30	1	0	1,591	0	1,768
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	1,716	0	1,723
	西から破壊	8	6	0	0	1,716	0	1,724
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	1,642	0	1,648
	西から破壊	9	9	0	0	1,642	0	1,650
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,642	0	1,642
	西から破壊	3	3	0	0	1,642	0	1,645
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	188	41	1	0	1,521	0	1,711
	西から破壊	230	61	2	1	1,521	0	1,753
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	7,611	577	17	38	—	0	7,666
	南から破壊	7,874	650	19	41	0	0	7,933
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,860	406	12	20	—	0	3,892
	南から破壊	4,550	446	13	20	0	0	4,583
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	276	83	2	3	—	0	281
	南から破壊	727	129	4	5	0	0	736
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	8,999	800	23	46	—	0	9,067
	北から破壊	9,008	805	24	48	0	0	9,080
安芸灘断層帯	南から破壊	10,892	1,107	28	62	0	0	10,983
	北から破壊	38	21	1	0	1,843	0	1,882
広島湾－岩国冲断層帯	南から破壊	147	46	2	0	1,842	0	1,993
	北から破壊	1,723	203	8	8	1,623	0	3,362
長者ヶ原断層－芳井断層	南から破壊	2,974	270	12	16	1,622	0	4,624
	北から破壊	5,178	347	15	13	—	0	5,206
筒賀断層	南から破壊	4,800	324	13	12	0	0	4,826
	北から破壊	2,578	200	9	9	—	0	2,596
筒賀断層	南から破壊	2,542	200	9	9	0	0	2,560

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

【冬 深夜、風速 11m/s】

表 I.6.3-9(1) 原因別人的被害（死者数 冬 深夜 風速 11m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	5	0	—	0	5
	陸側ケース	337	36	45	3	11,741	0	12,125
	東側ケース	2	2	5	0	—	0	7
	西側ケース	2	2	7	0	—	0	10
	経験的手法	185	27	37	1	—	0	224
	最大クラス	371	38	50	3	—	0	424
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	441	42	59	22	12,380	0	12,902
	南から破壊	576	48	64	23	12,347	0	13,009
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	2	2	0	13,601	0	13,606
	西から破壊	4	2	2	0	13,601	0	13,607
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	11,689	0	11,689
	西から破壊	0	0	0	0	11,689	0	11,689
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
	西から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
	西から破壊	0	0	0	0	12,056	0	12,056
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	3	2	0	12,879	0	12,885
	西から破壊	5	4	3	0	12,879	0	12,887
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	817	68	32	62	—	0	910
	南から破壊	951	79	34	70	0	0	1,055
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	442	45	22	29	—	0	492
	南から破壊	526	50	23	33	0	0	583
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	23	6	4	1	—	0	28
	南から破壊	38	9	8	1	0	0	47
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,252	99	42	83	—	0	1,377
	北から破壊	1,245	101	44	84	0	0	1,373
	南から破壊	1,921	145	53	132	0	0	2,105
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	0	10,807	0	10,808
	南から破壊	1	1	4	0	10,807	0	10,812
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	132	18	14	5	10,212	0	10,362
	南から破壊	197	25	21	5	10,227	0	10,450
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	1,110	43	27	14	—	0	1,151
	南から破壊	1,034	40	24	14	0	0	1,073
筒賀断層	北から破壊	245	17	17	8	—	0	271
	南から破壊	210	16	16	8	0	0	234

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-9(2) 原因別人的被害（負傷者数 冬 深夜 風速 11m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	275	206	6	0	—	0	281
	陸側ケース	7,325	800	56	3	3,201	0	10,584
	東側ケース	483	227	6	0	—	0	489
	西側ケース	583	260	9	0	—	0	592
	経験的手法	4,940	647	47	1	—	0	4,988
	最大クラス	7,687	825	63	3	—	0	7,753
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	9,531	885	74	16	2,578	0	12,199
	南から破壊	10,731	975	79	17	2,577	0	13,404
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	202	62	3	0	2,993	0	3,197
	西から破壊	206	59	3	0	2,993	0	3,201
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	8	8	0	0	3,483	0	3,491
	西から破壊	9	9	0	0	3,483	0	3,492
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	8	8	0	0	3,231	0	3,239
	西から破壊	10	10	0	0	3,231	0	3,241
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	3,231	0	3,231
	西から破壊	3	3	0	0	3,231	0	3,234
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	219	76	3	0	2,834	0	3,057
	西から破壊	267	111	4	0	2,834	0	3,106
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	10,845	1,159	39	42	—	0	10,926
	南から破壊	11,374	1,328	43	47	0	0	11,464
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	5,510	809	27	20	—	0	5,557
	南から破壊	6,522	882	29	23	0	0	6,573
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	360	163	5	1	—	0	366
	南から破壊	944	247	10	1	0	0	954
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	13,182	1,616	52	56	—	0	13,290
	南から破壊	13,193	1,635	54	57	0	0	13,304
安芸灘断層帯	北から破壊	16,501	2,270	65	86	0	0	16,652
	南から破壊	43	36	1	0	3,668	0	3,712
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	171	77	6	0	3,668	0	3,844
	南から破壊	2,323	396	17	4	3,348	0	5,692
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	4,012	532	26	4	3,346	0	7,390
	南から破壊	7,634	710	34	12	—	0	7,679
筒賀断層	北から破壊	7,082	661	30	12	0	0	7,123
	南から破壊	3,579	394	21	6	—	0	3,606
	南から破壊	3,485	393	20	6	0	0	3,511

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-9(3) 原因別人的被害（重傷者数 冬 深夜 風速 11m/s)

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	3	0	—	0	4
	陸側ケース	404	147	28	1	1,092	0	1,526
	東側ケース	3	3	3	0	—	0	6
	西側ケース	3	3	4	0	—	0	8
	経験的手法	226	116	23	1	—	0	250
	最大クラス	444	153	32	1	—	0	477
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	537	166	37	6	879	0	1,460
	南から破壊	708	185	40	7	879	0	1,634
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	4	4	1	0	1,018	0	1,023
	西から破壊	5	5	1	0	1,018	0	1,024
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,184	0	1,184
	西から破壊	0	0	0	0	1,184	0	1,184
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
	西から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
	西から破壊	0	0	0	0	1,099	0	1,099
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	2	0	964	0	970
	西から破壊	6	6	2	0	964	0	972
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	1,067	236	20	17	—	0	1,104
	南から破壊	1,250	272	21	19	0	0	1,290
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	577	160	14	8	—	0	598
	南から破壊	692	176	14	9	0	0	716
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	25	25	3	0	—	0	28
	南から破壊	42	42	5	0	0	0	48
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,626	335	26	22	—	0	1,675
	北から破壊	1,622	339	27	22	0	0	1,672
	南から破壊	2,503	479	33	34	0	0	2,570
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	0	1,247	0	1,248
	南から破壊	1	1	3	0	1,247	0	1,251
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	152	72	9	2	1,141	0	1,303
	南から破壊	239	99	13	2	1,141	0	1,395
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	1,264	147	17	5	—	0	1,286
	南から破壊	1,179	137	15	5	0	0	1,199
筒賀断層	北から破壊	314	70	11	2	—	0	327
	南から破壊	267	69	10	2	0	0	279

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-9(4) 原因別人的被害（軽傷者数 冬 深夜 風速 11m/s)

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	275	205	3	0	—	0	278
	陸側ケース	6,921	653	28	2	2,108	0	9,058
	東側ケース	480	224	3	0	—	0	483
	西側ケース	580	257	4	0	—	0	584
	経験的手法	4,713	531	23	1	—	0	4,737
	最大クラス	7,243	672	31	2	—	0	7,276
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	8,994	719	37	10	1,698	0	10,738
	南から破壊	10,023	789	39	10	1,698	0	11,770
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	198	58	1	0	1,975	0	2,174
	西から破壊	200	54	1	0	1,975	0	2,177
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	8	8	0	0	2,299	0	2,307
	西から破壊	9	9	0	0	2,299	0	2,308
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	8	8	0	0	2,133	0	2,140
	西から破壊	10	10	0	0	2,133	0	2,143
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,133	0	2,133
	西から破壊	3	3	0	0	2,133	0	2,136
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	215	72	2	0	1,871	0	2,087
	西から破壊	261	105	2	0	1,870	0	2,134
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	9,777	923	20	26	—	0	9,822
	南から破壊	10,124	1,055	21	28	0	0	10,173
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	4,933	648	13	12	—	0	4,959
	南から破壊	5,829	706	14	14	0	0	5,857
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	335	138	3	0	—	0	338
	南から破壊	901	205	5	1	0	0	907
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	11,556	1,280	26	34	—	0	11,615
	北から破壊	11,571	1,296	27	34	0	0	11,632
	南から破壊	13,998	1,791	32	52	0	0	14,082
安芸灘断層帯	北から破壊	43	36	1	0	2,421	0	2,464
	南から破壊	170	77	3	0	2,421	0	2,594
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	2,171	324	9	2	2,207	0	4,389
	南から破壊	3,773	433	13	3	2,206	0	5,995
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	6,370	563	17	7	—	0	6,393
	南から破壊	5,902	524	15	7	0	0	5,924
筒賀断層	北から破壊	3,265	324	10	4	—	0	3,279
	南から破壊	3,218	323	10	4	0	0	3,232

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

【夏 12 時、風速 9m/s】

表 I.6.3-10(1) 原因別人的被害（死者数 夏 12 時 風速 9m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	4	0	—	0	4
	陸側ケース	281	20	37	4	10,200	0	10,522
	東側ケース	2	2	4	0	—	0	6
	西側ケース	2	2	6	0	—	0	8
	経験的手法	155	15	31	2	—	0	188
	最大クラス	309	21	42	4	—	0	355
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	366	23	49	19	10,138	0	10,572
	南から破壊	478	27	53	21	10,103	0	10,654
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	1	2	0	10,963	0	10,968
	西から破壊	4	1	2	0	10,963	0	10,968
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	8,866	0	8,866
	西から破壊	0	0	0	0	8,866	0	8,866
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,204
	西から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,204
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,203
	西から破壊	0	0	0	0	9,203	0	9,203
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	1	2	0	10,452	0	10,457
	西から破壊	4	2	3	0	10,452	0	10,459
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	677	39	26	38	—	0	741
	南から破壊	787	45	28	50	0	0	865
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	368	27	18	22	—	0	409
	南から破壊	438	30	19	27	0	0	484
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	19	3	4	1	—	0	23
	南から破壊	32	5	6	1	0	0	39
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,039	58	35	54	—	0	1,128
	北から破壊	1,033	58	36	51	0	0	1,120
	南から破壊	1,592	83	44	86	0	0	1,721
	北から破壊	0	0	1	0	7,755	0	7,756
安芸灘断層帯	南から破壊	1	1	4	0	7,755	0	7,759
	北から破壊	110	10	11	4	7,747	0	7,872
広島湾－岩国沖断層帯	南から破壊	164	15	18	12	7,765	0	7,958
	北から破壊	921	24	23	14	—	0	957
長者ヶ原断層－芳井断層	南から破壊	858	22	20	14	0	0	892
	北から破壊	204	10	14	5	—	0	224
筒賀断層	南から破壊	174	9	14	5	0	0	193

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-10(2) 原因別人的被害（負傷者数 夏 12 時 風速 9m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	271	110	5	0	—	0	276
	陸側ケース	5,350	442	46	5	2,768	0	8,169
	東側ケース	432	121	5	0	—	0	438
	西側ケース	511	139	7	1	—	0	519
	経験的手法	3,656	353	39	3	—	0	3,697
	最大クラス	5,598	454	52	5	—	0	5,655
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	6,801	499	61	16	1,875	0	8,752
	南から破壊	7,647	546	65	18	1,874	0	9,604
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	175	32	2	0	2,435	0	2,613
	西から破壊	178	30	2	0	2,435	0	2,615
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	2,543	0	2,550
	西から破壊	8	5	0	0	2,543	0	2,552
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	2,489	0	2,496
	西から破壊	9	8	0	0	2,489	0	2,498
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,489	0	2,489
	西から破壊	4	4	0	0	2,489	0	2,493
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	190	39	3	0	2,328	0	2,520
	西から破壊	233	58	3	0	2,328	0	2,564
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	7,548	676	33	27	—	0	7,608
	南から破壊	7,909	753	35	35	0	0	7,979
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,896	475	22	17	—	0	3,935
	南から破壊	4,583	525	24	19	0	0	4,626
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	281	91	5	1	—	0	286
	南から破壊	708	145	8	1	0	0	717
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	9,192	942	43	38	—	0	9,274
	北から破壊	9,199	944	45	36	0	0	9,280
	南から破壊	11,489	1,298	54	59	0	0	11,602
	北から破壊	38	19	1	0	2,725	0	2,765
安芸灘断層帯	南から破壊	144	43	5	0	2,725	0	2,874
	北から破壊	1,690	232	14	4	2,455	0	4,163
広島湾－岩国沖断層帯	南から破壊	2,873	309	22	9	2,455	0	5,358
	北から破壊	5,486	399	28	14	—	0	5,528
長者ヶ原断層－芳井断層	南から破壊	5,094	374	25	13	0	0	5,133
	北から破壊	2,553	224	17	5	—	0	2,575
筒賀断層	南から破壊	2,485	224	17	5	0	0	2,506

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-10(3) 原因別人的被害（重傷者数 夏 12 時 風速 9m/s）

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	2	0	—	0	3
	陸側ケース	310	82	23	2	944	0	1,279
	東側ケース	3	3	3	0	—	0	5
	西側ケース	3	3	4	0	—	0	7
	経験的手法	177	63	19	1	—	0	197
	最大クラス	338	84	26	2	—	0	367
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	392	94	31	6	639	0	1,068
	南から破壊	511	104	33	7	639	0	1,190
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	3	1	0	828	0	833
	西から破壊	4	4	1	0	828	0	834
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	865	0	865
	西から破壊	0	0	0	0	865	0	865
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	1	0	792	0	797
	西から破壊	5	5	2	0	792	0	798
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	746	138	16	11	—	0	773
	南から破壊	868	154	18	14	0	0	900
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	407	95	11	6	—	0	425
	南から破壊	486	105	12	8	0	0	505
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	19	15	2	0	—	0	21
	南から破壊	32	24	4	0	0	0	36
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,137	196	22	15	—	0	1,174
	北から破壊	1,133	196	23	14	0	0	1,170
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	0	0	927	0	927
	南から破壊	1	1	2	0	927	0	930
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	111	42	7	1	836	0	956
	南から破壊	173	58	11	4	836	0	1,024
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	909	83	14	5	—	0	928
	南から破壊	848	78	13	5	0	0	865
筒賀断層	北から破壊	222	40	9	2	—	0	233
	南から破壊	188	40	9	2	0	0	199

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-10(4) 原因別人的被害（軽傷者数 夏 12 時 風速 9m/s）

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	270	110	2	0	—	0	273
	陸側ケース	5,039	360	23	3	1,824	0	6,889
	東側ケース	430	118	3	0	—	0	432
	西側ケース	509	136	4	0	—	0	513
	経験的手法	3,479	290	19	2	—	0	3,500
	最大クラス	5,260	370	26	3	—	0	5,289
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	6,408	405	30	9	1,236	0	7,684
	南から破壊	7,136	442	33	11	1,235	0	8,414
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	172	28	1	0	1,607	0	1,780
	西から破壊	173	26	1	0	1,607	0	1,782
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	1,678	0	1,686
	西から破壊	8	5	0	0	1,678	0	1,687
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	1,643	0	1,650
	西から破壊	9	8	0	0	1,643	0	1,652
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,643	0	1,643
	西から破壊	4	4	0	0	1,643	0	1,647
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	186	35	1	0	1,536	0	1,724
	西から破壊	228	53	2	0	1,536	0	1,766
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	6,803	538	16	16	—	0	6,835
	南から破壊	7,041	599	17	21	0	0	7,079
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,489	381	11	10	—	0	3,510
	南から破壊	4,097	419	12	12	0	0	4,121
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	262	76	2	1	—	0	265
	南から破壊	677	120	4	1	0	0	681
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	8,055	746	22	23	—	0	8,100
	北から破壊	8,067	748	22	22	0	0	8,111
安芸灘断層帯	北から破壊	9,751	1,024	27	36	0	0	9,814
	南から破壊	38	19	0	0	1,799	0	1,837
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	143	42	2	0	1,798	0	1,944
	南から破壊	1,579	190	7	2	1,620	0	3,208
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2,699	251	11	6	1,619	0	4,335
	南から破壊	4,577	316	14	8	—	0	4,600
筒賀断層	北から破壊	4,247	296	12	8	0	0	4,267
	北から破壊	2,330	184	9	3	—	0	2,342
	南から破壊	2,297	185	8	3	0	0	2,308

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

【冬 18 時、風速 11m/s】

表 I.6.3-11(1) 原因別人的被害（死者数 冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		原因別死者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	4	8	—	0	13
	陸側ケース	301	22	40	52	9,846	0	10,238
	東側ケース	2	2	4	6	—	0	13
	西側ケース	2	2	6	14	—	0	23
	経験的手法	166	17	33	43	—	0	242
	最大クラス	331	23	45	53	—	0	430
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	391	26	53	87	9,896	0	10,427
	南から破壊	510	29	56	94	9,863	0	10,523
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	1	2	0	10,784	0	10,789
	西から破壊	4	1	2	0	10,783	0	10,789
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	8,797	0	8,797
	西から破壊	0	0	0	0	8,797	0	8,797
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,136
	西から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,136
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,135
	西から破壊	0	0	0	0	9,135	0	9,135
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	3	2	2	0	10,328	0	10,334
	西から破壊	4	2	3	1	10,328	0	10,336
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	719	42	28	170	—	0	916
	南から破壊	836	49	30	193	0	0	1,060
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	388	28	19	87	—	0	494
	南から破壊	463	32	20	110	0	0	593
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	20	4	4	15	—	0	39
	南から破壊	34	6	7	25	0	0	66
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,102	62	37	209	—	0	1,348
	北から破壊	1,095	62	38	216	0	0	1,350
	南から破壊	1,689	89	46	297	0	0	2,032
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	1	1	7,715	0	7,717
	南から破壊	1	1	4	1	7,715	0	7,721
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	116	11	12	45	7,662	0	7,835
	南から破壊	173	16	19	65	7,677	0	7,934
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	992	27	24	37	—	0	1,053
	南から破壊	925	25	22	36	0	0	983
筒賀断層	北から破壊	218	10	15	45	—	0	278
	南から破壊	186	10	15	43	0	0	244

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-11(2) 原因別人的被害（負傷者数 冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		原因別負傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	256	123	5	7	—	0	268
	陸側ケース	5,941	487	49	41	2,666	0	8,697
	東側ケース	430	136	5	6	—	0	441
	西側ケース	513	155	8	11	—	0	532
	経験的手法	4,033	392	41	34	—	0	4,108
	最大クラス	6,228	501	56	42	—	0	6,325
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7,571	544	65	66	1,912	0	9,614
	南から破壊	8,508	597	70	71	1,912	0	10,561
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	177	36	2	1	2,411	0	2,591
	西から破壊	180	35	2	1	2,411	0	2,594
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	2,600	0	2,607
	西から破壊	8	6	0	0	2,600	0	2,608
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	2,487	0	2,494
	西から破壊	9	9	0	0	2,487	0	2,496
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	2,487	0	2,487
	西から破壊	3	3	0	0	2,487	0	2,490
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	192	45	3	1	2,304	0	2,500
	西から破壊	235	66	4	1	2,304	0	2,544
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	8,443	724	35	117	—	0	8,596
	南から破壊	8,846	817	37	133	0	0	9,016
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	4,309	507	24	61	—	0	4,395
	南から破壊	5,088	557	25	77	0	0	5,191
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	296	99	5	11	—	0	312
	南から破壊	761	155	8	19	0	0	788
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	10,265	1,010	46	143	—	0	10,454
	北から破壊	10,271	1,016	48	147	0	0	10,466
安芸灘断層帯	北から破壊	12,836	1,403	57	198	0	0	13,092
	南から破壊	38	21	1	1	2,792	0	2,832
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	148	47	5	1	2,792	0	2,946
	北から破壊	1,844	248	15	34	2,462	0	4,354
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	3,163	332	23	48	2,461	0	5,694
	北から破壊	6,206	438	30	31	—	0	6,267
筒賀断層	北から破壊	5,759	409	27	30	0	0	5,816
	北から破壊	2,828	243	18	33	—	0	2,879
筒賀断層	北から破壊	2,754	243	18	32	0	0	2,804
	南から破壊	2,754	243	18	32	0	0	2,804

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-11(3) 原因別人的被害（重傷者数 冬 18時 風速 11m/s）

想定地震		原因別重傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1	1	3	3	—	0	6
	陸側ケース	336	90	25	16	909	0	1,286
	東側ケース	3	3	3	2	—	0	8
	西側ケース	3	3	4	4	—	0	11
	経験的手法	190	70	21	13	—	0	224
	最大クラス	368	93	28	16	—	0	412
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	433	102	33	26	652	0	1,143
	南から破壊	565	114	35	28	652	0	1,280
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	3	3	1	0	820	0	825
	西から破壊	5	5	1	0	820	0	826
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0	884	0	884
	西から破壊	0	0	0	0	884	0	884
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	846	0	846
	西から破壊	0	0	0	0	846	0	846
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	4	4	1	0	783	0	789
	西から破壊	5	5	2	1	783	0	791
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	832	147	17	46	—	0	896
	南から破壊	972	168	19	52	0	0	1,043
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	449	101	12	24	—	0	485
	南から破壊	538	112	13	30	0	0	581
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	20	16	2	4	—	0	27
	南から破壊	34	26	4	7	0	0	46
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1,267	210	23	56	—	0	1,346
	北から破壊	1,262	211	24	58	0	0	1,345
安芸灘断層帯	北から破壊	1,944	296	29	78	0	0	2,051
	南から破壊	0	0	1	0	949	0	950
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	1	1	2	0	949	0	953
	南から破壊	121	45	8	13	838	0	980
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	189	62	12	19	838	0	1,057
	南から破壊	1,028	91	15	12	—	0	1,055
筒賀断層	北から破壊	959	85	14	12	0	0	984
	南から破壊	250	43	9	13	—	0	272
筒賀断層	北から破壊	212	43	9	13	0	0	233
	南から破壊	212	43	9	13	0	0	233

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-11(4) 原因別人的被害（軽傷者数 冬 18時 風速 11m/s）

想定地震		原因別軽傷者数						合計
		建物倒壊	屋内収容物 移動・転倒	土砂災害	火災	津波	ブロック塀 等の倒壊	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	255	123	3	4	—	0	262
	陸側ケース	5,605	397	25	25	1,756	0	7,411
	東側ケース	428	133	3	3	—	0	434
	西側ケース	510	153	4	7	—	0	521
	経験的手法	3,844	322	21	20	—	0	3,885
	最大クラス	5,860	408	28	25	—	0	5,913
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	7,138	441	32	40	1,260	0	8,471
	南から破壊	7,943	483	35	43	1,260	0	9,281
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	174	33	1	0	1,591	0	1,766
	西から破壊	175	30	1	0	1,591	0	1,768
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	7	5	0	0	1,716	0	1,723
	西から破壊	8	6	0	0	1,716	0	1,724
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	7	7	0	0	1,642	0	1,648
	西から破壊	9	9	0	0	1,642	0	1,650
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0	1,642	0	1,642
	西から破壊	3	3	0	0	1,642	0	1,645
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	188	41	1	1	1,521	0	1,711
	西から破壊	230	61	2	1	1,521	0	1,753
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	7,611	577	17	71	—	0	7,700
	南から破壊	7,874	650	19	80	0	0	7,973
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,860	406	12	37	—	0	3,910
	南から破壊	4,550	446	13	47	0	0	4,610
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	276	83	2	7	—	0	285
	南から破壊	727	129	4	12	0	0	742
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	8,999	800	23	87	—	0	9,108
	北から破壊	9,008	805	24	89	0	0	9,122
安芸灘断層帯	北から破壊	10,892	1,107	28	120	0	0	11,041
	南から破壊	38	21	1	0	1,843	0	1,882
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	147	46	2	1	1,842	0	1,993
	南から破壊	1,723	203	8	20	1,623	0	3,374
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2,974	270	12	29	1,622	0	4,637
	南から破壊	5,178	347	15	19	—	0	5,211
筒賀断層	北から破壊	4,800	324	13	18	0	0	4,832
	南から破壊	2,578	200	9	20	—	0	2,607
筒賀断層	北から破壊	2,542	200	9	20	0	0	2,571
	南から破壊	2,542	200	9	20	0	0	2,571

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

ウ 要救助者、要搜索者

揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）数、津波被害に伴う要救助者数、要搜索者数を市町単位で想定した。

揺れによる建物被害に伴う要救助者は、揺れによる建物の倒壊等により建物内に閉じ込められ自力での脱出が困難となる人とした。

津波被害に伴う要救助者は、津波による浸水域において、浸水深より高い階にいる人がその場に留まると仮定し、これらの人を要救助者とした。津波被害に伴う要搜索者は、津波が到達するまでに避難できない、あるいは避難しない人が津波に巻き込まれるものとし、これらの人を要搜索者とした。

揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）数が最大となるのは、冬深夜に、岩国－五日市断層帯（(3 連動) 南から破壊）の地震が発生した場合で、県西部を中心に 10,806 人となる。続いて岩国－五日市断層帯（(3 連動) 北から破壊）の地震で 7,409 人である。

津波による要救助者数は、沿岸部の 3 階建て以上の建物が多く立地する市街地で人口が多くなる夏 12 時に最大となり、南海トラフ巨大地震（津波ケース 1）が発生した場合で 127,243 人となる。続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 104,869 人である。

また、津波による要搜索者数は、避難開始時間及び避難速度が遅くなる冬深夜に最大となり、讃岐山脈南縁西部区間の地震が発生した場合で 16,592 人となる。続いて中央構造線断層帯（4 連動）の地震で 15,711 人である。

表 I.6.3-12 揺れによる建物被害に伴う要救助者（自力脱出困難者）

想定地震		自力脱出困難者		
		冬深夜 風速11m/s	夏12時 風速9m/s	冬18時 風速11m/s
南海トラフ巨大地震	基本ケース	3	10	7
	陸側ケース	1,352	1,370	1,299
	東側ケース	15	16	15
	西側ケース	16	37	28
	経験的手法	773	820	765
	最大クラス	1,453	1,456	1,387
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	1,809	1,724	1,674
	南から破壊	2,411	2,220	2,184
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	14	21	18
	西から破壊	16	18	17
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0
	西から破壊	0	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0
	西から破壊	0	0	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0
	西から破壊	0	0	0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	16	23	19
	西から破壊	20	22	20
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	5,086	4,473	4,479
	南から破壊	5,572	4,744	4,813
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	2,575	2,294	2,285
	南から破壊	3,017	2,712	2,692
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	92	89	86
	南から破壊	163	157	152
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	7,409	6,541	6,540
	北から破壊	7,319	6,384	6,414
	南から破壊	10,806	9,273	9,380
安芸灘断層帯	北から破壊	1	1	1
	南から破壊	2	2	2
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	678	622	613
	南から破壊	1,115	1,014	1,003
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	3,085	2,821	2,781
	南から破壊	2,819	2,607	2,559
筒賀断層	北から破壊	442	399	395
	南から破壊	343	314	310

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-13 津波被害に伴う要救助者・要搜索者

想定地震		冬深夜	風速11m/s	夏12時	風速9m/s	冬18時	風速11m/s
		要救助者	要搜索者	要救助者	要搜索者	要救助者	要搜索者
南海トラフ巨大地震	基本ケース	—	—	—	—	—	—
	陸側ケース	117,901	14,598	127,243	12,603	117,880	12,170
	東側ケース	—	—	—	—	—	—
	西側ケース	—	—	—	—	—	—
	経験的手法	—	—	—	—	—	—
	最大クラス	—	—	—	—	—	—
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	102,546	14,793	104,869	11,834	99,065	11,642
	南から破壊	102,546	14,793	104,869	11,834	99,065	11,642
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	84,280	16,592	83,897	13,396	80,053	13,193
	西から破壊	84,280	16,592	83,897	13,396	80,053	13,193
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	74,643	15,172	73,369	11,409	70,341	11,397
	西から破壊	74,643	15,172	73,369	11,409	70,341	11,397
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	77,184	15,288	75,568	11,692	72,557	11,623
	西から破壊	77,184	15,288	75,568	11,692	72,557	11,623
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	77,184	15,288	75,568	11,692	72,557	11,623
	西から破壊	77,184	15,288	75,568	11,692	72,557	11,623
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	86,959	15,711	86,897	12,777	82,796	12,630
	西から破壊	86,959	15,711	86,897	12,777	82,796	12,630
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0
安芸灘断層帯	北から破壊	72,766	14,476	70,832	10,480	68,159	10,507
	南から破壊	72,766	14,476	70,832	10,480	68,159	10,507
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	75,421	13,455	75,214	10,106	71,719	10,027
	南から破壊	75,421	13,455	75,214	10,106	71,719	10,027
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0
筒賀断層	北から破壊	—	—	—	—	—	—
	南から破壊	0	0	0	0	0	0

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(3) ライフライン被害

ア 上水道

簡易水道や工業用水道を含む水道管及び浄水場を対象とし、揺れ、津波による市町ごとの断水人口を想定した。揺れによる水道管の被害は 250m メッシュで、津波による浄水場の被害は 10m メッシュで想定した。

最も水道管の被害が多いのは、冬 18 時、風速 11m/s に安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震が発生した場合で 2,022 箇所となり、続いて南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 1,886 箇所となる。（南海トラフ巨大地震（最大クラス）は除く。）

断水人口は、水道管被害の大きさと同様の傾向となり、1 日後の断水人口が南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で最大となり 652,942 人、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 539,532 人、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 490,388 人となる。

復旧に要する期間は、被害の大きい南海トラフ巨大地震、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、中央構造線断層帯の地震、岩国～五日市断層帯の地震、安芸灘断層帯の地震、広島湾～岩国沖断層帯の地震、長者ヶ原断層～芳井断層の地震、筒賀断層の地震で 2 か月以上を要すると見込まれる。

なお、本調査における上水道被害による断水の想定は、あくまで上水道の管路や供給施設の被害に起因するものを前提としている。しかしながら、地震時や豪雨災害などで下水道が機能支障となっている場合は、上水道が健全であっても水を流すことはできず、実質的に上水道も機能支障となることに留意が必要である。

また、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.3-14 上水道の被害（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		総延長 (km)	管きよ被害 箇所 (箇所)	管きよ 被害率 (箇所/km)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	17,534	168	1.0%
	陸側ケース		1,886	10.8%
	東側ケース		276	1.6%
	西側ケース		309	1.8%
	経験的手法		1,351	7.7%
	最大クラス		1,918	10.9%
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊		1,753	10.0%
	南から破壊		2,022	11.5%
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊		82	0.5%
	西から破壊		74	0.4%
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊		4	0.0%
	西から破壊		5	0.0%
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊		4	0.0%
	西から破壊		5	0.0%
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊		0	0.0%
	西から破壊		1	0.0%
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊		87	0.5%
	西から破壊		104	0.6%
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊		978	5.6%
	南から破壊		1,016	5.8%
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊		711	4.1%
	南から破壊		774	4.4%
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊		132	0.8%
	南から破壊		267	1.5%
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊		1,339	7.6%
	北から破壊		1,323	7.5%
	南から破壊		1,621	9.2%
安芸灘断層帯	北から破壊		23	0.1%
	南から破壊		64	0.4%
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊		472	2.7%
	南から破壊		636	3.6%
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊		1,539	8.8%
	南から破壊		1,435	8.2%
筒賀断層	北から破壊		699	4.0%
	南から破壊		678	3.9%

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-15 上水道の断水と復旧（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		給水人口 (人)	断水人口 (人)				断水率 (%)				復旧日数
			直後	1日後	1週間後	1か月後	直後	1日後	1週間後	1か月後	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2,610,278	53,369	47,928	17,316	356	2.0%	1.8%	0.7%	0.0%	60日以上
	陸側ケース		677,414	652,942	498,494	321,981	26.0%	25.0%	19.1%	12.3%	60日以上
	東側ケース		73,110	65,575	25,439	652	2.8%	2.5%	1.0%	0.0%	60日以上
	西側ケース		85,045	76,300	30,226	845	3.3%	2.9%	1.2%	0.0%	60日以上
	経路的手法		324,261	300,487	159,711	13,197	12.4%	11.5%	6.1%	0.5%	60日以上
安芸灘～伊予灘～豊後水道	最大クラス		450,366	421,730	237,626	22,368	17.3%	16.2%	9.1%	0.9%	60日以上
	北から破壊		517,896	490,388	320,893	128,627	19.8%	18.8%	12.3%	4.9%	60日以上
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	南から破壊		569,033	539,532	352,335	132,384	21.8%	20.7%	13.5%	5.1%	60日以上
	東から破壊		187,234	184,898	172,319	163,455	7.2%	7.1%	6.6%	6.3%	60日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	西から破壊		184,879	182,768	171,347	163,406	7.1%	7.0%	6.6%	6.3%	60日以上
	東から破壊		67,235	67,018	65,654	65,036	2.6%	2.6%	2.5%	2.5%	60日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	西から破壊		67,388	67,153	65,751	65,041	2.6%	2.6%	2.5%	2.5%	60日以上
	東から破壊		69,249	69,011	67,505	66,821	2.7%	2.6%	2.6%	2.6%	60日以上
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	西から破壊		69,672	69,389	67,647	66,824	2.7%	2.7%	2.6%	2.6%	60日以上
	東から破壊		67,365	67,316	66,931	66,812	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	60日以上
中央構造線断層帯（4連動）	西から破壊		68,206	68,076	67,157	66,814	2.6%	2.6%	2.6%	2.6%	60日以上
	東から破壊		195,072	192,497	178,314	168,515	7.5%	7.4%	6.8%	6.5%	60日以上
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	西から破壊		200,350	197,234	179,912	168,535	7.7%	7.6%	6.9%	6.5%	60日以上
	北から破壊		252,637	238,456	140,351	15,103	9.7%	9.1%	5.4%	0.6%	60日以上
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	南から破壊		258,053	243,929	144,977	16,339	9.9%	9.3%	5.6%	0.6%	60日以上
	北から破壊		169,402	158,073	88,694	9,399	6.5%	6.1%	3.4%	0.4%	60日以上
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	南から破壊		183,111	171,299	97,260	10,590	7.0%	6.6%	3.7%	0.4%	60日以上
	北から破壊		35,958	33,389	16,411	1,369	1.4%	1.3%	0.6%	0.1%	60日以上
岩国－五日市断層帯（3連動）	南から破壊		68,741	63,210	31,096	2,414	2.6%	2.4%	1.2%	0.1%	60日以上
	北から破壊		329,989	313,676	192,534	23,502	12.6%	12.0%	7.4%	0.9%	60日以上
安芸灘断層帯	北から破壊		326,056	309,636	189,454	23,104	12.5%	11.9%	7.3%	0.9%	60日以上
	南から破壊		390,881	373,154	235,869	31,893	15.0%	14.3%	9.0%	1.2%	60日以上
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊		68,267	67,529	63,321	61,015	2.6%	2.6%	2.4%	2.3%	60日以上
	南から破壊		81,045	78,941	68,034	61,137	3.1%	3.0%	2.6%	2.3%	60日以上
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊		175,278	167,735	121,079	70,263	6.7%	6.4%	4.6%	2.7%	60日以上
	南から破壊		219,793	208,782	143,081	71,894	8.4%	8.0%	5.5%	2.8%	60日以上
筒賀断層	北から破壊		346,055	334,209	225,303	35,757	13.3%	12.8%	8.6%	1.4%	60日以上
	南から破壊		317,609	306,664	206,992	33,312	12.2%	11.7%	7.9%	1.3%	60日以上
	北から破壊		138,579	128,941	70,472	7,477	5.3%	4.9%	2.7%	0.3%	60日以上
	南から破壊		136,392	126,406	67,349	6,489	5.2%	4.8%	2.6%	0.2%	60日以上

注：小数点以下の四捨五入により、合計が合わないことがある。

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 下水道

流域下水道、公共下水道、農業集落排水及び漁業集落排水の埋設管（取付管を除く幹線・枝線管渠）及び下水処理場を対象とし、揺れ、津波による市町ごとの下水道機能支障人口を想定した。揺れによる下水管の被害延長は 250m メッシュで、津波による下水処理場の被害は 10m メッシュで想定した。

最も下水管の被害が多いのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 3,361km、続いて南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 3,180km となる。

下水道機能支障人口の多さは、津波による下水処理場の被害の大きさや揺れによる管渠被害の大きさと同じ傾向にあり、1 日後の下水道機能支障人口が南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 867,621 人となり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 634,409 人、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 631,402 人となる。

復旧に要する期間は、被害の大きい南海トラフ巨大地震、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、中央構造線断層帯の地震、岩国－五日市断層帯の地震、安芸灘断層帯の地震、広島湾－岩国沖断層帯の地震、長者ヶ原断層－芳井断層の地震、筒賀断層の地震で 2 か月以上を要すると見込まれる。

なお、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.3-16 下水道の被害（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		埋設管延長 (km)	管きよ被害延長 (km)	被害率 (%)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	12,613	1,785	14.2%
	陸側ケース		3,180	25.2%
	東側ケース		1,810	14.3%
	西側ケース		2,029	16.1%
	経験的手法		2,996	23.8%
	最大クラス		3,205	25.4%
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊		3,314	26.3%
	南から破壊		3,361	26.6%
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊		427	3.4%
	西から破壊		406	3.2%
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊		80	0.6%
	西から破壊		83	0.7%
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊		180	1.4%
	西から破壊		176	1.4%
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊		137	1.1%
	西から破壊		196	1.6%
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊		647	5.1%
	西から破壊		1,045	8.3%
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊		2,443	19.4%
	南から破壊		2,506	19.9%
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊		2,247	17.8%
	南から破壊		2,302	18.3%
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊		1,340	10.6%
	南から破壊		1,715	13.6%
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊		2,628	20.8%
	北から破壊		2,656	21.1%
	南から破壊		2,808	22.3%
安芸灘断層帯	北から破壊		506	4.0%
	南から破壊		942	7.5%
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊		1,938	15.4%
	南から破壊		2,236	17.7%
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊		851	6.7%
	南から破壊		809	6.4%
筒賀断層	北から破壊		2,187	17.3%
	南から破壊		2,170	17.2%

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-17 下水道の支障と復旧（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		処理人口 (人)	支障人口 (人)				機能支障率 (%)				復旧日数
			直後	1日後	1週間後	1か月後	直後	1日後	1週間後	1か月後	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2, 150, 529	29,892	12,106	1,424	1,160	1.4%	0.6%	0.1%	0.1%	60日以上
	陸側ケース		932,029	867,621	837,758	185,243	43.3%	40.3%	39.0%	8.6%	60日以上
	東側ケース		30,678	13,111	1,767	1,188	1.4%	0.6%	0.1%	0.1%	60日以上
	西側ケース		35,626	14,948	2,021	1,358	1.7%	0.7%	0.1%	0.1%	60日以上
	経験的手法		77,129	40,751	10,128	2,535	3.6%	1.9%	0.5%	0.1%	60日以上
	最大クラス		92,246	51,872	13,876	2,908	4.3%	2.4%	0.6%	0.1%	60日以上
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊		690,302	631,402	592,370	107,658	32.1%	29.4%	27.5%	5.0%	60日以上
	南から破壊		694,711	634,409	593,530	107,784	32.3%	29.5%	27.6%	5.0%	60日以上
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊		392,109	351,971	349,203	70,506	18.2%	16.4%	16.2%	3.3%	60日以上
	西から破壊		392,004	351,907	349,209	70,505	18.2%	16.4%	16.2%	3.3%	60日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊		359,385	330,739	330,447	55,452	16.7%	15.4%	15.4%	2.6%	60日以上
	西から破壊		358,640	329,959	329,626	54,417	16.7%	15.3%	15.3%	2.5%	60日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊		339,664	338,943	338,163	56,511	15.8%	15.8%	15.7%	2.6%	60日以上
	西から破壊		339,864	339,165	338,414	56,850	15.8%	15.8%	15.7%	2.6%	60日以上
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊		339,379	338,867	338,243	56,658	15.8%	15.8%	15.7%	2.6%	60日以上
	西から破壊		340,092	339,379	338,486	56,990	15.8%	15.8%	15.7%	2.7%	60日以上
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊		397,108	354,727	350,908	72,516	18.5%	16.5%	16.3%	3.4%	60日以上
	西から破壊		401,919	357,295	351,238	72,822	18.7%	16.6%	16.3%	3.4%	60日以上
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊		124,310	77,369	24,706	3,690	5.8%	3.6%	1.1%	0.2%	60日以上
	南から破壊		131,258	82,349	27,237	4,030	6.1%	3.8%	1.3%	0.2%	60日以上
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊		86,923	50,159	16,173	3,534	4.0%	2.3%	0.8%	0.2%	60日以上
	南から破壊		92,248	53,358	17,017	3,014	4.3%	2.5%	0.8%	0.1%	60日以上
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊		24,757	11,790	2,076	1,200	1.2%	0.5%	0.1%	0.1%	60日以上
	南から破壊		40,412	19,284	4,357	1,831	1.9%	0.9%	0.2%	0.1%	60日以上
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊		147,154	95,824	32,985	4,516	6.8%	4.5%	1.5%	0.2%	60日以上
	北から破壊		147,893	96,063	33,538	5,091	6.9%	4.5%	1.6%	0.2%	60日以上
安芸灘断層帯	南から破壊		176,470	118,708	44,735	6,248	8.2%	5.5%	2.1%	0.3%	60日以上
	北から破壊		278,494	248,059	245,523	44,425	13.0%	11.5%	11.4%	2.1%	60日以上
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊		284,521	251,508	245,916	44,583	13.2%	11.7%	11.4%	2.1%	60日以上
	南から破壊		320,351	274,866	254,360	48,237	14.9%	12.8%	11.8%	2.2%	60日以上
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊		332,504	284,648	257,142	48,474	15.5%	13.2%	12.0%	2.3%	60日以上
	南から破壊		51,064	40,459	17,862	2,414	2.4%	1.9%	0.8%	0.1%	60日以上
筒賀断層	北から破壊		49,276	39,209	17,562	2,232	2.3%	1.8%	0.8%	0.1%	60日以上
	南から破壊		56,374	27,402	7,161	2,817	2.6%	1.3%	0.3%	0.1%	60日以上
	南から破壊		54,459	27,090	6,824	2,532	2.5%	1.3%	0.3%	0.1%	60日以上

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

ウ 電力

揺れ、火災、津波による電柱被害本数及びそれに伴う停電軒数を 250m メッシュで想定した。

電力の被害は、火災被害の影響を受けるため、火災による焼失棟数が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

電力の被害は、揺れや建物の全壊、火災による焼失等に伴い電柱被害が大きくなるほど大きくなる傾向があるが、建物 1 棟あたりの電灯軒数が地域により異なるため、想定地域間で比較すると電柱被害数と停電軒数の関係が逆転する場合がある。

最も停電軒数が多いのは、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 130,551 軒であり、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 79,324 軒、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 78,429 軒である。

復旧に要する期間は、被害の大きい南海トラフ巨大地震、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、岩国－五日市断層帯の地震、広島湾－岩国沖断層帯の地震、長者ヶ原断層－芳井断層の地震、筒賀断層の地震で 10 日以上を要すると見込まれる。

なお、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6-3-18 電力の被害（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震	電柱本数 (本)	電柱被害 本数 (本)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	1,633
	陸側ケース	3,198
	東側ケース	1,687
	西側ケース	1,812
	経験的手法	2,826
	最大クラス	3,244
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	3,279
	南から破壊	3,493
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	345
	西から破壊	317
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	41
	西から破壊	43
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	47
	西から破壊	58
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	9
	西から破壊	10
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	396
	西から破壊	599
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	2,214
	南から破壊	2,312
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	1,929
	南から破壊	2,023
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	619
	南から破壊	1,076
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	2,633
	北から破壊	2,648
安芸灘断層帯	北から破壊	146
	南から破壊	305
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	1,597
	南から破壊	1,787
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	1,884
	南から破壊	1,686
筒賀断層	北から破壊	1,867
	南から破壊	1,780

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

表 I.6.3-19 電力の停電と復旧（冬 18時 風速 11m/s）

想定地震		電灯軒数 (軒)	停電軒数 (軒)			停電率 (%)			復旧日数
			直後	1日後	2日後	直後	1日後	2日後	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2,071,057	8,654	170	21	0.4%	0.0%	0.0%	182時間
	陸側ケース		130,551	10,424	3,412	6.3%	0.5%	0.2%	250時間以上
	東側ケース		8,551	204	31	0.4%	0.0%	0.0%	182時間
	西側ケース		10,054	251	39	0.5%	0.0%	0.0%	182時間
	経験的手法		19,091	1,191	397	0.9%	0.1%	0.0%	182時間
	最大クラス		21,477	1,945	733	1.0%	0.1%	0.0%	250時間以上
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊		78,429	8,237	2,426	3.8%	0.4%	0.1%	250時間以上
	南から破壊		79,324	8,012	2,343	3.8%	0.4%	0.1%	250時間以上
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊		51,555	1,084	247	2.5%	0.1%	0.0%	182時間
	西から破壊		51,560	1,095	247	2.5%	0.1%	0.0%	182時間
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊		36,266	9	0	1.8%	0.0%	0.0%	182時間
	西から破壊		36,257	11	0	1.8%	0.0%	0.0%	182時間
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊		37,404	8	0	1.8%	0.0%	0.0%	91時間
	西から破壊		37,416	8	0	1.8%	0.0%	0.0%	91時間
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊		37,309	8	0	1.8%	0.0%	0.0%	46時間
	西から破壊		37,313	11	0	1.8%	0.0%	0.0%	90時間
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊		53,663	1,134	257	2.6%	0.1%	0.0%	182時間
	西から破壊		54,448	1,196	261	2.6%	0.1%	0.0%	182時間
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊		26,815	4,510	2,048	1.3%	0.2%	0.1%	250時間以上
	南から破壊		28,133	4,651	2,153	1.4%	0.2%	0.1%	250時間以上
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊		20,087	2,348	1,003	1.0%	0.1%	0.0%	250時間以上
	南から破壊		21,679	2,605	1,134	1.0%	0.1%	0.1%	250時間以上
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊		4,897	190	62	0.2%	0.0%	0.0%	250時間以上
	南から破壊		9,925	488	149	0.5%	0.0%	0.0%	250時間以上
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊		30,456	6,136	3,046	1.5%	0.3%	0.1%	250時間以上
	南から破壊		30,628	5,938	2,932	1.5%	0.3%	0.1%	250時間以上
安芸灘断層帯	北から破壊		37,025	8,459	4,515	1.8%	0.4%	0.2%	250時間以上
	南から破壊		35,312	31	3	1.7%	0.0%	0.0%	182時間
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊		36,136	196	12	1.7%	0.0%	0.0%	182時間
	南から破壊		45,519	3,172	839	2.2%	0.2%	0.0%	250時間以上
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊		46,761	4,261	1,266	2.3%	0.2%	0.1%	250時間以上
	南から破壊		8,354	3,058	1,791	0.4%	0.1%	0.1%	250時間以上
簡賀断層	北から破壊		7,701	2,780	1,629	0.4%	0.1%	0.1%	250時間以上
	南から破壊		14,721	837	297	0.7%	0.0%	0.0%	250時間以上
			13,362	799	260	0.6%	0.0%	0.0%	250時間以上

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

エ 通信

県内の加入電話の回線数を対象に、揺れ、火災、津波による電柱被害に伴う固定電話の不通回線数を 250m メッシュで想定した。通信の被害は、火災被害による影響を受けるため、焼失棟数が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

不通回線数が最も多いのは、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 35,129 回線、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 19,631 回線、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 19,188 回線である。

津波による影響が大きく、津波を想定した地震では、復旧に要する期間は、1 か月以上と見込まれる。

また、携帯電話の被害は、固定電話の不通、停電による基地局の停止を考慮して不通ランクを評価した。ただし、通信規制による輻輳は考慮していない。

結果としていずれの想定地震においてもランクは全てのエリアで D と評価された。（携帯電話不通ランクの定義は次のとおり。）

なお、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる場合がある。

表 I.6.3-20 携帯電話不通ランク

ランク	状態	評価条件
A	非常につながりにくい	停電率・不通回線率のいずれか一方が 50%超
B	つながりにくい	停電率・不通回線率のいずれか一方が 40%超
C	つながりにくい	停電率・不通回線率のいずれか一方が 30%超
D	ランク A、B、C 以外	停電率・不通回線率のいずれも 30%以下

オ ガス

県内の都市ガス供給戸数を対象に、安全装置（SI センサー）の揺れによる作動を 250m メッシュ単位で想定し、同装置が監視する低圧導管及び中圧導管ブロックにおけるガス供給戸数から安全装置の動作に伴う供給停止戸数を想定した。併せて、津波による製造設備の被害を 10m メッシュ単位で、停電に伴う供給停止戸数を市町単位で想定した。

供給エリアにおける揺れの影響が大きく、1 日後に岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動) 岩国断層区間南から破壊）で 206,901 戸、続いて岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動) 五日市断層区間北から破壊）で 174,623 戸となる。

復旧に要する期間は、被害が発生する地震では、いずれも 1 か月以上と見込まれる。

なお、本調査で採用している手法は、各事業者が行う被害想定で採用されている手法とは異なる。

表 I.6.3-21 ガスの被害（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震	供給戸数 (戸)	供給停止戸数 (戸)				供給停止戸率 (%)				復旧日数
		直後	1日後	1週間後	1か月後	直後	1日後	1週間後	1か月後	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
	陸側ケース	64,479	64,479	64,366	61,091	13.8%	13.8%	13.8%	13.1%	30日以上
	東側ケース	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
	西側ケース	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
	経験的手法 最大クラス	4,127	4,127	4,053	2,229	0.9%	0.9%	0.9%	0.5%	30日以上
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	108,488	108,488	108,473	104,128	23.2%	23.2%	23.2%	22.3%	30日以上
	南から破壊	90,129	90,129	89,999	84,570	19.3%	19.3%	19.3%	18.1%	30日以上
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	西から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	西から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	西から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	西から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	西から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	131,941	131,941	131,769	118,969	28.3%	28.3%	28.2%	25.5%	30日以上
	南から破壊	150,165	150,165	150,165	139,653	32.2%	32.2%	32.2%	29.9%	30日以上
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	29,701	29,701	29,701	27,622	6.4%	6.4%	6.4%	5.9%	30日以上
	南から破壊	29,701	29,701	29,701	27,622	6.4%	6.4%	6.4%	5.9%	30日以上
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
	南から破壊	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	153,945	153,945	153,945	143,169	33.0%	33.0%	33.0%	30.7%	30日以上
	北から破壊	174,623	174,623	174,435	158,321	37.4%	37.4%	37.4%	33.9%	30日以上
	南から破壊	206,901	206,901	206,462	182,896	44.3%	44.3%	44.2%	39.2%	30日以上
安芸灘断層帯	北から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
	南から破壊	50,956	50,956	50,956	50,956	10.9%	10.9%	10.9%	10.9%	30日以上
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	59,488	59,488	59,488	58,891	12.7%	12.7%	12.7%	12.6%	30日以上
	南から破壊	76,913	76,913	76,913	75,096	16.5%	16.5%	16.5%	16.1%	30日以上
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	30,500	30,500	30,500	28,365	6.5%	6.5%	6.5%	6.1%	30日以上
	南から破壊	19,700	19,700	19,700	18,762	4.2%	4.2%	4.2%	4.0%	30日以上
筒賀断層	北から破壊	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし
	南から破壊	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	停止なし

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(4) 交通施設被害

ア 道路

TMI 道路地図※による広島県内全ての道路を対象とし、津波浸水域は津波による被害箇所を 10m メッシュで、津波浸水域外は揺れによる被害箇所を 250m メッシュで想定した。

最も被害箇所が多いのは、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 1,359 箇所であり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 1,311 箇所、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 1,234 箇所となる。

※ TMI 道路地図：三井 E&S システム技研株式会社が発行する「TMI 道路地図 V2022」を使用

表 I.6.3-22 道路の被害

想定地震		揺れによる被害箇所数（箇所）			津波による被害箇所数（箇所）			被害箇所数合計（箇所）		
		直轄国道	国道以外	計	直轄国道	国道以外	計	直轄国道	国道以外	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	30	311	341	0	0	0	30	311	341
	陸側ケース	73	908	981	30	348	378	103	1,256	1,359
	東側ケース	33	358	391	0	0	0	33	358	391
	西側ケース	37	389	427	0	0	0	37	389	427
	経験的手法	73	871	944	0	0	0	73	871	944
	最大クラス	85	1,046	1,131	0	0	0	85	1,046	1,131
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	85	930	1,016	20	198	218	106	1,128	1,234
	南から破壊	90	999	1,089	21	201	221	111	1,200	1,311
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	7	84	92	19	219	238	26	304	330
	西から破壊	6	78	83	19	219	238	25	297	322
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	1	20	21	17	164	181	18	184	202
	西から破壊	1	20	20	17	164	181	18	184	202
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	2	30	32	18	168	185	20	197	217
	西から破壊	3	32	35	18	168	185	21	200	220
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	1	13	14	18	168	185	19	181	200
	西から破壊	1	22	23	18	168	185	19	189	208
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	11	111	122	20	227	246	30	338	368
	西から破壊	14	157	171	20	226	246	33	383	417
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	39	459	498	0	0	0	39	459	498
	南から破壊	41	481	523	0	0	0	41	481	523
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	33	425	458	0	0	0	33	425	458
	南から破壊	35	451	485	0	0	0	35	451	485
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	14	197	211	0	0	0	14	197	211
	南から破壊	23	284	307	0	0	0	23	284	307
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	43	545	587	0	0	0	43	545	587
	北から破壊	45	549	594	0	0	0	45	549	594
	南から破壊	51	616	667	0	0	0	51	616	667
安芸灘断層帯	北から破壊	5	55	60	17	162	178	21	217	238
	南から破壊	11	108	118	17	161	178	27	269	296
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	22	298	319	17	161	178	39	459	498
	南から破壊	28	380	408	17	158	175	45	538	582
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	26	380	405	0	0	0	26	380	405
	南から破壊	21	351	373	0	0	0	21	351	373
筒賀断層	北から破壊	34	509	543	0	0	0	34	509	543
	南から破壊	35	525	561	0	0	0	35	525	561

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 鉄道

県内の新幹線・在来線（アストラムライン、広島電鉄を含む）を対象に、津波浸水域は津波による被害箇所を 10m メッシュで、津波浸水域外は揺れによる被害箇所を 250m メッシュで想定した。

最も被害箇所が多いのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 842 箇所となり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 813 箇所、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 800 箇所となる。

表 I. 6. 3-23 鉄道の被害

想定地震		揺れによる被害箇所数（箇所）			津波による被害箇所数（箇所）			被害箇所数合計（箇所）		
		新幹線	在来線	計	新幹線	在来線	計	新幹線	在来線	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	5	195	200	0	0	0	5	195	200
	陸側ケース	31	638	669	23	108	131	54	746	800
	東側ケース	8	210	218	0	0	0	8	210	218
	西側ケース	9	244	252	0	0	0	9	244	252
	経験的手法	30	540	570	0	0	0	30	540	570
	最大クラス	35	696	732	0	0	0	35	696	732
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	35	705	739	19	55	74	54	760	813
	南から破壊	35	716	751	19	72	91	54	788	842
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	0	52	53	21	104	125	21	157	178
	西から破壊	1	44	45	21	104	125	21	149	170
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	13	13	16	94	110	16	107	123
	西から破壊	0	12	12	16	94	110	16	106	122
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	20	20	16	98	114	16	117	133
	西から破壊	0	22	22	16	98	114	16	120	136
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	5	5	16	98	114	16	103	119
	西から破壊	0	11	11	16	98	114	16	109	125
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	0	65	65	21	110	131	21	174	196
	西から破壊	2	89	91	21	110	131	23	199	221
岩国～五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	14	345	359	0	0	0	14	345	359
	南から破壊	14	375	389	0	0	0	14	375	389
岩国～五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	14	279	294	0	0	0	14	279	294
	南から破壊	13	285	298	0	0	0	13	285	298
岩国～五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	9	113	122	0	0	0	9	113	122
	南から破壊	13	176	189	0	0	0	13	176	189
岩国～五日市断層帯（3連動）	北から破壊	19	393	412	0	0	0	19	393	412
	南から破壊	20	403	423	0	0	0	20	403	423
安芸灘断層帯	北から破壊	24	452	476	0	0	0	24	452	476
	南から破壊	0	24	25	16	91	107	17	116	132
広島湾～岩国沖断層帯	北から破壊	1	59	60	16	91	107	17	150	167
	南から破壊	13	196	209	17	76	93	30	272	303
長者ヶ原断層～芳井断層	北から破壊	14	253	267	17	66	83	31	319	350
	南から破壊	14	254	268	0	0	0	14	254	268
簡賀断層	北から破壊	12	233	245	0	0	0	12	233	245
	南から破壊	8	243	251	0	0	0	8	243	251
簡賀断層	北から破壊	8	256	264	0	0	0	8	256	264
	南から破壊	8	256	264	0	0	0	8	256	264

注：岩国～五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

ウ 港湾

特定重要港湾、重要港湾、地方港湾（漁港を含む）の岸壁、物揚場のうち、広島県が管理する 429 施設を対象として、揺れによる被害箇所数を 250m メッシュで、津波による被害箇所数を 10m メッシュで想定した。

最も被害箇所が多いのは、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 228 施設、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 187 施設、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 185 施設となる。

表 I.6.3-24 揺れによる港湾岸壁施設等の被害

想定地震		被害施設数（施設）				被害率（％）				
		国際拠点港湾	重要港湾	地方港湾	計	国際拠点港湾	重要港湾	地方港湾	計	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2	11	35	47	0.0%	0.0%	11.2%	0.0%	
	陸側ケース	7	44	176	228	0.0%	0.1%	56.9%	0.2%	
	東側ケース	1	17	45	62	0.0%	0.0%	14.4%	0.1%	
	西側ケース	2	17	61	81	0.0%	0.0%	19.8%	0.1%	
	経験的手法	5	37	170	213	0.0%	0.0%	54.9%	0.2%	
	最大クラス	7	44	184	235	0.0%	0.1%	59.3%	0.2%	
安芸灘～伊予灘～豊後水道		北から破壊	12	25	147	185	0.0%	0.0%	47.6%	0.2%
	南から破壊	12	25	150	187	0.0%	0.0%	48.4%	0.2%	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）		東から破壊	0	11	21	32	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%
	西から破壊	0	11	17	28	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）		東から破壊	0	1	4	5	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%
	西から破壊	0	1	4	5	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）		東から破壊	0	0	6	7	0.0%	0.0%	2.0%	0.0%
	西から破壊	0	0	7	8	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）		東から破壊	0	0	1	1	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%
	西から破壊	0	1	2	3	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	
中央構造線断層帯（4連動）		東から破壊	0	12	28	40	0.0%	0.0%	9.0%	0.0%
	西から破壊	0	12	34	45	0.0%	0.0%	10.8%	0.0%	
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）		北から破壊	17	0	11	28	0.0%	0.0%	3.5%	0.0%
	南から破壊	15	0	8	24	0.0%	0.0%	2.6%	0.0%	
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）		北から破壊	12	0	14	26	0.0%	0.0%	4.4%	0.0%
	南から破壊	12	0	9	21	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）		北から破壊	2	0	8	9	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%
	南から破壊	8	0	14	21	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	
岩国－五日市断層帯（3連動）		北から破壊	20	0	21	41	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
	北から破壊	19	0	22	41	0.0%	0.0%	7.0%	0.0%	
	南から破壊	21	0	24	45	0.0%	0.0%	7.8%	0.0%	
安芸灘断層帯		北から破壊	0	0	17	17	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%
	南から破壊	0	0	31	32	0.0%	0.0%	10.1%	0.0%	
広島湾－岩国沖断層帯		北から破壊	12	0	39	51	0.0%	0.0%	12.7%	0.1%
	南から破壊	13	0	44	57	0.0%	0.0%	14.2%	0.1%	
長者ヶ原断層－芳井断層		北から破壊	0	40	24	64	0.0%	0.1%	7.6%	0.1%
	南から破壊	0	33	13	46	0.0%	0.0%	4.2%	0.0%	
簡賀断層		北から破壊	4	0	3	7	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%
	南から破壊	4	0	2	6	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

エ 空港

広島空港、広島ヘリポートを対象に、空港機能の維持に重要となる建物と滑走路について震度と液状化危険度から各想定地震における使用可能性を定性的に評価した。

(ア) 広島空港

広島空港は中国圏の拠点空港であり、平時における国内外の航空ネットワークと背後圏の経済活動を支えるとともに、被災時においても被災状況の確認、救急・救命活動、緊急物資や人員輸送の受け入れ等の機能を果たすことが求められる。

そのため、空港施設の地震に対する安全性確認が行われており、建物について現行の耐震基準に適合していること、その他付属施設についても耐震性の確認あるいは耐震化が完了しているため、想定地震の震度に対しても使用可能と考えられる。

滑走路については、南海トラフ巨大地震及び安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震で震度5強以上の揺れが想定されるため、点検のために閉鎖される可能性があるが、液状化については、PL 値が5以下であるため、液状化による被害を受ける可能性は低い。これらの状況から広島空港は、空港としての機能性は災害時にも確保できると考えられる。

(イ) 広島ヘリポート

広島ヘリポートは、広島県警察、広島市消防局などのヘリコプターが運用され、広島大学病院をはじめとした県内18病院と連携したドクターヘリの運用拠点となっている。

南海トラフ巨大地震では、震度5強程度の揺れが想定され、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震、中央構造線断層帯に地震（伊予灘区間（東から破壊）、及び4連動（西から破壊））、岩国一五日市断層の地震（各区間、及び3連動）、安芸灘断層群（南から破壊）、広島湾一岩国沖断層帯の地震、筒賀断層の地震でも震度5弱～6弱の揺れが想定される。

これらの想定地震では、液状化が発生する危険性が高い（ $PL > 15$ ）と判定される地震もあり、液状化による地表の変形、噴砂が発生する恐れがあるものの、全域にわたり大規模な地表の変形が発生するとは考えにくく、変形があった場合でもヘリポートとしての機能は維持できると考えられる。

ただし、管理事務所は昭和36年の建築であり、強い地震に見舞われた場合には建物等に被害が生じる恐れがあり、ヘリポートとしての機能に部分的に支障が生じることも懸念される。また、広島ヘリポートは、海岸に位置しており、南

海トラフ巨大地震や安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震において、津波による浸水が想定されている。浸水が発生した場合には、航空機の破損や航空燃料の流出、船舶の流入・座礁等による空港機能の喪失が懸念される。

表 I.6.3-25 空港等の震度及び液状化危険度

想定地震		広島空港		広島ヘリポート		
		震度階級	PL値	震度階級	PL値	浸水深
南海トラフ巨大地震	基本ケース	震度4	0	震度5弱	0	—
	陸側ケース	震度5強	0	震度5強	18	1.0
	東側ケース	震度5弱	0	震度5弱	0	—
	西側ケース	震度5弱	0	震度5弱	2	—
	経験的手法	震度5弱	0	震度5強	11	—
	最大クラス	震度5強	0	震度5強	18	—
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	震度5強	0	震度5強	31	0.3
	南から破壊	震度5強	0	震度5強	39	0.3
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	震度4	0	震度4	0	0.0
	西から破壊	震度4	0	震度4	0	0.0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	震度3	0	震度3	0	0.0
	西から破壊	震度3	0	震度3	0	0.0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	震度4	0	震度4	0	0.0
	西から破壊	震度4	0	震度4	0	0.0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	震度3	0	震度5弱	0	0.0
	西から破壊	震度3	0	震度4	0	0.0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	震度4	0	震度4	0	0.0
	西から破壊	震度4	0	震度5弱	0	0.0
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	震度4	0	震度6弱	58	—
	南から破壊	震度4	0	震度6弱	57	—
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	震度4	0	震度5強	36	—
	南から破壊	震度4	0	震度6弱	51	—
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	震度3	0	震度5弱	2	—
	南から破壊	震度4	0	震度5強	11	—
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	震度4	0	震度6弱	58	—
	北から破壊	震度4	0	震度6弱	47	—
	南から破壊	震度4	0	震度6弱	51	—
安芸灘断層帯	北から破壊	震度3	0	震度4	0	0.0
	南から破壊	震度4	0	震度5弱	0	0.0
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	震度3	0	震度6弱	27	0.0
	南から破壊	震度4	0	震度6弱	48	0.0
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	震度4	0	震度4	0	—
	南から破壊	震度4	0	震度3	0	—
筒賀断層	北から破壊	震度4	0	震度5強	17	—
	南から破壊	震度4	0	震度5強	13	—

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

オ 道路ネットワーク

TMI 道路地図による広島県内の幅員 5.5m 以上の道路を対象に揺れや液状化による構造物の被害を予測し、通行支障区間を評価したうえで、平時の到達圏と比較して遅延の程度を想定した。

最も被害が大きいのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）であり、主に呉市、東広島市の道路にて通行支障が生じることが想定されるため、県東部の三原市、尾道市、福山市を中心に広い範囲で平時より到達に時間を要するエリアが生じることが想定される。

続いて岩国－五日市断層帯(3 連動)の地震（岩国断層区間南から破壊）では、主に広島市の道路に通行支障が生じることが想定されるため、県西部の安芸高田市、安芸太田町、北広島町を中心に広い範囲で平時より到達に時間を要するエリアが生じることが想定される。

(5) 生活への影響

ア 避難者

建物被害やライフライン被害に伴い、避難所生活又は疎開を強いられる住居制約者を避難者とみなして、当日・1日後、1週間後、1か月後の避難者を市町単位で想定した。

建物被害やライフライン被害が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

避難所避難者及び避難所外避難者の合計が最も多いのは、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で当日・1 日後に 74.8 万人、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で当日・1 日後に 67.8 万人、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で当日・1 日に 66.3 万人となる。

なお、時間の経過とともに断水時生活困窮度が増すため、想定地震によっては、当日・1 日後より 1 週間後の避難者数が増加する場合があります、南海トラフ巨大地震では、上水道の被害が大きいいため復旧に時間を要し、1 か月後において避難者が約 10 万人増加する。

表 I.6.3-26 避難者数（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		当日・1日後			1週間後			1か月後		
		避難所避難者	避難所外避難者	計	避難所避難者	避難所外避難者	計	避難所避難者	避難所外避難者	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	117,970	78,647	196,617	100,316	100,316	200,632	59,074	137,840	196,915
	陸側ケース	470,367	277,304	747,671	468,020	276,368	744,388	255,051	595,120	850,172
	東側ケース	117,959	78,640	196,599	101,218	101,218	202,436	59,141	137,996	197,138
	西側ケース	134,620	89,747	224,366	115,655	115,655	231,311	67,520	157,547	225,067
	経験的手法	230,420	153,613	384,034	209,546	209,546	419,092	118,334	276,113	394,447
	最大クラス	255,414	170,276	425,690	238,374	238,374	476,747	132,879	310,052	442,931
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	411,052	251,885	662,938	359,333	251,995	611,328	179,330	418,436	597,765
	南から破壊	420,287	258,007	678,293	394,932	285,849	680,781	208,788	487,171	695,959
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	214,912	110,612	325,524	193,843	50,653	244,496	99,855	232,995	332,850
	西から破壊	214,630	110,479	325,110	193,468	50,504	243,972	99,661	232,543	332,204
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	162,918	81,801	244,719	134,697	22,465	157,162	58,358	136,168	194,526
	西から破壊	163,133	81,948	245,081	134,889	22,670	157,559	58,468	136,425	194,893
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	166,356	83,629	249,986	137,976	23,490	161,466	59,972	139,935	199,907
	西から破壊	166,579	83,791	250,370	138,180	23,745	161,924	60,086	140,200	200,286
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	164,453	82,339	246,792	136,316	21,750	158,066	59,012	137,696	196,708
	西から破壊	164,518	82,385	246,903	136,399	21,842	158,241	59,048	137,778	196,826
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	222,130	114,784	336,915	201,142	54,415	255,557	103,829	242,267	346,096
	西から破壊	235,378	124,029	359,408	212,487	67,324	279,811	110,716	258,337	369,053
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	253,339	168,893	422,232	223,775	223,775	447,550	129,550	302,284	431,835
	南から破壊	256,770	171,180	427,950	226,920	226,920	453,840	131,468	306,758	438,226
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	212,189	141,460	353,649	185,178	185,178	370,355	107,938	251,856	359,795
	南から破壊	220,268	146,845	367,113	192,645	192,645	385,291	112,199	261,798	373,998
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	63,210	42,140	105,350	54,368	54,368	108,735	31,898	74,429	106,328
	南から破壊	117,849	78,566	196,416	101,428	101,428	202,856	59,444	138,703	198,148
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	274,431	182,954	457,385	245,790	245,790	491,580	141,607	330,416	472,022
	南から破壊	274,444	182,963	457,407	245,584	245,584	491,169	141,562	330,311	471,873
安芸灘断層帯	北から破壊	303,121	202,081	505,202	272,775	272,775	545,549	157,264	366,949	524,212
	南から破壊	169,097	86,345	255,442	139,087	29,243	168,330	60,953	142,225	203,178
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	182,760	96,472	279,232	151,669	45,738	197,407	69,265	161,619	230,884
	南から破壊	290,527	174,696	465,223	252,205	169,083	421,288	134,625	314,125	448,749
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	306,607	186,460	493,068	268,430	189,257	457,687	144,521	337,217	481,738
	南から破壊	81,540	54,360	135,900	90,286	90,286	180,572	48,375	112,875	161,250
筒賀断層	北から破壊	75,040	50,027	125,067	83,090	83,090	166,181	44,613	104,097	148,710
	南から破壊	168,348	112,232	280,580	147,406	147,406	294,812	85,766	200,121	285,888
		156,210	104,140	260,349	137,074	137,074	274,147	79,521	185,550	265,071

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 帰宅困難者

外出中に地震に遭遇し、遠距離等の理由により、徒歩等の手段によっても当日中に帰宅が困難な人を帰宅困難者^{※1}として市町単位で想定した。帰宅が困難であることの判定は、居住地と就業・通学先との距離で行い、1km 遠くなるごとに帰宅困難率が 2.18%増加するとした。

併せて就業地、通学先で帰宅のための手段を失い当該地域で滞留せざるを得ない人を滞留者^{※2}として市町単位で想定した。

なお、最も外出者が多い昼 12 時を条件とし、外出者数を深夜人口と昼間人口の差分として設定して想定した。

また、外出者は、令和 2 年国勢調査結果の集計表の「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」による各市区町外からの通勤者・通学者数としており、旅行者や買い物客は含んでいない。

※1 帰宅困難者：地震後しばらくして混乱等が収まり、帰宅が可能となる状況になった場合において、遠距離等の理由により徒歩等の手段によっても当日中の帰宅が困難となる者。該当の市外から市内に通勤・通学している者を対象とする。

※2 滞留者：地震後しばらくして混乱等が収まり、帰宅が可能となる状況になった場合において、遠距離等の理由により外出先に足止めされ、滞留する者。該当の市内から市外へ通勤・通学している者を対象とする。

想定に用いた外出者数を表 I.6.3-27、図 I.6.3-1 に示す。帰宅困難者となりうる外出者（居住する市区町外に通勤、通学している者）数は、県全域で 501,485 人であり、帰宅困難者が最大となるのは県内全域で揺れが強くなる南海トラフ巨大地震、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震で 135,826 人である。なお、この度の推計における帰宅困難者数の中には、勤務先や学校などの屋内に留まる者も含まれる。

表 I. 6. 3-27 外出者数

(単位：人)

市区町	就業地		通学地		合計	
	市区町内	市区町外	市区町内	市区町外	市区町内	市区町外
広島市中区	43,154	20,881	2,008	2,246	45,162	23,127
広島市東区	20,542	34,298	1,849	3,543	22,391	37,841
広島市南区	36,484	30,906	2,745	3,415	39,229	34,321
広島市西区	41,727	47,365	3,029	4,810	44,756	52,175
広島市安佐南区	54,042	57,538	7,718	5,270	61,760	62,808
広島市安佐北区	33,319	28,466	2,619	3,066	35,938	31,532
広島市安芸区	13,836	22,446	899	2,667	14,735	25,113
広島市佐伯区	27,925	35,069	2,638	3,632	30,563	38,701
呉市	80,943	16,899	6,254	2,562	87,197	19,461
竹原市	7,251	3,401	296	517	7,547	3,918
三原市	32,831	8,688	2,014	1,538	34,845	10,226
尾道市	48,881	12,083	3,245	1,751	52,126	13,834
福山市	176,882	27,022	13,973	3,752	190,855	30,774
府中市	11,772	5,720	608	729	12,380	6,449
三次市	20,330	3,630	1,108	552	21,438	4,182
庄原市	14,393	2,262	1,067	208	15,460	2,470
大竹市	6,872	4,797	205	632	7,077	5,429
東広島市	70,623	20,022	9,028	3,235	79,651	23,257
廿日市市	29,223	24,087	2,028	2,631	31,251	26,718
安芸高田市	9,892	2,637	393	396	10,285	3,033
江田島市	8,304	2,121	170	387	8,474	2,508
府中町	9,311	15,156	506	1,656	9,817	16,812
海田町	5,079	9,179	453	763	5,532	9,942
熊野町	4,246	6,310	306	703	4,552	7,013
坂町	2,061	3,727	133	434	2,194	4,161
安芸太田町	2,079	528	116	38	2,195	566
北広島町	7,976	1,452	564	176	8,540	1,628
大崎上島町	2,934	195	576	38	3,510	233
世羅町	5,884	2,060	302	188	6,186	2,248
神石高原町	3,395	928	167	77	3,562	1,005
合計	832,191	449,873	67,017	51,612	899,208	501,485

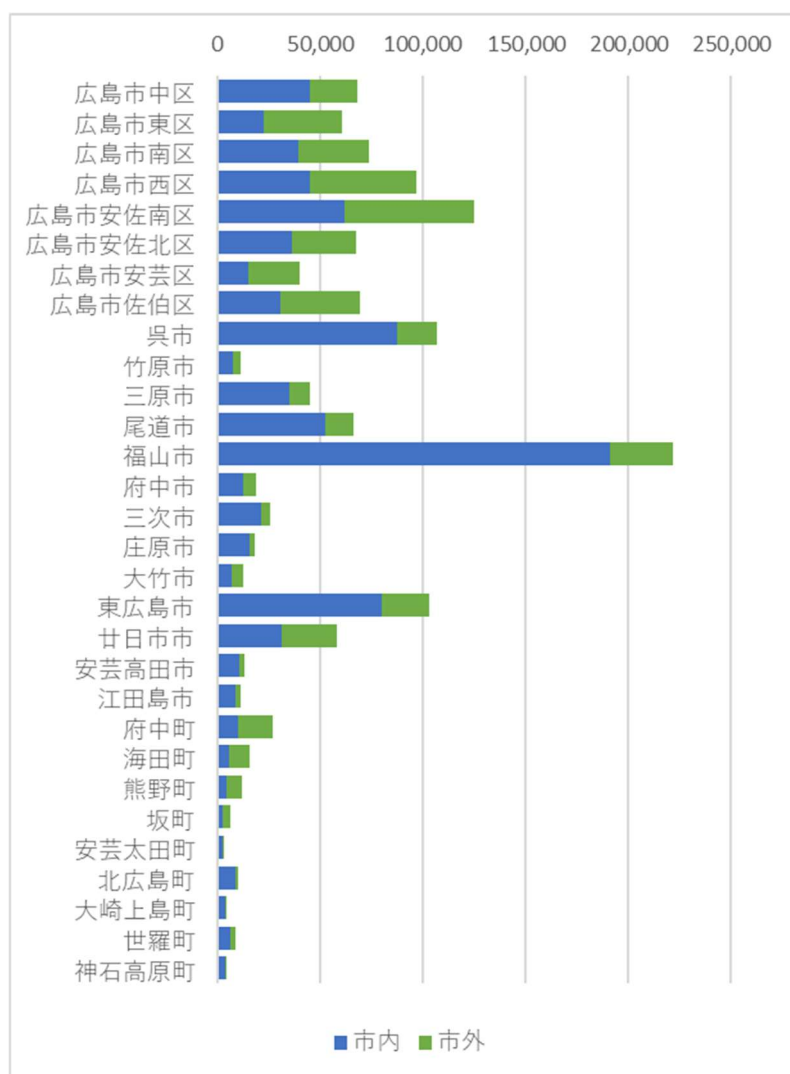


図 I.6.3-1 外出者数 (単位：人)

表 I.6.3-28 帰宅困難者数 (単位：人)

想定地震		帰宅困難者	滞留者
南海トラフ巨大地震	基本ケース	135,826	133,611
	陸側ケース	135,826	133,611
	東側ケース	135,826	133,611
	西側ケース	135,826	133,611
	経験的手法	135,826	133,611
	最大クラス	135,826	133,611
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	135,826	133,611
	南から破壊	135,826	133,611
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	50,129	51,545
	西から破壊	50,129	51,545
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	34,238	35,946
	西から破壊	26,999	27,418
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	48,532	50,710
	西から破壊	47,519	49,938
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	76,264	61,070
	西から破壊	83,372	70,420
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	89,946	78,304
	西から破壊	128,357	128,391
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	129,572	128,129
	南から破壊	129,572	128,129
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	126,238	125,641
	南から破壊	126,696	125,751
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	106,968	106,748
	南から破壊	124,651	123,875
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	129,572	128,129
	北から破壊	129,572	128,129
	南から破壊	130,490	129,391
安芸灘断層帯	北から破壊	101,548	95,747
	南から破壊	122,103	122,909
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	126,696	125,751
	南から破壊	126,696	125,751
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	56,060	56,938
	南から破壊	48,821	48,410
筒賀断層	北から破壊	132,150	130,599
	南から破壊	132,150	130,599

ウ 物資の不足

(ア) 物資不足量（食料、飲料水、毛布、仮設トイレ）

避難所生活者を対象者として、食料、飲料水、生活必需品（毛布）、仮設トイレの不足量等を算出した。なお、被害が最大となる冬 18 時の条件で不足量等を想定した。

この結果、食料が最も不足するのは南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で約 151.6 万食、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で約 133.0 万食不足する。飲料水が最も不足するのは、南海トラフ巨大地震で約 194.2 万リットル、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で約 165.8 万リットル不足する。

また、生活必需品（毛布）が最も不足するのは、南海トラフ巨大地震で約 91.7 万枚、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で約 81.7 万枚不足する。なお、仮設トイレについては想定地震に関わらず不足しない。

災害用物資・機材等の備蓄状況については、内閣府（2025b）⁴⁶ の調査結果を参考にした。

表 I.6.3-29 物資の不足量（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		食料 (食)	飲料水 (L)	毛布 (枚)	仮設トイレ (基)
		不足量	不足量	不足量	不足量
南海トラフ巨大地震	基本ケース	153,418	0	208,657	0
	陸側ケース	1,516,174	1,942,454	917,116	0
	東側ケース	153,118	0	208,532	0
	西側ケース	239,201	30,716	242,940	0
	経験的手法	624,959	866,704	436,395	0
	最大クラス	720,300	1,264,808	487,143	0
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	1,294,794	1,498,631	798,563	0
	南から破壊	1,329,600	1,658,252	817,457	0
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	512,972	324,017	391,685	0
	西から破壊	510,089	315,499	391,013	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	297,962	0	286,968	0
	西から破壊	299,160	0	287,398	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	313,177	0	295,735	0
	西から破壊	314,160	0	295,757	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	303,187	0	290,503	0
	西から破壊	303,491	0	290,631	0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	545,100	352,420	408,768	0
	西から破壊	604,850	374,413	439,765	0
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	602,651	496,408	465,346	0
	南から破壊	615,195	510,407	472,399	0
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	448,314	233,049	381,925	0
	南から破壊	479,157	270,663	398,563	0
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	0	0	77,250	0
	南から破壊	104,548	0	191,323	0
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	682,280	739,771	507,948	0
	北から破壊	683,006	728,754	507,995	0
	南から破壊	788,773	938,508	566,142	0
安芸灘断層帯	北から破壊	329,694	0	303,272	0
	南から破壊	389,965	17,819	333,944	0
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	786,126	305,524	552,189	0
	南から破壊	847,953	449,671	585,678	0
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	0	794,745	92,756	0
	南から破壊	0	705,751	77,269	0
筒賀断層	北から破壊	289,137	133,346	293,577	0
	南から破壊	245,123	125,769	268,314	0

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

なお、物資、燃料の需要、供給の想定される様相について、様相の異なる南海トラフ巨大地震とそれ以外の地震に分けて記載する。

(イ) 物資不足の様相

・南海トラフ巨大地震

1) 物資の需給

地震発生直後においては、混乱や被災者の移動により必要量の把握困難が続く、被災地への物資供給の過不足が生じる。特に、県南部の広い範囲で震度6弱以上の強い揺れとなるため、多数の住民等が避難所へ避難し、食料、飲料水、毛布が大量に不足する。県北部でも建物被害があるため、各市町で避難者が発生し、備蓄物資が払底する。

2) 物資の輸送

地震発生直後においては、県内全域の道路において、建物倒壊による道路閉塞や橋梁の落下、土砂崩れによる道路不通が多発するため、輸送機能が低下し、被災地への輸送に支障が生じる。地震発生から数日すると緊急輸送道路等の仮復旧が進むものの、県内及び本県を経由して被災地へ支援物資を搬送する車両が通行可能な道路に集中するため渋滞が発生し、物資の輸送に支障が続く、物資の不足が続く。

3) 物資の確保

地震発生直後においては、県南部で備蓄物資による供給量を超える避難者が発生し、供給物資が枯渇する。県北部でも避難者が発生するため、備蓄物資からの供給が必要となり、余剰物資の融通が困難となる。施設が被災していない店舗でも、買占めにより在庫がなくなり、交通支障により商品の供給量が大幅に低下するため、営業を停止せざるを得なくなる。

数日後からは、徐々に道路の復旧が進み、物資の供給が再開するが、県外の被災地への物資供給のため、本県への割当量が少なくなり、物資不足が継続する。また、全国的に強い揺れ、津波が発生するため、製造設備が停止し、物資の供給量が低下し、継続的な物資不足となる。

・南海トラフ巨大地震以外の地震

1) 物資の需給

活断層等の地震では、震源に近い地域で強い揺れとなるため、建物の被害が局所的に集中して発生する。これらの地域では、多数の住民が避難所へ避難し、大量の飲料水、食料が必要となり、地域内での備蓄物資では不足が生じる。

2) 物資の輸送

震源に近い地域では、強い揺れによる倒壊建物による道路の閉塞や橋梁の落

下、土砂崩れによる道路不通により物資の輸送機能が低下し、被災地外からの物資の供給に支障が生じる。地震発生後 1 週間以後は、交通インフラの復旧に伴い、被災地周辺地域からの支援物資が集中し、物資の集積スペース、物資の管理が困難となる。

3) 物資の確保

被災地の範囲が、県域を大きく超えることがないため、周辺地域から物資の供給を得ることができ、交通支障が解消されれば、被災地内へも物資の供給が可能となり、物資不足は数日程度の短期間に解消される。

(ウ) 燃料不足の様相

・南海トラフ巨大地震

1) 燃料の需給

県内南部を中心に強い揺れとなり、ガソリンスタンド等の燃料小売店の一部が被災し、燃料の供給が困難となる。このため、燃料供給への不安が広がり、需要過剰となり、店頭在庫の燃料が短期間に払底する。

さらに、全国的な強い揺れと津波により、沿岸部に集中する石油製品の生産施設の多くが被災し、石油精製能力が落ちるため供給が低下し、交通網の寸断と合わせて、県内への燃料供給が大幅に低下する。

2) 燃料の輸送

県域を超える広域の道路が被災し、道路不通により物資の輸送機能が低下するとともに、広域で行われる応急対策活動、復旧活動により燃料需要が急増し、タンクローリー等の輸送車両の需要が急増し、車両不足により燃料の円滑な供給に支障が生じる。

3) 燃料の確保

地震発生後 1 日～数日は、在庫の払底、供給停止により、災害対応車両、緊急車両への燃料の供給にも不足が生じる。

地震発生後 1 週間以後は、石油製品の生産施設の復旧、再開により燃料等の供給が次第に回復するが、復旧に時間を要する施設が多い場合は、全国的な燃料不足が継続する。

・南海トラフ巨大地震以外の地震

震源に近い地域では強い揺れとなり、ガソリンスタンド等が被災するだけでなく、電力供給の停止等により小売店の機能が停止、低下し、燃料の供給が困

難となる。被災地周辺では、災害対応車両や被災地住民による燃料の確保、購入が集中し、一時的な供給不足が生じるが、被災地域が限定されるため、周辺地域から数日中に燃料の供給が行われる。

エ 医療機能支障

(ア) 要転院患者数、医療需要過不足数

医療機能の被害は、二次医療圏を単位として、要転院患者数^{※1}、医療需要過不足数^{※2}を想定した。なお、被害が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で要転院患者数を想定した。

※1 要転院患者数：地震に伴う医療施設の損壊、ライフラインの支障により転院を必要とする患者の数

※2 医療需要過不足数：医療機関の受入許容量から地震に伴い発生する新規入院需要、新規外来需要を差し引いた数

要転院患者数および医療需要過不足数を表 I. 6. 3-30 に示す。

転院を要する患者数が最も多数発生する地震は、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 1,044 人、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 971 人となる。医療供給を上回る需要が県全体で最も多数発生する地震は、岩国～五日市断層帯の地震（(3 連動) 岩国断層区間 南から破壊）で 16,737 人、続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）14,556 人となる。

表 I. 6. 3-30 要転院患者数および医療需要過不足数（冬 深夜 風速 11m/s）

想定地震		転院患者 数（人）	医療需要過不足数（人）		
			入院	外来	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	276	-95	-145	-240
	陸側ケース	1,044	-3,082	-8,554	-11,636
	東側ケース	277	-98	-349	-447
	西側ケース	316	-113	-432	-545
	経験的手法	575	-462	-4,460	-4,922
	最大クラス	643	-731	-6,966	-7,697
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	971	-3,070	-10,269	-13,340
	南から破壊	970	-3,254	-11,302	-14,556
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	357	-2,501	-2,002	-4,503
	西から破壊	355	-2,502	-2,006	-4,507
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	257	-2,438	-2,183	-4,621
	西から破壊	258	-2,438	-2,184	-4,622
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	265	-2,392	-2,012	-4,404
	西から破壊	266	-2,392	-2,014	-4,406
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	259	-2,390	-2,008	-4,397
	西から破壊	259	-2,390	-2,010	-4,400
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	376	-2,382	-1,905	-4,287
	西から破壊	419	-2,399	-1,932	-4,330
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	637	-1,405	-9,515	-10,919
	南から破壊	618	-1,599	-9,875	-11,474
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	533	-823	-4,701	-5,525
	南から破壊	546	-954	-5,594	-6,547
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	146	-79	-267	-346
	南から破壊	280	-145	-771	-916
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	723	-2,051	-11,266	-13,317
	北から破壊	704	-2,041	-11,292	-13,333
	南から破壊	818	-3,050	-13,687	-16,737
安芸灘断層帯	北から破壊	283	-2,422	-2,328	-4,750
	南から破壊	325	-2,439	-2,436	-4,876
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	616	-2,542	-4,092	-6,634
	南から破壊	659	-2,657	-5,676	-8,333
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	281	-1,494	-6,258	-7,751
	南から破壊	253	-1,389	-5,802	-7,192
筒賀断層	北から破壊	389	-482	-3,091	-3,573
	南から破壊	355	-420	-3,060	-3,480

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

なお、医療機関及び医療活動において想定される様相について、様相の異なる南海トラフ巨大地震とそれ以外の地震に分けて記載する。

（イ）医療機関の機能及び医療活動の様相

・南海トラフ巨大地震

1) 災害拠点病院

南海トラフ巨大地震では、県域の広範囲が強い揺れとなる。災害拠点病院では耐震・免震構造化が進んでいるものの、ライフライン機能の低下、停止による断水、停電、ガス供給停止により災害拠点病院の機能が制限される。加えて、県域を越える広範囲に甚大な被害が発生した場合、ライフライン施設の復旧人員、物資の不足から断水、停電、ガス供給停止が長期間に及び備蓄の払底により災害拠点病院の機能が停止又は制限される。

2) 医薬品等の確保

医薬品等の物的資源は、交通支障に伴う流通機能停止や低下により供給困難となる。また、県外の被災地の需要増による供給不足や需要量の確保が困難な状況が発生する。

3) 人的資源の確保

医療関係者等の人員は、県内の医療関係者自身が被災者となり医療に従事できなくなることに加え、県外からの DMAT 等の応援人員が県外の被災地に投入されることにより、県内での人的資源の不足が生じる。

4) 地域医療の継続

地域医療では、強い揺れが広範囲に及ぶため多数の診療所等が被災すると予想され、定期的な診療や人工透析などを必要とする患者等への医療供給の停止、機能低下や医薬品の処方や HQT 患者（在宅酸素療法が必要な患者）への酸素供給が困難となるなどの切実な問題が発生する。

また、交通機能支障による通院手段の喪失により必要な医療を受けることが困難となる患者等が発生する。

・南海トラフ巨大地震以外の地震

1) 災害拠点病院

活断層等を震源とする地震では、震源付近の地域では震度 6 強以上の強い揺れとなり、耐震・免震構造を持つ医療施設でも非常発電用燃料タンク、貯水槽などの被害により機能が停止又は低下する可能性がある。しかしながら、震源から離れた地域では揺れも比較的弱くなるため、県域全体で医療施設が機能低下、停止する事態は考えにくく、被災地周辺の医療施設によるバックアップが期待できる。

2) 地震発生直後の災害医療

活断層等を震源とする地震では、建物の倒壊等による負傷者が高密度に発生する可能性が高く、これらの患者を迅速に救出し、周辺地域の医療施設へ広域搬送する必要があるが、道路網の損傷等により車両通行が困難となるため、救出、搬送に支障が生じる。

また、震源付近の地域では医療対応力が低下する中で、膨大な数の重傷者・軽傷者が発生することから、最善の救命効果を得るためのトリアージを実施する必要が生じる。

3) 被災病院等の入院患者の転院

震源付近の病院等では、病院機能の低下、停止により入院患者の転院、搬送が必要となる。

4) 地域医療の継続

震源付近の診療所等では、強い揺れにより施設被害が甚大となり、施設の復旧、診療再開に時間が必要となる。被災診療所の通院患者は他の診療所、病院への通院が必要となり、医療施設が少ない地域では、交通手段を持たない患者への医療の提供が困難となる。

また、かかりつけの診療所等が被災することで、医薬品等の入手が一時的に困難となる。

(ウ) 保健衛生、防疫、遺体処理等の様相

保健衛生、防疫、遺体処理等において想定される様相について、様相の異なる南海トラフ巨大地震とそれ以外の地震に分けて記載する。

・南海トラフ巨大地震

1) 保健衛生

県域の広範囲に被害が及び、多数の者が避難所に避難する。開設される避難所も多数に上り、避難所間の設備、環境、運営の人的資源などに格差が生じる。広範囲に避難所が分散し、道路交通網の支障により仮設トイレ等の確保、設置や医師等の巡回が困難となる。

また、夏季の避難所、仮設住宅における暑さ対策が求められるが、対応すべき場所が膨大な数となり、人的・物的資源の両面から対応が遅れる。その結果、高齢者・乳幼児を中心に熱中症や脱水症状、食中毒が発生する。

2) 防疫

強い揺れとなる県南部では、避難所に多数の避難者が集中し、一人当たりの居住スペースの減少、仮設トイレの不足などが深刻となる。冬季に地震が発生した場合、インフルエンザなどの感染症が流行すると、高密度の避難所において感染者が急増し、医薬品、医療施設、医師等の人材が急激に不足する。

3) 遺体処置等

死者・行方不明者の搜索範囲が極めて広範囲にわたり、消防・警察・自衛隊の人的・物的資源の多くを投入することが必要となるが、県外からの応援人員が本県以外の被災地に投入されることが予想され、人的・物的資源が不足する。

輸送や供給の支障により遺体の安置のための棺、ドライアイスが全国的に不足し、夏季には遺体の保存、管理に衛生上の問題が発生する。

火葬施設の被災や燃料不足により、火葬能力が低下する。また、被災地外での火葬のための遺体の搬送に必要な車両、燃料の確保が困難となる。

- **南海トラフ巨大地震以外の地震**

- 1) **保健衛生**

- 活断層等の地震では、震源に近い地域で強い揺れとなるため、建物の被害が局所的に集中して発生する。これらの地域では、多数の住民が避難所へ集中し、一人当たりの居住スペースの減少、仮設トイレの不足などが深刻となる。

- 2) **防疫**

- 冬季に地震が発生した場合、インフルエンザなどの感染症が流行すると、高密度の避難所において感染者が急増し、医薬品、医療施設、医師等の人材が急激に不足する。

(6) 災害廃棄物等

地震による被害建物等を発生源とする災害廃棄物の量を想定し、さらに、これらの廃棄物の仮置場として必要となる面積を想定した。災害廃棄物の量は、建物被害の発生量による影響が大きいと、建物被害が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

最も発生量が多いのは南海トラフ巨大地震(陸側ケース)で、2,223 万トンであり、その仮置場として 2,021ha が必要となる。続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震(南から破壊)で、1,861 万トンとなり、その仮置場として 1,691ha が必要となる。

また、津波により発生する堆積物の量も算定し、津波堆積物の発生量が最も多いのは、南海トラフ巨大地震(陸側ケース)で 785 万トンとなる。

表 I.6.3-31 災害廃棄物発生量(冬 18 時 風速 11m/s)

想定地震		災害廃棄物量(万t)			仮置き場 面積 (ha)	津波堆積 物(万t)
		木造	非木造	計		
南海トラフ巨大地震	基本ケース	291	278	569	517	—
	陸側ケース	1,044	1,178	2,223	2,021	785
	東側ケース	294	284	577	525	—
	西側ケース	328	317	645	586	—
	経験的手法	529	568	1,097	998	—
	最大クラス	589	641	1,230	1,118	—
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	848	965	1,813	1,648	399
	南から破壊	875	986	1,861	1,691	399
中央構造線断層帯(讃岐山脈南縁西部区間)	東から破壊	310	418	728	662	408
	西から破壊	308	416	725	659	408
中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁区間)	東から破壊	169	264	434	394	274
	西から破壊	170	265	434	395	274
中央構造線断層帯(石鎚山脈北縁西部区間)	東から破壊	175	271	447	406	0
	西から破壊	176	272	449	408	0
中央構造線断層帯(伊予灘区間)	東から破壊	170	264	434	395	0
	西から破壊	170	264	434	395	0
中央構造線断層帯(4連動)	東から破壊	329	442	771	700	403
	西から破壊	362	483	845	768	403
岩国一五日市断層帯(己斐断層区間)	北から破壊	542	489	1,031	938	—
	南から破壊	562	490	1,052	956	—
岩国一五日市断層帯(五日市断層区間)	北から破壊	457	414	871	792	—
	南から破壊	478	428	906	824	—
岩国一五日市断層帯(岩国断層区間)	北から破壊	138	122	259	236	—
	南から破壊	245	229	474	431	—
岩国一五日市断層帯(3連動)	北から破壊	612	537	1,149	1,044	—
	北から破壊	614	534	1,148	1,044	—
	南から破壊	713	591	1,304	1,186	—
安芸灘断層帯	北から破壊	179	279	457	416	269
	南から破壊	213	322	535	486	269
広島湾一岩国沖断層帯	北から破壊	503	567	1,070	973	276
	南から破壊	547	604	1,151	1,046	276
長者ヶ原断層一芳井断層	北から破壊	255	296	551	501	—
	南から破壊	232	268	501	455	—
筒賀断層	北から破壊	377	333	710	646	—
	南から破壊	351	306	658	598	—

注：岩国一五日市断層帯(3連動)は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(7) その他の被害

ア エレベータ内閉じ込め

各想定地震発生時に停止するエレベータの内部に閉じ込められる人の数を想定した。なお、閉じ込め者数が最大となる朝7時～8時に地震が発生した場合を想定した。

エレベータ内閉じ込め者数が最も多い地震は、停電軒数の多い南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で、234人がエレベータ内に閉じ込められる。

表 I.6.3-32 エレベータ内閉じ込め者数（朝7時から8時の時間帯を想定）

想定地震		閉じ込め者数 (人)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	60
	陸側ケース	234
	東側ケース	62
	西側ケース	79
	経験的手法	155
	最大クラス	175
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	203
	南から破壊	203
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	96
	西から破壊	95
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	64
	西から破壊	64
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	67
	西から破壊	51
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	37
	西から破壊	42
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	68
	西から破壊	75
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	114
	南から破壊	114
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	96
	南から破壊	98
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	39
	南から破壊	67
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	123
	北から破壊	124
	南から破壊	130
安芸灘断層帯	北から破壊	42
	南から破壊	53
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	103
	南から破壊	116
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	46
	南から破壊	40
筒賀断層	北から破壊	77
	南から破壊	77

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 長周期地震動による様相

長周期地震動において想定される様相について、様相の異なる南海トラフ巨大地震とそれ以外の地震に分けて記載する。

・南海トラフ巨大地震

1) 超高層建築物の立地

地震動の卓越周期と建物の固有周期が一致した場合には、揺れが大きく増幅すると考えられている。南海トラフ巨大地震が発生した場合、固有周期の長い超高層建築物（高さが 60m を超えるもの）や免震建築物への影響が大きいと考えられる。広島県においては、50 棟以上の超高層建築物が存在しており、その多くは広島市の中区・南区・西区・東区の平地部に位置しているが、一部は広島市安佐南区や福山市にも見られ、業務活動の拠点となるとともに、高層住宅やホテルとして活用されている。

超高層建築物が立地する広島市、福山市の地盤は、大阪市内などのような深い軟弱地盤ではないため、長周期地震動による影響は受けにくい、沖積低地からなる地盤に相当するため、一応の注意が必要となる。

2) 超高層建築物における被害の様相

超高層免震建物では、免震層許容変位量を超える大変位やエキスパンションジョイント※被害等が発生する場合がある。

建物内では、固定していない家具・什器の転倒、コピー機等のキャスター付什器の滑りによって、人的被害が発生する。上層階の多くの人々が、揺れによって動作上の支障を生じ、吐き気やめまいを感じる人も発生する。

揺れに対する不安から、地上へ避難しようとする人が多数発生するが、建築物の防災設計は火災からの特定階避難を前提としているため、一斉に避難を開始すると多数の避難者が、非常階段等に殺到し、転倒等による二次災害が発生する。

被災後には、構造安全性の確認を行う技術者が不足し、構造安全性の詳細確認までに長時間が必要となる。オフィスビルでは、非常用発電機の無給油連続運転時間は最長 3 日程度であり、系統電力の供給停止が長期化した場合、事業継続が困難となる。マンションでは、停電・断水等により、いわゆる「高層難民」となる上層階居住者が多数発生する。

※ エキスパンションジョイント：異なる性状を持った構造体同士を分割して力を伝達しないようにする継ぎ目のこと。

・南海トラフ巨大地震以外の地震

活断層等の地震においては、地震そのものの継続時間も短く、長周期地震動による影響は比較的軽微であり、南海トラフ巨大地震に比べ、被害は全体的に小さくなる。

ウ 道路閉塞

地震発生時に道路沿線の建物等が倒壊し、道路に倒れ込むことで道路が閉塞した場合、人命救助、消防活動、避難などが困難となることから、道路が閉塞する可能性が高い幅員 13m 未満の道路を対象として、建物等の倒れ込みによる道路リンク閉塞率※を 250m メッシュで想定した。

※ 道路リンク閉塞率：幅員 13m 未満の道路を対象に、交差点間の道路を一つのリンクと考え、沿線の建物等が倒れ込んだ場合に、塞がれていない幅員が 3m 以下になったリンクの割合をいう。

閉塞率が 20%以上と高くなる地域が最も多いのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 1.3%(1.33%)となり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 1.3%(1.28%)、岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動)岩国断層区間南から破壊）で 1.1%である。また、閉塞率が 10%以上となる地域では、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 6.7%と最も多く、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 6.1%、南海トラフ巨大地震で 5.7%となる。

表 I.6.3-33 道路リンク閉塞率の割合

想定地震		道路リンク閉塞率の割合		
		10～20% 以下	20～50% 以下	50%超
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2.5	0.2	0.0
	陸側ケース	4.9	0.8	0.0
	東側ケース	2.6	0.2	0.0
	西側ケース	2.7	0.2	0.0
	経験的手法	4.3	0.7	0.0
	最大クラス	5.0	0.9	0.0
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	4.8	1.3	0.0
	南から破壊	5.4	1.3	0.0
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	0.2	0.0	0.0
	西から破壊	0.2	0.0	0.0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0.0	0.0	0.0
	西から破壊	0.0	0.0	0.0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0.0	0.0	0.0
	西から破壊	0.0	0.0	0.0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0.0	0.0	0.0
	西から破壊	0.0	0.0	0.0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	0.2	0.1	0.0
	西から破壊	0.5	0.1	0.0
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	3.3	0.6	0.0
	南から破壊	3.5	0.7	0.0
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3.1	0.5	0.0
	南から破壊	3.2	0.5	0.0
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	0.7	0.2	0.0
	南から破壊	2.4	0.3	0.0
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	3.9	0.8	0.0
	北から破壊	4.0	0.8	0.0
	南から破壊	4.3	1.1	0.0
安芸灘断層帯	北から破壊	0.2	0.0	0.0
	南から破壊	0.4	0.1	0.0
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	3.2	0.4	0.0
	南から破壊	3.3	0.5	0.0
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	1.2	0.5	0.0
	南から破壊	1.1	0.3	0.0
筒賀断層	北から破壊	3.2	0.6	0.0
	南から破壊	3.1	0.4	0.0

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

エ 道路上への落石・崩土による様相

道路上への落石・崩土について、南海トラフ巨大地震とそれ以外の地震に分けて記載する。

・南海トラフ巨大地震

1) 災害の発生が想定される地域

強い地震となる県南部において多数の被害が発生する。また、南部に限らず、山地や急傾斜地に近接する道路が多い県北部においても、走行中の自動車が、地震の揺れによる落石や崩土に巻き込まれ、死傷者が発生する可能性がある。

2) 道路交通ネットワークへの影響

山陽自動車道・中国自動車道・国道 2 号等の広域幹線道路をはじめとして、県内の主要ネットワークとなる主要地方道・一般県道等にも急傾斜地に近接したルートをとるものが多く、落石・崩土の影響による通行止めが発生する可能性があることから、道路交通ネットワークの機能性低下が懸念される。

3) 救助事案への影響

落石や崩土に巻き込まれた被災者を発見・救助するための赤外線探知機等の機材が必要となるほか、危険な場所での作業となるため、レスキュー部隊等の特殊な人的資源や土砂の崩壊を避けるための適切な指示を行う専門家等の派遣が必要となる。

・南海トラフ巨大地震以外の地震

1) 災害の発生が想定される地域

活断層等の地震では、震源に近い地域で強い揺れとなり、山地や急傾斜地に近接する道路において多数の落石や崩壊が発生し、自動車等が巻き込まれることによる死傷者が集中して発生する可能性がある。

2) 道路交通ネットワークへの影響

南海トラフ巨大地震と同様である。

3) 救助事案への影響

南海トラフ巨大地震と同様である。

オ 交通人的被害（道路）

交通人的被害（道路）において想定される様相は次のとおりである。

地震発生時には、橋梁の落下・倒壊に伴う事故や道路への落石、斜面崩壊、道路の陥没等による交通事故等に加え、ドライバーの運転ミスによる交通事故が多発する。

島しょ部や低地・沿岸地域では運転中に津波に巻き込まれる車両が発生する。

また、地震や津波による間接的な影響として、停電により信号灯等の交通施設が機能停止することにより、交通事故、渋滞が発生する。

さらに、道路の寸断や交通事故、放置車両等に起因する道路渋滞により、負傷者を緊急搬送する車両が遅れ、症状が悪化する。

沿岸部や河川に沿った低地部では、堤防等の破損による洪水が発生し、アンダーパス、地下駐車場に洪水が流入して車両が水没し、人が閉じ込められる。

カ 交通人的被害（鉄道）

交通人的被害（鉄道）において想定される様相は次のとおりである。

運行中の揺れによる脱線・衝突事故や急停車等の措置に伴う乗客の人的被害に加えて、線路周辺の住民の人的被害や建物被害等が発生する。

特に広島市市街地を運行する広島電鉄の併用軌道では、自動車・歩行者等の他の交通や沿道市街地を巻き込んだ事故の発生の可能性が高まる。

JR 山陽本線や JR 呉線、及び広島電鉄等の低地や沿岸部を走行している列車が津波により浸水、又は緊急停止が必要となる。

また、アストラムラインの地下駅では、地震による堤防の破損による洪水が発生し、地下へ流入することにより、人的被害が発生する可能性が高まり、利用者の避難、立入規制が必要となる。

キ 要配慮者

各想定地震における避難所避難者数をもとに、避難所避難者の内数として避難所に避難する要配慮者を算出した。算出に当たっては、全人口に対する要配慮者の人口比率を避難所避難者数に掛け合わせたため、要配慮者の避難率は考慮していない。避難所での対応等の参考となるよう、幅広い要配慮者を対象としたが、要配慮者の種別による重複の除外は行っていない。また、福祉避難所については実態の把握が困難であるため、特段の考慮はしていない。

なお、避難者数が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

避難所に避難する要配慮者数は、南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で当日・1 日後に 116,109 人と最も多くなるが、1 週間後には 94,784 人と減少していく。次に多いのは、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で、当日・1 日後に 103,137 人であるが、1 週間後には 80,073 人と減少していく。

表 I.6.3-34 当日・1 日後の要配慮者（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		要配慮者数（人）		
		直後	1週間後	1か月後
南海トラフ巨大地震	基本ケース	29,195	19,439	17,078
	陸側ケース	116,109	94,784	61,214
	東側ケース	29,299	19,170	17,313
	西側ケース	33,315	22,383	19,425
	経験的手法	56,951	39,946	32,827
	最大クラス	63,194	44,653	36,572
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	100,907	71,906	51,050
	南から破壊	103,137	80,073	54,377
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	52,575	40,711	21,030
	西から破壊	52,445	40,632	20,955
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	39,488	29,361	13,776
	西から破壊	39,537	29,386	13,808
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	40,370	30,049	14,200
	西から破壊	40,424	30,077	14,240
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	39,839	29,782	13,840
	西から破壊	39,858	29,792	13,853
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	54,458	42,101	22,120
	西から破壊	57,812	44,034	24,368
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	60,559	50,215	32,321
	南から破壊	61,362	50,989	32,774
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	50,775	41,024	27,072
	南から破壊	52,681	42,797	28,125
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	15,280	11,400	8,380
	南から破壊	28,383	21,722	15,356
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	65,699	54,365	35,397
	北から破壊	65,708	54,319	35,433
	南から破壊	72,580	60,400	39,300
安芸灘断層帯	北から破壊	41,056	29,901	14,857
	南から破壊	44,462	32,282	17,216
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	70,165	54,486	33,218
	南から破壊	74,027	58,067	35,674
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	20,861	12,353	13,907
	南から破壊	19,094	11,327	12,730
筒賀断層	北から破壊	40,501	32,378	21,677
	南から破壊	37,580	29,933	20,165

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

ク 災害関連死

(ア) 災害関連死者数

災害関連死は、東日本大震災の岩手県、宮城県や、令和 6 年能登半島地震の石川県における災害関連死者数と最大避難者数の関係に基づき、幅のある想定値として算出した。

最も多く災害関連死者が発生するのは、南海トラフ巨大地震(陸側ケース)で1,881人～3,763人であり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震(南から破壊)で1,681人～3,362人となる。

表 I.6.3-35 災害関連死者数 (冬 18 時 風速 11m/s)

想定地震		関連死
南海トラフ巨大地震	基本ケース	472～944
	陸側ケース	1881～3763
	東側ケース	472～944
	西側ケース	538～1077
	経験的手法	922～1843
	最大クラス	1022～2043
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	1644～3288
	南から破壊	1681～3362
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	860～1719
	西から破壊	859～1717
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	652～1303
	西から破壊	653～1305
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	665～1331
	西から破壊	666～1333
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	658～1316
	西から破壊	658～1316
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	889～1777
	西から破壊	942～1883
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	1013～2027
	南から破壊	1027～2054
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	849～1698
	南から破壊	881～1762
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	253～506
	南から破壊	471～943
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	1098～2195
	北から破壊	1098～2196
	南から破壊	1212～2425
安芸灘断層帯	北から破壊	676～1353
	南から破壊	731～1462
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	1162～2324
	南から破壊	1226～2453
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	361～722
	南から破壊	332～665
筒賀断層	北から破壊	673～1347
	南から破壊	625～1250

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(イ) 災害関連死の様相

災害関連死において想定される様相は次のとおりである。

1) 医療施設への影響

地震に伴う医療施設の機能支障により、入院患者治療や手術に支障が生じる。また、地震発生後、ライフライン支障の継続や道路被害による医薬品の供給の停止、機能低下により、医薬品の常用を必要とする患者や、人工透析を必要とする患者の症状が悪化することで災害関連死が発生する。

2) 避難所への影響

多数の避難者が共同生活を送る中で、インフルエンザ等の感染症が蔓延し、多数の患者が発生することで災害関連死が発生する。

避難所生活等の強いストレスから、慢性的な疾患を有する患者の容態が悪化することで災害関連死が発生する。

津波浸水域やライフラインが途絶した地域から、バス等により遠距離又は長時間の避難が必要となる場合、入院患者や寝たきりの高齢者の体調不良、容態の悪化が起こることで災害関連死が発生する。

3) 被災地域への影響

車中避難のような長期間狭い場所での生活により、静脈血栓塞栓症(エコノミークラス症候群)を発症する被災者が増加する。

仮設トイレの不足等に伴い、高齢者等がトイレに行く回数を減らすために水分摂取を減らし、脱水症状等により体調不良となることで災害関連死が発生する。

4) 長期的な影響

長期的には、災害により家族や仕事を失う等の大きな精神ストレスから、アルコール摂取量が増える人が現れ、健康を損なう人も現れる。生活不活発等により健康を害する人も現れる。また、各要因が複合することにより災害関連死が発生する。

ケ 宅地造成地の様相

宅地造成地において想定される様相は次のとおりである。

県内には、広島市を中心として宅地造成地が 235 箇所立地する。これらの宅地造成地のうち、臨海部の埋立地では液状化が、山間部の宅地造成地では盛土部分の崩壊が発生し、建物被害が発生する。

全半壊に至らない建物についても、地盤変動に伴う地表面の傾斜の発生等により心理的に居住し続けたくないという住民が発生する可能性がある。

崩壊した地盤が、降雨等の影響によって更に崩れ、建物被害や人的被害が拡大する。

コ 危険物施設・コンビナート施設

危険物施設（コンビナート地区内の施設を含む）を対象に、揺れによる被害箇所数を 250m メッシュで算定した。

被害箇所数が最も多いのは、岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動) 岩国断層区間南から破壊）で、燃料、オイル、ガスの流出及び施設の破損等の被害が 79 箇所発生する。続いて岩国－五日市断層帯の地震（(3 連動) 己斐断層区間北から破壊）で 67 箇所となる。

なお、津波が想定される地震では、沿岸部の工業地帯、市街地、港湾・漁港などで浸水域に多数の屋外タンク、ガスボンベなどが分布するため、揺れによる被害だけでなく、津波による燃料、オイル、ガスの流出に伴う火災が発生する恐れが高い。

また、津波により建物等が破損し、浸水域縁辺部に建材等の漂着物が堆積し、炎上することにより、津波浸水域外の建物等へ延焼が広がる恐れもあり、注意が必要となる。

表 I . 6. 3-36 揺れによる危険物施設の被害

想定地震		危険物施設の被害数（箇所）			
		火災	流出	破損等	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	0	0
	陸側ケース	0	4	53	57
	東側ケース	0	0	1	1
	西側ケース	0	0	2	2
	経験的手法	0	2	31	34
	最大クラス	0	4	53	57
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	0	5	56	61
	南から破壊	0	5	61	66
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	0	0	1	1
	西から破壊	0	0	1	1
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	0	0
	西から破壊	0	0	0	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	0	0
	西から破壊	0	0	0	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	0	0
	西から破壊	0	0	0	0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	0	0	1	1
	西から破壊	0	0	1	1
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	0	3	31	34
	南から破壊	0	3	33	36
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	0	2	27	29
	南から破壊	0	2	23	25
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	0	1	24	25
	南から破壊	0	1	26	28
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	0	4	63	67
	北から破壊	0	4	62	67
	南から破壊	0	5	74	79
安芸灘断層帯	北から破壊	0	0	0	0
	南から破壊	0	0	0	0
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	0	2	46	48
	南から破壊	0	2	40	42
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	0	4	45	49
	南から破壊	0	3	40	43
筒賀断層	北から破壊	0	1	12	13
	南から破壊	0	1	11	12

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

サ 大規模集客施設等における様相

大規模集客施設等において想定される様相は次のとおりである。

1) 人的被害（直接的被害）

強い揺れが発生し、当該施設の耐震強度を超えた場合、建物が全半壊し、施設利用者の人的被害が生じる。

また、構造に問題がない場合であっても、天井のパネル、壁面、ガラス、商品、棚、吊りモノ等の非構造部材等が落下し、施設利用者に人的被害が生じる。

強い揺れにより電気施設、水道施設、ガス施設に被害が発生すると、停電、漏水、ガス漏洩、火災等が発生し、ガス爆発や大規模火災など、多くの人的被害が発生する。

大規模集客施設は多数のエレベータが設置されている場合が多く、地震発生が営業時間と重なった場合、エレベータへの搭乗率も高いことから、多数の利用者がエレベータ内に閉じ込められる。

2) 人的被害（間接的被害）

施設が営業中の場合は、一斉の避難行動による集団転倒が発生し、人的被害が発生する可能性が高い。

人口密集地に立地する施設や地域の拠点となる施設等は、災害発生時には、住民の避難先となる。多くの避難者が滞留した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する可能性が高まる。

高層ビル等において長周期地震動による揺れが発生した場合、高層階での孤立感から、心理面の圧迫が増幅され、パニックが発生した場合、非常階段などに人が殺到し、転倒などによる人的被害がおこる可能性が高まる。

3) 事業継続

揺れにより建物や設備に被害が生じた場合や、低層階や地下階が津波によって浸水した場合、基盤設備の被災により、当該施設の機能支障が長期化し、営業停止が長期化する。

非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水により発電機が使用不能となり、停電状況下では施設運営が困難となる。

シ 地下街・ターミナル駅における様相

地下街・ターミナル駅において想定される様相は次のとおりである。

1) 津波による浸水と被害

広島県内最大の地下街である紙屋町シャレオは、津波の発生を想定した全ての想定地震において浸水が予測されている。また、広島駅地下街でも、南海トラフ巨大地震及び安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震において浸水が予測されている。

多くの利用者が集中した状況下において、停電や火災の発生、情報提供の遅れなど複数の条件が重なることにより、利用者の中で混乱、パニックが発生する可能性が高まる。

また、非常用発電機や燃料タンク等が低層階や地下階に設置されている場合には、浸水により発電機が使用不能となり、停電状況下では施設運営が困難となる。

2) 揺れによる被害

強い揺れにより天井照明器具や壁面材の崩落による人的被害が発生する。また、電気施設、水道施設、ガス施設に被害が発生すると、停電、漏水、ガス漏洩、火災等が発生する。ガス漏洩や火災が発生すれば、ガス爆発や大規模火災につながり、多くの人的被害が発生する。

3) 間接的影響

災害発生後、ターミナル駅では帰宅しようとする人が殺到し、集団転倒などによる人的被害が発生する。

地下街の場合、停電が発生すると、採光が困難となり、避難行動、救助活動、応急対策に支障が生じる。

ス 文化財

国宝、重要文化財（建物）を対象に、地震に伴う揺れや火災による文化財の被害施設件数を 250m メッシュで、津波による文化財の被害施設件数を 10m メッシュで想定した。なお、被害が最も大きくなる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

最も被害が多いのは広島湾－岩国沖断層帯の地震（北から破壊及び南から破壊）で、国宝及び国指定重要文化財が 15 件（県指定重要文化財の被害は 0 件）となる。続いて、岩国－五日市断層帯（3 連動）五日市断層区間から破壊）の地震で、国宝及び国指定重要文化財が 11 件、県指定重要文化財が 1 件となる。

表 I.6.3-37 文化財の被害（冬 18 時 風速 11m/s）

想定地震		国宝、国指定（件）				県指定（件）				合計
		揺れ	火災	津波	計	揺れ	火災	津波	計	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	陸側ケース	0	0	4	4	0	0	1	1	5
	東側ケース	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西側ケース	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	経験的手法	0	0	0	0	2	0	0	2	2
	最大クラス	0	0	0	0	2	0	0	2	2
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	2	0	3	5	0	0	0	0	5
	南から破壊	2	0	3	5	1	0	0	1	6
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	西から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	西から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	西から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	西から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	西から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	南から破壊	1	0	0	1	1	0	0	1	2
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	南から破壊	0	0	0	0	1	0	0	1	1
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	南から破壊	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	0	0	0	0	2	0	0	2	2
	北から破壊	11	0	0	11	1	0	0	1	12
安芸灘断層帯	南から破壊	1	0	0	1	3	0	0	3	4
	北から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
広島湾－岩国沖断層帯	南から破壊	0	0	2	2	0	0	0	0	2
	北から破壊	13	0	2	15	0	0	0	0	15
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2	0	0	2	4	0	0	4	6
	南から破壊	1	0	0	1	2	0	0	2	3
筒賀断層	北から破壊	0	0	0	0	1	0	0	1	1
	南から破壊	1	0	0	1	0	0	0	0	1

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

セ 孤立集落

広島県調査による孤立可能性集落を対象に、土砂災害による道路寸断や津波による停泊施設の被害により孤立する農業集落及び漁業集落を算定した。

孤立集落が最も多いのは岩国－五日市断層帯（3連動）南から破壊）で、103集落となる。続いて、筒賀断層（北から破壊）の地震で91集落、筒賀断層（南から破壊）の地震で86集落となる。

表 I.6.3-38 孤立集落の被害

想定地震		孤立集落数
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0
	陸側ケース	16
	東側ケース	0
	西側ケース	0
	経験的手法	10
	最大クラス	23
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	40
	南から破壊	74
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	0
	西から破壊	2
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0
	西から破壊	0
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0
	西から破壊	0
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0
	西から破壊	0
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	0
	西から破壊	2
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	10
	南から破壊	28
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	45
	南から破壊	46
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	2
	南から破壊	2
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	54
	北から破壊	69
	南から破壊	103
安芸灘断層帯	北から破壊	0
	南から破壊	0
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	6
	南から破壊	5
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	43
	南から破壊	37
筒賀断層	北から破壊	91
	南から破壊	86

ソ 災害応急対策等における様相

災害応急対策等において想定される様相は次のとおりである。

1) 災害対策本部等の立地

県庁は、浸水想定域内に位置しており、建物周囲に設置している防潮板の機能に支障が生じた場合には、津波による浸水被害が発生する可能性がある。また、一部の庁舎が高層建築物であるため、南海トラフ巨大地震においては、高層階で長周期地震動による被害が発生する可能性がある。

県下の市町の庁舎においても、低地へ立地するものがあり、これらの市町では、浸水被害により災害対策に支障が生じることも考えられる。

2) 災害対策職員の被災

行政機関においては、災害により、首長・幹部職員・職員が被災することに伴い、指揮命令系統の混乱や現場対応力の不足が生じ、初動対応や災害応急対策等が混乱する。

3) 庁舎等の被害・機能支障の影響

庁舎の被災により、電源喪失、通信回線の途絶が発生し、被害情報の収集、情報伝達、防災関係機関との連絡調整が困難となり、初動対応や災害応急対策等が混乱する。さらに、住民への適切な情報提供が困難となり、避難勧告・避難指示などの伝達の遅れが生じ、人的被害が拡大する。

各種インフラ機器の復旧が遅れる場合、証明書の発行や各種情報発信ができないなど、業務が混乱し、住民の支援が遅れる。

タ ため池の決壊

県内の防災重点農業用ため池を対象として、堤体・基礎地盤の耐震性と震度分布から、ため池の危険度ランクの評価を行った。

災害発生の危険性が高い（危険度ランク A）ため池が最も多いのは、長者ヶ原断層－芳井断層の地震（北から破壊）で 273 箇所となり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 269 箇所となる。

表 I . 6. 3-39 ため池の危険度ランク

想定地震		危険度ランク（箇所）			被害人口（人）		
		A	B	C	A	B	C
南海トラフ巨大地震	基本ケース	0	40	3,850	0	21,432	845,296
	陸側ケース	159	376	3,355	105,888	132,444	628,396
	東側ケース	2	88	3,800	104	45,488	821,136
	西側ケース	6	88	3,796	3,540	42,836	820,352
	経験的手法	136	232	3,522	83,108	106,000	677,620
	最大クラス	165	378	3,347	111,216	129,328	626,184
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	170	407	3,313	40,460	140,348	685,920
	南から破壊	266	521	3,103	55,920	177,772	633,036
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	6	36	3,848	1,704	24,712	840,312
	西から破壊	2	40	3,848	380	22,344	844,004
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	0	2	3,888	0	796	865,932
	西から破壊	0	8	3,882	0	2,280	864,448
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	0	7	3,883	0	1,604	865,124
	西から破壊	0	9	3,881	0	1,860	864,868
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	0	0	3,890	0	0	866,728
	西から破壊	0	0	3,890	0	0	866,728
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	8	39	3,843	2,076	25,204	839,448
	西から破壊	7	43	3,840	2,364	22,824	841,540
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	8	35	3,847	5,992	17,268	843,468
	南から破壊	15	64	3,811	9,276	28,528	828,924
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	22	22	3,846	9,180	10,388	847,160
	南から破壊	18	26	3,846	8,488	11,796	846,444
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	5	8	3,877	400	4,768	861,560
	南から破壊	10	12	3,868	1,284	6,412	859,032
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	24	53	3,813	11,196	19,736	835,796
	北から破壊	32	60	3,798	17,100	14,760	834,868
	南から破壊	38	81	3,771	18,616	27,304	820,808
安芸灘断層帯	北から破壊	0	2	3,888	0	148	866,580
	南から破壊	2	4	3,884	148	1,252	865,328
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	12	20	3,858	3,844	12,436	850,448
	南から破壊	11	24	3,855	5,312	12,140	849,276
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	273	303	3,314	194,964	138,676	533,088
	南から破壊	231	256	3,403	153,896	132,048	580,784
筒賀断層	北から破壊	43	63	3,784	4,212	16,612	845,904
	南から破壊	38	81	3,771	3,424	16,620	846,684

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

チ 地盤沈下による長期湛水の様相

地盤沈下による長期湛水において想定される様相は次のとおりである。

1) 避難への影響

地震に伴い地盤沈下が起こり、津波等による湛水が引かないエリアにおいては、避難者が増加する一方、利用可能な避難所数が減少し、避難スペースが不足するとともに、溢れた避難者が被災地外への広域避難を余儀なくされる。

湛水エリアでは、車両や人が通行できず、避難所等への物資配送が困難となる。

自宅等が被害を受けず、自宅等での生活が可能な人々であっても、湛水エリアを通行できないことにより、日常生活上で様々な不便が発生し、避難所や被災地外への避難を余儀なくされる。

2) 応急対策・復旧活動への影響

応急対策や復旧のための応援部隊、ライフライン・インフラ等復旧部隊の駐留場所や資材置き場、がれき仮置き場等のオープンスペースが不足する。

湛水エリアにおける排水、土地の嵩上げ、防潮堤の新設等、インフラや建物の建築を開始する前の基盤整備が必要となり、復旧作業が長期化し、作業人員の不足、膨大なコスト等の問題が発生する。

3) 土地利用への影響

本県の場合、市街地の多くが沿岸部の低地に位置することから、居住不可能となる世帯が多数発生し、移転可能な場所の確保が困難となる。

ツ 複合災害の様相

複合災害とは、異種又は同種の災害によって被害が発生する災害を言う。ここでは地震災害に関連する複合災害として次の災害を対象とする。

- ・ 時間差で地震・津波が発生した場合
- ・ 地震発生と同時に又は前後に暴風・高潮・洪水・大雪が発生した場合

これらの複合災害のうち、「時間差で地震・津波が発生した場合」は、次項の「テ 時間差での地震発生による様相」で整理する。地震発生後に津波が発生した場合及び地震発生後に火災が発生した場合は、当該地震を起因として発生する複合災害であるため、本調査において既に想定対象としている。

ここでは、それ以外の複合災害として、地震発生前後に暴風・高潮・洪水・大雪が発生した場合の様相を整理する。

整理した想定される被害の様相は次のとおりである。

・ 人的・物的被害への影響

地震発生と台風や集中豪雨などが重なると、地下水位の上昇と揺れの複合作用により斜面の崩壊、宅地造成地の盛土部分の崩壊や沈下が発生し、建物被害、人的被害等が発生する。

地震発生後に、台風や集中豪雨が重なると、揺れ・液状化・津波により機能低下した堤防や護岸等が洪水や高潮等を防ぎきれず、建物被害や死傷者が増加する。また、県北部の降雪地域では、地震発生後に大雪が重なると、不安定になった地盤の地下水位が上昇し、地すべり、がけ崩れが発生し、建物被害や道路閉塞により孤立する集落が発生する。また、台風等による高潮と津波が重なることにより、浸水域が拡大し、浸水深も深くなることにより、建物被害、死傷者数が増加する。

・ 避難行動・救助活動等への影響

地震発生と台風や集中豪雨などが重なった場合、自宅外への避難行動が遅れ、津波による人的被害が増加する。

また、波浪・高潮・暴風・冠水等により道路交通や港湾等の利用が制限される場合、被災地内での人員・車両・重機等の移動、また被災地外からの応援が困難となり、救急・救助活動が遅れる。

・ 避難生活への影響

地震発生と台風や集中豪雨などが重なった場合、使用に支障のなかった避難施設が別の災害で被災し、避難者の移転が必要となる。また、避難所の被災と避難

者の増加が重なることで、避難所が過密化し、被災者の心身の疲労・ストレスの増大、健康被害が拡大する。

テ 時間差での地震発生による様相

時間差での地震の発生は、広義には複合災害であるが、東海地震、東南海地震、南海地震は、連動して時間差で発生した記録があるため、その被害の様相を整理する。整理した想定される被害の様相は次のとおりである。

1) 先に発生した地震で大きな被害を受けた地域が、直後に再び大きな揺れ・津波等の被害を受ける場合

最初の地震により脆弱化した建物が、後発の地震により倒壊する。建物等に閉じ込められた要救助者が後発の地震による建物等の倒壊で圧死する。新たな倒壊建物からの出火により延焼範囲が拡大する。急傾斜地、宅地造成地などで、先の地震により地盤が緩み、後発の地震により崩壊する。

最初の地震に伴う津波が継続しているときに後発の地震が発生した場合には、津波が重なり合うことで津波の高さが増幅する。先の地震・津波により海岸・河川堤防が破損した地域では、後発の地震に伴う津波の被害が大きくなる。

救助・捜索等の活動中に、建物の倒壊、津波、急傾斜地の崩壊などが発生することによって二次災害が発生する。

2) 先に発生した地震の災害応急対策の期間(地震発生から概ね数日後)に、次の地震が発生し、別の地域でも大きな被害が発生した場合

二度目に発生した地震により大きな被害が出た地域において、先に発生した地震への応援活動が行われていた場合、救助・救急活動や消火活動等に必要な人員・資機材等の資源が払底し、十分に確保できなくなる。

先に発生した地震対応のために、全国的に物資等が調達・消費されており、救命・救急に必要な医薬品、避難生活等に必要な水・食料や生活必需品等の備蓄、在庫が全国的に不足し、次の地震で被災した別の地域への供給物資が不足する。

3) 一定間隔で大きな地震被害が想定される地域において、一定期間内に大きな地震が予想される場合

耐震性の確保されていない建物に対する不安等により店舗や集客施設等への来客が減少する。津波による浸水の恐れのある臨海部において、業務の場所を制限する等の対策により業務効率が落ちる。地域外からの観光客の減少や、被災地での事業展開(企業の進出等)が控えられる等、社会的不安が増大する。

ト 漁船・水産関連施設

津波による漁船及び垂下式かき筏の被害を想定した。

漁船被害は各地震とも 180 隻となる。

垂下式かき筏の被害が多いのは南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 3,313 台となり、続いて中央構造線断層帯（（4 連動）東から破壊及び西から破壊）の地震で 395 台となる。

ただし、瀬戸内海は干潮、満潮の差が激しいことから、想定より潮流が早くなり筏の流失被害が拡大する可能性がある。

表 I.6.3-40 漁船、かき筏の被害

想定地震		漁船被害 (隻)	かき筏被害 (台)
南海トラフ巨大地震	基本ケース	—	—
	陸側ケース	180	3,313
	東側ケース	—	—
	西側ケース	—	—
	経験的手法	—	—
	最大クラス	—	—
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	180	325
	南から破壊	180	325
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	180	380
	西から破壊	180	380
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	180	379
	西から破壊	180	379
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	180	394
	西から破壊	180	394
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	180	394
	西から破壊	180	394
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	180	395
	西から破壊	180	395
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—
安芸灘断層帯	北から破壊	180	379
	南から破壊	180	379
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	180	289
	南から破壊	180	289
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—
筒賀断層	北から破壊	—	—
	南から破壊	—	—

注：岩国－五日市断層帯（3 連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

ナ 治安の様相

地震発生時の治安において想定される様相は次のとおりである。

1) 流言飛語の発生

時間差によって数日後に更に大きな被害が発生するなど、不安を煽るデマ情報、工場地帯では、火災や爆発等に関するデマ情報、全国で製造業・加工業が被災することで、物資の枯渇を示唆するデマ情報などが発生し、被災者の混乱、疲労につながる。

2) 暴行・傷害事案の発生

物資が不足している避難所や、生活環境が劣悪な避難所等において、避難者同士又は避難者と支援者(行政職員やボランティア等)の暴力事件が発生する可能性がある。

3) 窃盗事案等の発生

店員等が避難して不在となった店舗で、物品の盗難等の被害が発生する。住民が避難して不在となった住宅への空き巣被害が発生する。

工場や港湾の周辺において、自動車等の製品や、燃料・資材等の盗難被害が発生する。

4) 悪質商法や義援金詐欺の発生

比較的被害の軽微だった地域を中心に、「時間差での地震の発生」等の説明を悪用して、建物等の点検作業を働きかける悪質商法が発生する。

義援金や募金を呼びかける詐欺被害が発生する。

二 重要施設

地震時に災害対策拠点となる施設や消防活動の拠点施設、医療拠点施設及び避難施設等の使用可能性は、当該施設における震度、液状化危険度、火災の諸条件を 250m メッシュで評価した上で、当該施設の耐震性を加味して総合的に評価した。

なお、重要施設の使用可能性は火災の影響を考慮しているため、火災による焼失棟数が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で評価した。

評価の判定ランクは次のとおりである。

×：機能に支障をきたす可能性がある。

△：概ね使用可能であるが、一部使用に制限が生じる可能性がある。

○：使用可能である。

「機能に支障をきたす可能性がある」と判定された施設が最も多いのは、震度 6 弱以上の地域に建物が多い地震で被害が大きくなる傾向にあり、安芸灘～伊予灘～豊後水道（南から破壊）の地震で 3,561 棟となる。続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道（北から破壊）の地震の 3,399 棟となる。

表 I.6.3-41 (1) 重要施設の機能支障評価 (冬 18 時 風速 11m/s)

想定地震		施設種別	× 使用に 支障あり	△ 一部 制限あり	○ 使用可能	計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	災害対策本部等	49	58	295	402
		避難拠点施設	511	622	3,398	4,531
		医療施設	48	73	319	440
		計	608	753	4,012	5,373
	陸側ケース	災害対策本部等	272	24	106	402
		避難拠点施設	2,797	462	1,272	4,531
		医療施設	310	30	100	440
		計	3,379	516	1,478	5,373
	東側ケース	災害対策本部等	52	47	303	402
		避難拠点施設	602	473	3,456	4,531
		医療施設	68	63	309	440
		計	722	583	4,068	5,373
	西側ケース	災害対策本部等	87	65	250	402
		避難拠点施設	933	781	2,817	4,531
		医療施設	87	86	267	440
		計	1,107	932	3,334	5,373
	経験的手法	災害対策本部等	248	26	128	402
		避難拠点施設	2,459	485	1,587	4,531
		医療施設	281	32	127	440
		計	2,988	543	1,842	5,373
	最大クラス	災害対策本部等	273	22	107	402
		避難拠点施設	2,816	463	1,252	4,531
		医療施設	306	32	102	440
		計	3,395	517	1,461	5,373
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	災害対策本部等	278	23	101	402
		避難拠点施設	2,819	417	1,295	4,531
		医療施設	302	36	102	440
		計	3,399	476	1,498	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	285	36	81	402
		避難拠点施設	2,963	421	1,147	4,531
		医療施設	313	33	94	440
		計	3,561	490	1,322	5,373
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	災害対策本部等	6	16	380	402
		避難拠点施設	35	192	4,304	4,531
		医療施設	0	20	420	440
		計	41	228	5,104	5,373
	西から破壊	災害対策本部等	6	15	381	402
		避難拠点施設	28	189	4,314	4,531
		医療施設	0	21	419	440
		計	34	225	5,114	5,373
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	災害対策本部等	2	3	397	402
		避難拠点施設	1	21	4,509	4,531
		医療施設	0	0	440	440
		計	3	24	5,346	5,373
	西から破壊	災害対策本部等	2	4	396	402
		避難拠点施設	3	38	4,490	4,531
		医療施設	0	1	439	440
		計	5	43	5,325	5,373
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	災害対策本部等	0	4	398	402
		避難拠点施設	3	34	4,494	4,531
		医療施設	0	0	440	440
		計	3	38	5,332	5,373
	西から破壊	災害対策本部等	1	6	395	402
		避難拠点施設	7	19	4,505	4,531
		医療施設	0	0	440	440
		計	8	25	5,340	5,373
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	災害対策本部等	0	0	402	402
		避難拠点施設	0	7	4,524	4,531
		医療施設	0	0	440	440
		計	0	7	5,366	5,373
	西から破壊	災害対策本部等	0	1	401	402
		避難拠点施設	0	14	4,517	4,531
		医療施設	0	0	440	440
		計	0	15	5,358	5,373
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	災害対策本部等	14	18	370	402
		避難拠点施設	139	180	4,212	4,531
		医療施設	12	18	410	440
		計	165	216	4,992	5,373
	西から破壊	災害対策本部等	14	25	363	402
		避難拠点施設	189	315	4,027	4,531
		医療施設	14	27	399	440
		計	217	367	4,789	5,373

表 I.6.3-41 (2) 重要施設の機能支障評価 (冬 18 時 風速 11m/s)

想定地震		施設種別	×	△	○	計
			使用に 支障あり	一部 制限あり	使用可能	
岩国－五日市断層帯 (己斐断層区間)	北から破壊	災害対策本部等	173	27	202	402
		避難拠点施設	1,579	303	2,649	4,531
		医療施設	161	48	231	440
		計	1,913	378	3,082	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	173	31	198	402
		避難拠点施設	1,538	319	2,674	4,531
		医療施設	174	26	240	440
		計	1,885	376	3,112	5,373
岩国－五日市断層帯 (五日市断層区間)	北から破壊	災害対策本部等	155	39	208	402
		避難拠点施設	1,383	337	2,811	4,531
		医療施設	152	33	255	440
		計	1,690	409	3,274	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	171	28	203	402
		避難拠点施設	1,456	271	2,804	4,531
		医療施設	165	24	251	440
		計	1,792	323	3,258	5,373
岩国－五日市断層帯 (岩国断層区間)	北から破壊	災害対策本部等	65	15	322	402
		避難拠点施設	654	100	3,777	4,531
		医療施設	71	25	344	440
		計	790	140	4,443	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	96	21	285	402
		避難拠点施設	985	352	3,194	4,531
		医療施設	131	19	290	440
		計	1,212	392	3,769	5,373
岩国－五日市断層帯 (3連動)	北から破壊	災害対策本部等	180	30	192	402
		避難拠点施設	1,636	327	2,568	4,531
		医療施設	187	40	213	440
		計	2,003	397	2,973	5,373
	北から破壊	災害対策本部等	178	32	192	402
		避難拠点施設	1,644	325	2,562	4,531
		医療施設	185	37	218	440
		計	2,007	394	2,972	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	194	29	179	402
		避難拠点施設	1,801	332	2,398	4,531
		医療施設	182	39	219	440
		計	2,177	400	2,796	5,373
安芸灘断層帯	北から破壊	災害対策本部等	3	12	387	402
		避難拠点施設	57	117	4,357	4,531
		医療施設	2	8	430	440
		計	62	137	5,174	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	8	24	370	402
		避難拠点施設	175	269	4,087	4,531
		医療施設	18	20	402	440
		計	201	313	4,859	5,373
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	災害対策本部等	135	28	239	402
		避難拠点施設	1,204	416	2,911	4,531
		医療施設	142	38	260	440
		計	1,481	482	3,410	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	148	39	215	402
		避難拠点施設	1,361	421	2,749	4,531
		医療施設	148	46	246	440
		計	1,657	506	3,210	5,373
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	災害対策本部等	55	7	340	402
		避難拠点施設	753	110	3,668	4,531
		医療施設	89	16	335	440
		計	897	133	4,343	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	51	8	343	402
		避難拠点施設	737	73	3,721	4,531
		医療施設	90	16	334	440
		計	878	97	4,398	5,373
筒賀断層	北から破壊	災害対策本部等	167	21	214	402
		避難拠点施設	1,468	205	2,858	4,531
		医療施設	156	12	272	440
		計	1,791	238	3,344	5,373
	南から破壊	災害対策本部等	170	15	217	402
		避難拠点施設	1,455	200	2,876	4,531
		医療施設	160	9	271	440
		計	1,785	224	3,364	5,373

注：岩国－五日市断層帯 (3 連動) は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

(8) 経済被害

経済被害の想定では、資産の物理的な被害額である「直接被害額」と地震による生産活動の低下、交通寸断による影響がもたらす「間接被害額」を算定した。

被害が最大となる冬 18 時、風速 11m/s の条件で想定した。

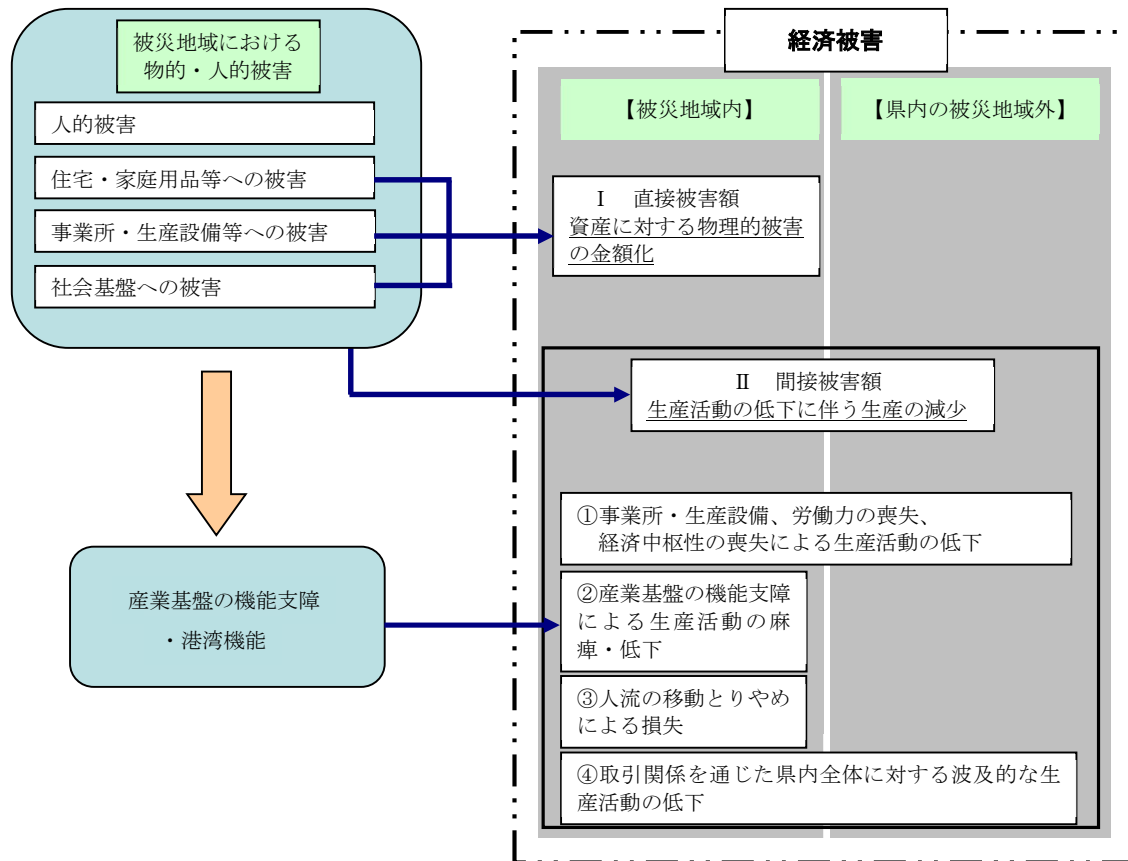


図 I.6.3-2 経済被害の全体イメージ

ア 直接被害額

直接被害額の想定では、被害を受けた施設及び資産の復旧、再建に要する費用を被害額として算定した。

直接被害額が最も大きいのは南海トラフ巨大地震（陸側ケース）で 15.7 兆円となり、続いて安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（南から破壊）で 15.2 兆円、安芸灘～伊予灘～豊後水道の地震（北から破壊）で 14.7 兆円となる。

ここで各部門の内訳は次のとおりである。

民間部門

建物、資産（家庭用品、その他の償却資産、棚卸資産）

準公共部門

電力施設、ガス供給施設、通信施設、鉄道施設

公共部門

上水道施設、下水道施設、公共土木施設（道路、港湾等）、農地・漁港、災害廃棄物処理費用

表 I.6.3-42 直接被害額（冬 18 時 風速 11m/s）（単位：億円）

想定地震		建物	ライフライン	交通施設	土地	その他	合計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	47,787	5,752	2,865	0	1,252	57,656
	陸側ケース	134,832	10,506	5,992	819	4,890	157,040
	東側ケース	47,889	5,833	2,971	0	1,270	57,963
	西側ケース	53,728	6,540	3,364	0	1,419	65,051
	経験的手法	84,603	9,697	5,397	0	2,414	102,111
	最大クラス	93,831	10,406	5,927	0	2,706	112,870
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	125,441	10,877	6,003	526	3,989	146,836
	南から破壊	129,800	11,026	6,117	526	4,093	151,563
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	38,497	1,502	959	407	1,602	42,966
	西から破壊	38,147	1,433	929	407	1,594	42,510
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	24,954	337	242	331	954	26,818
	西から破壊	25,009	349	244	331	955	26,887
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	25,580	658	383	369	983	27,973
	西から破壊	25,744	648	383	369	987	28,131
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	24,810	522	312	366	955	26,965
	西から破壊	24,842	710	445	366	955	27,318
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	40,526	2,208	1,301	444	1,695	46,174
	西から破壊	45,352	3,486	1,907	444	1,858	53,047
1-8～1-9の2連動		24,590	82	104	369	950	26,095
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	90,813	8,008	3,976	0	2,269	105,065
	南から破壊	93,503	8,226	4,032	0	2,314	108,075
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	75,422	7,282	3,638	0	1,916	88,258
	南から破壊	78,992	7,462	3,685	0	1,994	92,133
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	23,478	4,305	2,057	0	571	30,411
	南から破壊	42,026	5,521	2,778	0	1,043	51,368
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	98,933	8,638	4,435	0	2,527	114,534
	北から破壊	99,503	8,742	4,460	0	2,526	115,230
	南から破壊	111,539	9,278	4,712	0	2,869	128,398
安芸灘断層帯	北から破壊	26,986	1,700	918	327	1,006	30,939
	南から破壊	32,464	3,098	1,588	327	1,177	38,654
広島湾－岩国沖断層帯	北から破壊	79,528	6,332	3,374	332	2,355	91,920
	南から破壊	86,964	7,311	3,824	332	2,532	100,962
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	30,278	2,840	1,815	0	1,212	36,146
	南から破壊	27,202	2,689	1,734	0	1,102	32,727
筒賀断層	北から破壊	63,397	7,056	3,334	0	1,563	75,351
	南から破壊	59,598	7,001	3,327	0	1,447	71,374

注：岩国－五日市断層帯（3連動）は、上から己斐断層区間、五日市断層区間、岩国断層区間である。

イ 間接被害額

間接被害額の想定は、「生産低下による間接被害額」、「交通寸断による損失額」、「波及的被害額^{※1}」の3つを対象として行った。

生産低下による間接被害額は、生産関数を用いて「建物被害等による民間資本の喪失」、「人的被害・失業者の発生による労働力の喪失」、「経済中枢性^{※2}の喪失」による生産低下を想定した。本調査では、広島市の総生産額が県内総生産額に占める割合が高いという広島県の特徴を踏まえ、広島市の産業（従業者数）をパラメータとして生産関数に組み込み、「経済中枢性の喪失」による生産低下を想定することとした。

「生産低下による間接被害額」は、地震発生後5年までを各年で算出し、その合計とした。「交通寸断による損失額」は、「港湾機能停止による損失額」と「人流の移動とりやめによる損失額」として想定した。人流の移動とりやめによる損失額は、広島県において観光（宿泊業や小売業など）が重要な産業であることから、地震に伴う観光（出張を含む）のとりやめによる観光消費額の減少として想定した。

人流の移動とりやめは、1年間で復旧することとした。

「波及的被害額」は、産業連関表を用いて「生産低下による間接被害額」、「交通寸断による損失額」が他の産業に波及する間接被害額（1次波及）を算出した。

間接被害額が最も大きいのは南海トラフ巨大地震で生産低下による間接被害額（民間資本・労働力・経済中枢性損失による減少額（5年分））が1.4兆円、交通寸断による損失額が1.4兆円（港湾機能停止による損失が1.1兆円、人流の移動とりやめによる損失額が0.3兆円）となる。加えて、これらの間接被害額が生ずる当該産業が他の産業に及ぼす波及的被害額は0.3兆円となり、間接被害額の合計は3.2兆円となる。

続いて、安芸灘～伊予灘～豊後水道（南から破壊）の地震で生産低下による間接被害額（民間資本・労働力・経済中枢性損失による減少額（5年分））が1.2兆円、交通寸断による損失額が1.4兆円（港湾機能停止による損失額が1.1兆円、人流の移動とりやめによる損失額が0.3兆円）となる。波及的被害額は0.3兆円で間接被害額の合計は2.9兆円となる。

※1 波及的被害額：域内における産業集積の大きさを反映するものであり、当該産業の間接被害額が他の産業に波及する間接被害額を示したもの。

※2 経済中枢性：域内における生産能力の高さを示したもの。

表 I.6.3-43(1) 生産低下による間接被害額（冬 18 時 風速 11m/s）（単位：億円）

想定地震		民間資本・労働力・経済中枢機能損失による生産減少						
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	計	
南海トラフ巨大地震	基本ケース	2,052	1,303	445	321	2	4,123	
	陸側ケース	6,954	4,414	1,508	1,088	8	13,972	
	東側ケース	2,070	1,314	449	324	2	4,159	
	西側ケース	2,300	1,460	499	360	3	4,622	
	経験的手法	3,694	2,345	801	578	4	7,422	
	最大クラス	4,093	2,598	888	640	5	8,224	
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	5,540	3,516	1,202	866	6	11,131	
	南から破壊	5,742	3,645	1,245	898	7	11,537	
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	1,792	1,137	389	280	2	3,600	
	西から破壊	1,799	1,142	390	281	2	3,614	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	751	477	163	118	1	1,510	
	西から破壊	753	478	163	118	1	1,512	
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	791	502	172	124	1	1,590	
	西から破壊	799	507	173	125	1	1,606	
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	753	478	163	118	1	1,513	
	西から破壊	754	478	163	118	1	1,514	
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	1,918	1,218	416	300	2	3,854	
	西から破壊	2,175	1,380	472	340	2	4,369	
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	3,815	2,421	827	597	4	7,664	
	南から破壊	4,011	2,546	870	627	5	8,059	
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	3,212	2,039	697	502	4	6,454	
	南から破壊	3,358	2,131	728	525	4	6,747	
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	933	592	202	146	1	1,876	
	南から破壊	1,713	1,088	372	268	2	3,443	
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	4,375	2,777	949	684	5	8,790	
	北から破壊	4,397	2,791	954	688	5	8,835	
	南から破壊	5,251	3,333	1,139	821	6	10,551	
	北から破壊	825	524	179	129	1	1,658	
安芸灘断層帯	南から破壊	1,060	673	230	166	1	2,131	
広島湾－岩国冲断層帯	北から破壊	3,239	2,055	702	506	4	6,507	
	南から破壊	3,530	2,241	766	552	4	7,092	
長者ヶ原断層－芳井断層	北から破壊	2,219	1,409	481	347	3	4,459	
	南から破壊	2,072	1,315	449	324	2	4,163	
筒賀断層	北から破壊	2,685	1,704	582	420	3	5,395	
	南から破壊	2,469	1,567	535	386	3	4,960	

表 I.6.3-43(2) 交通寸断等による間接被害額（冬 18 時 風速 11m/s）（単位：億円）

想定地震		港湾機能停止による損失	人流の移動取りやめによる損失	波及的被害	合計
南海トラフ巨大地震	基本ケース	3,261	3,308	1,287	11,979
	陸側ケース	10,913	3,308	3,392	31,586
	東側ケース	3,961	3,308	1,375	12,804
	西側ケース	4,360	3,308	1,479	13,769
	経験的手法	10,261	3,308	2,526	23,518
	最大クラス	11,618	3,308	2,785	25,935
安芸灘～伊予灘～豊後水道	北から破壊	10,039	3,308	2,945	27,424
	南から破壊	11,175	3,308	3,131	29,151
中央構造線断層帯（讃岐山脈南縁西部区間）	東から破壊	5,762	3,308	1,525	14,195
	西から破壊	5,772	3,308	1,528	14,222
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁区間）	東から破壊	412	3,308	629	5,860
	西から破壊	296	3,308	616	5,732
中央構造線断層帯（石鎚山脈北縁西部区間）	東から破壊	124	3,308	604	5,627
	西から破壊	175	3,308	612	5,702
中央構造線断層帯（伊予灘区間）	東から破壊	144	3,308	597	5,563
	西から破壊	1,586	3,308	771	7,179
中央構造線断層帯（4連動）	東から破壊	5,820	3,308	1,562	14,545
	西から破壊	5,995	3,308	1,645	15,318
岩国－五日市断層帯（己斐断層区間）	北から破壊	9,059	3,308	2,410	22,442
	南から破壊	7,864	3,308	2,314	21,545
岩国－五日市断層帯（五日市断層区間）	北から破壊	7,144	3,308	2,034	18,941
	南から破壊	6,796	3,308	2,028	18,879
岩国－五日市断層帯（岩国断層区間）	北から破壊	916	3,308	734	6,834
	南から破壊	4,636	3,308	1,370	12,757
岩国－五日市断層帯（3連動）	北から破壊	10,581	3,308	2,729	25,408
	北から破壊	10,118	3,308	2,679	24,940
安芸灘断層帯	南から破壊	10,174	3,308	2,892	26,925
	北から破壊	58	3,308	605	5,630
広島湾－岩国冲断層帯	南から破壊	268	3,308	687	6,394
	北から破壊	7,289	3,308	2,058	19,162
長者ヶ原断層－芳井断層	南から破壊	7,461	3,308	2,149	20,011
	北から破壊	10,827	3,308	2,237	20,832
筒賀断層	南から破壊	11,388	3,308	2,269	21,129
	北から破壊	2,003	3,308	1,288	11,994
	南から破壊	2,381	3,308	1,281	11,931

第7章 防災・減災効果の評価

県内で人的被害が最大となる南海トラフ巨大地震を例とし、今後の防災への取組がどの程度の減災効果を及ぼすかを試算した。

想定シーンは、想定項目毎に被害が最大となるシーンを選択し、人的被害を冬・深夜、風速 11m/s、それ以外を冬 18 時、風速 11m/s とした。

減災効果を有する防災への取組は多数あるが、ここでは次の仮定で試算を行った。

建物の耐震化率の向上

現状：84.5% ⇒ 100%

津波からの早期避難率の向上

仮定：20% ⇒ 100%

1 人的・物的被害の減災効果

(1) 建物の耐震化率の向上

広島県耐震改修促進計画【第3期計画】によると、広島県における住宅の耐震化率は令和2年度末時点で84.5%である。同計画では令和7年度末までに住宅の耐震化率を92%まで向上させる目標を掲げている。さらに、目指す姿として令和17年末までには耐震化率100%と掲げている。

古い建物の耐震改修や建て替えなどを推進し、建物の耐震化率の向上がなされ、同計画における目指す姿である耐震化率100%に到達した場合を想定した減災効果を算定した。

算定に当たっては、旧耐震基準（1980年以前の建物）が、全て最新の建物と同等の耐震性を備えたことみなしている。

建物の耐震化率の向上による減災効果は次のとおりとなる。

ア 建物被害の軽減

耐震化率が現状の 84.5%から 100%になることにより、建物の揺れによる全壊棟数は 5,937 棟から 875 棟に、半壊棟数は 42,298 棟から 5,990 棟に軽減され、全壊棟数は約 7 分の 1、半壊棟数も約 7 分の 1 となる。

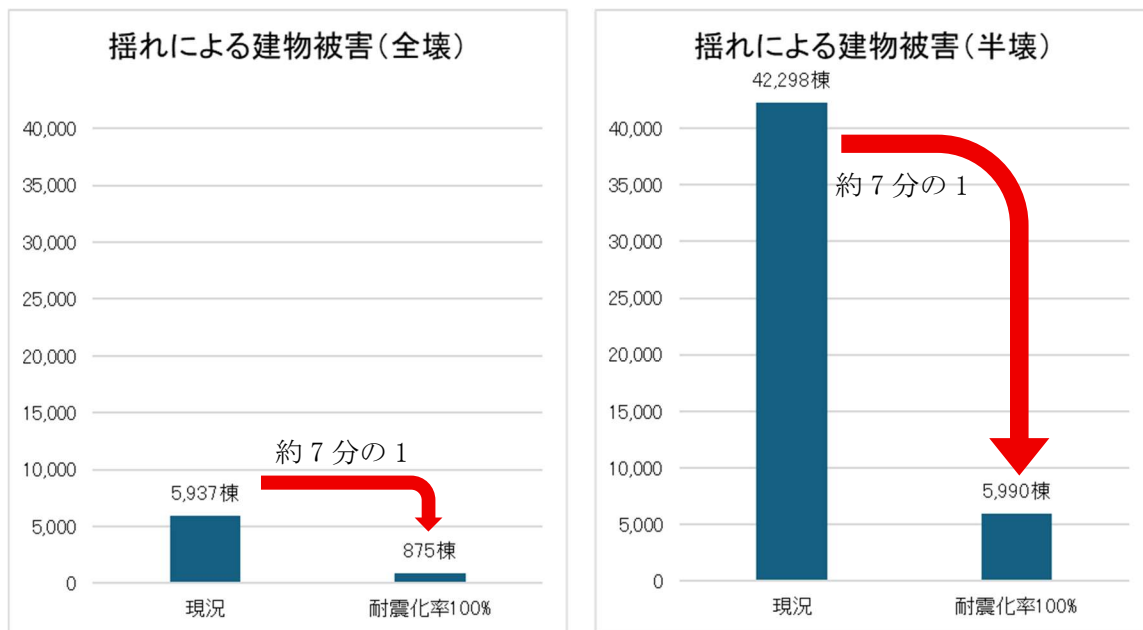


図 I. 7. 1-1 揺れによる建物被害の軽減

イ 人的被害の軽減（冬・深夜 11m/s）

耐震化率が現状の 84.5%から 100%になることにより、建物倒壊が減少するため、建物倒壊を原因とする死者数及び火気器具、電熱器具からの出火による死者数、火災時の逃げまどいによる死者数は、340 人から 15 人に軽減され、約 22 分の 1 となる。

また、負傷者が 7,328 人から 508 人に軽減され、約 14 分の 1 となる。

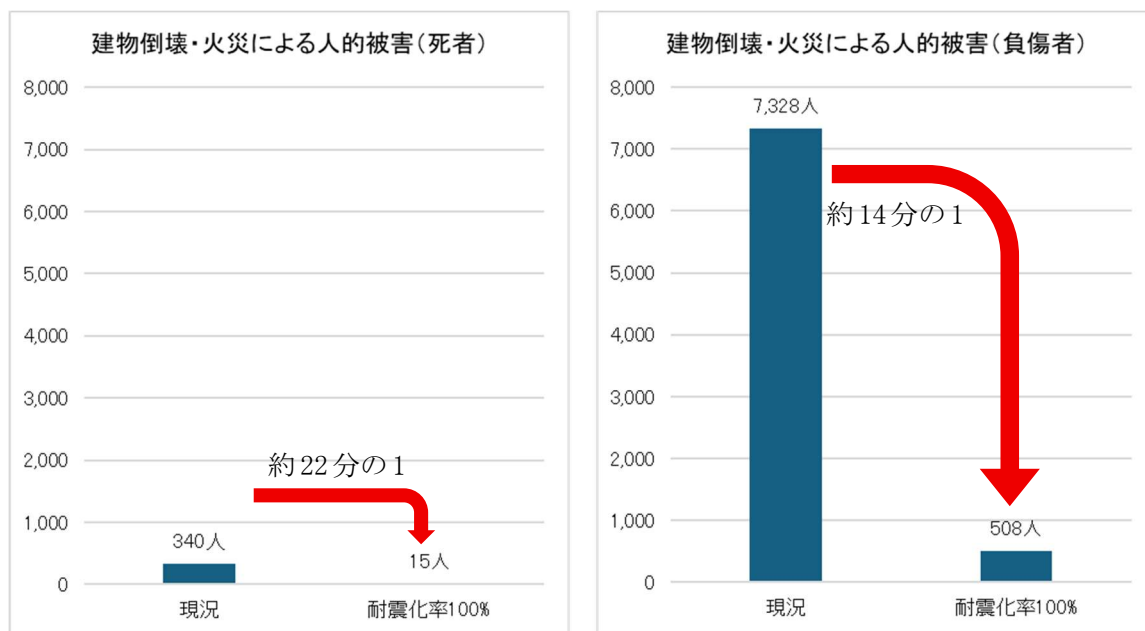


図 I . 7. 1-2 建物倒壊・火災による人的被害の軽減

ウ 生活への影響の軽減（冬・夕方 11m/s）

耐震化率が現状の 84.5%から 100%になることにより、自宅に留まることができる人が増えるため、避難所避難者が当日・1 日後で 463,158 人から 380,098 人に、1 週間後で 461,377 人から 378,637 人に軽減され、約 6 分の 5 となる。

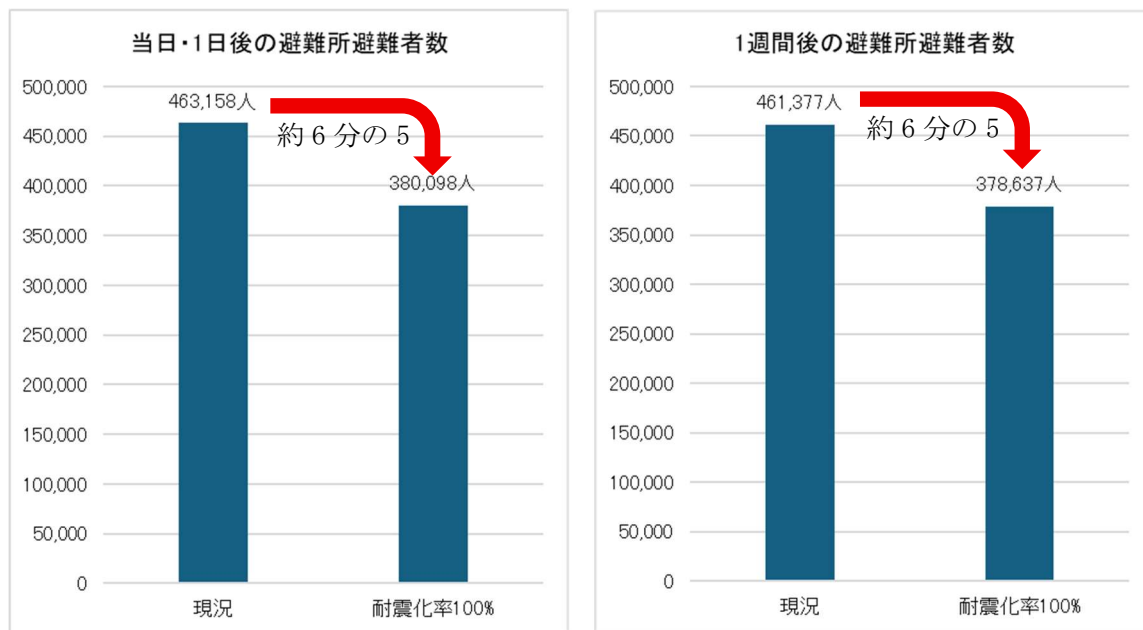


図 I . 7 . 1-3 避難所避難者数の軽減

(2) 津波からの早期避難率の向上（冬・深夜 11m/s）

本調査では、本県の過去の津波災害事例の少なさを考慮し、地震発生後すぐに避難する早期避難者の割合を 20%と設定している。県民の防災意識が向上し、早期避難者の割合が現状の 20% (想定) から 100%になった場合、津波による死者数は 12,602 人から 6,824 人に軽減され、約 2 分の 1 となる。

また、負傷者が 3,559 人から 839 人に軽減され、約 4 分の 1 となる。

なお、早期避難者の割合が 100%になったと仮定しても人的被害が生じるのは、破堤による地震直後の浸水のため避難ができない者が生じること、また垂直避難先を津波避難ビルのみに限定していることが影響している。津波避難ビルに限らず、3m 以上の建物に避難することで、より人的被害を軽減できると考えられる。

(参考) 浸水深毎の浸水面積（県内全域）(ha)

※南海トラフ巨大地震 津波断層モデルケース 1

浸水深	1 cm 以上	30 cm 以上	1m 以上	2m 以上	3m 以上	5m 以上
浸水面積 (h_a)	12,029	10,142	6,148	2,797	502	2

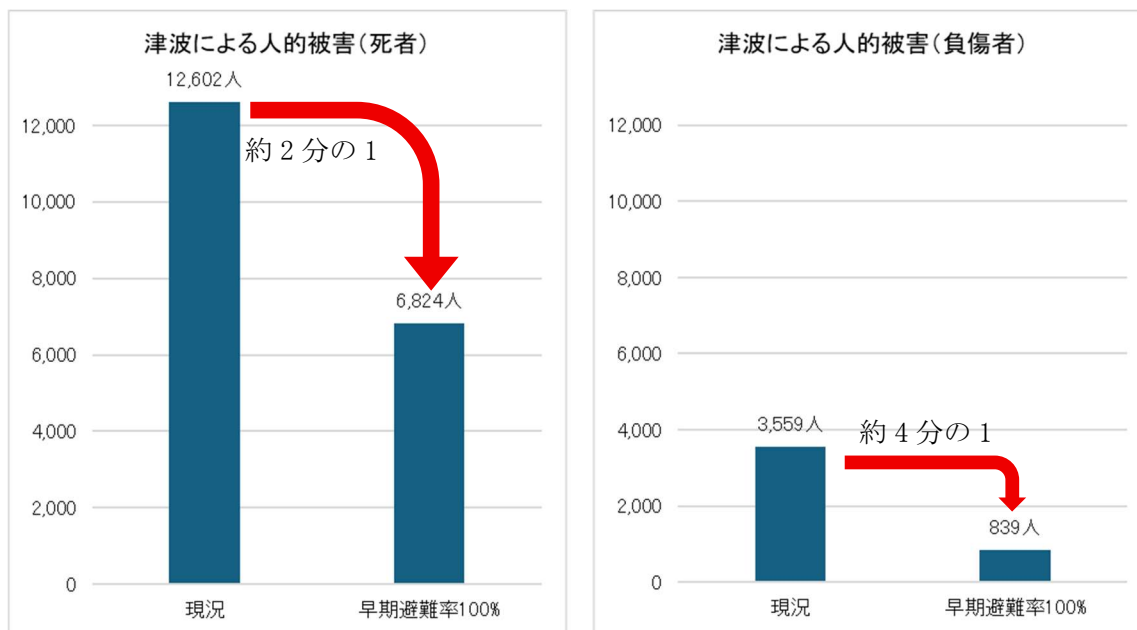


図 I.7.1-4 津波による人的被害の軽減

(3) 家具等の転倒・落下防止対策実施率の向上（冬・深夜 11m/s）

全国の家具等の転倒・落下防止対策実施率（平均）は、37.9%である。家具等の転倒・落下防止策の実施率が100%となった場合、死者数は36人から0人に、負傷者は800人から0人に皆減する。

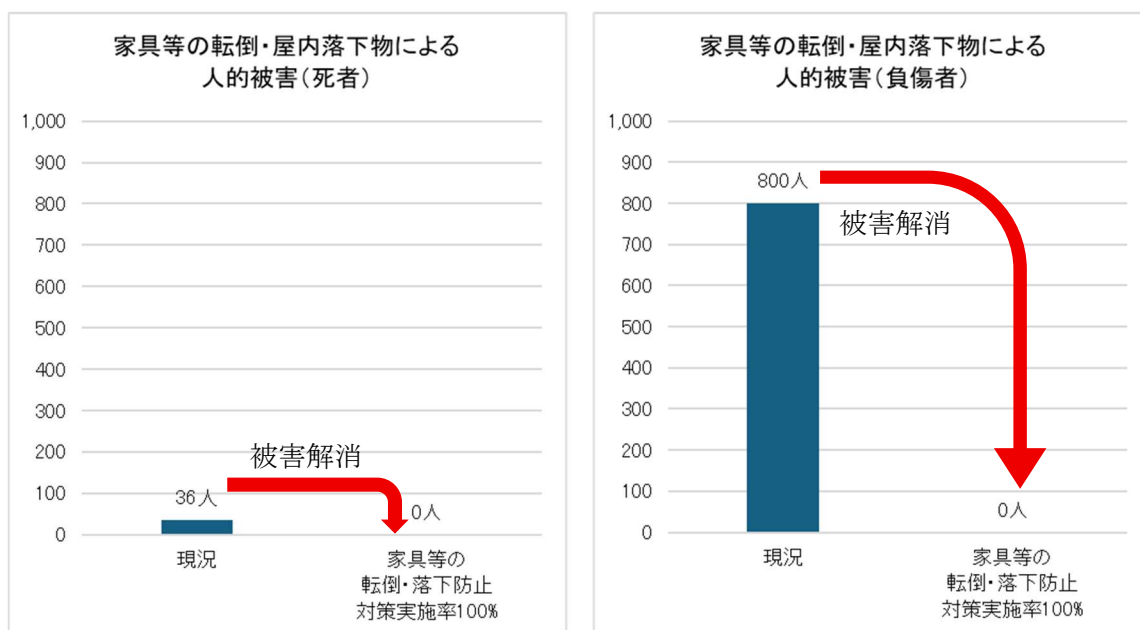


図 I.7.1-5 家具等の転倒・屋内落下物による人的被害の軽減

2 経済被害の減災効果

建物の全壊棟数、半壊棟数が軽減することによる直接被害額の軽減だけでなく、人的被害の軽減により間接被害にも減災効果が及ぶ。経済被害額が最大となる冬・夕方 18 時、風速 11m/s で試算した結果、直接被害額が 15.5 兆円から 11.6 兆円に、間接被害額は 3.2 兆円から 2.5 兆円に、合計で経済被害額が 18.7 兆円から 14.1 兆円に軽減され、約 4 分の 3 となる。

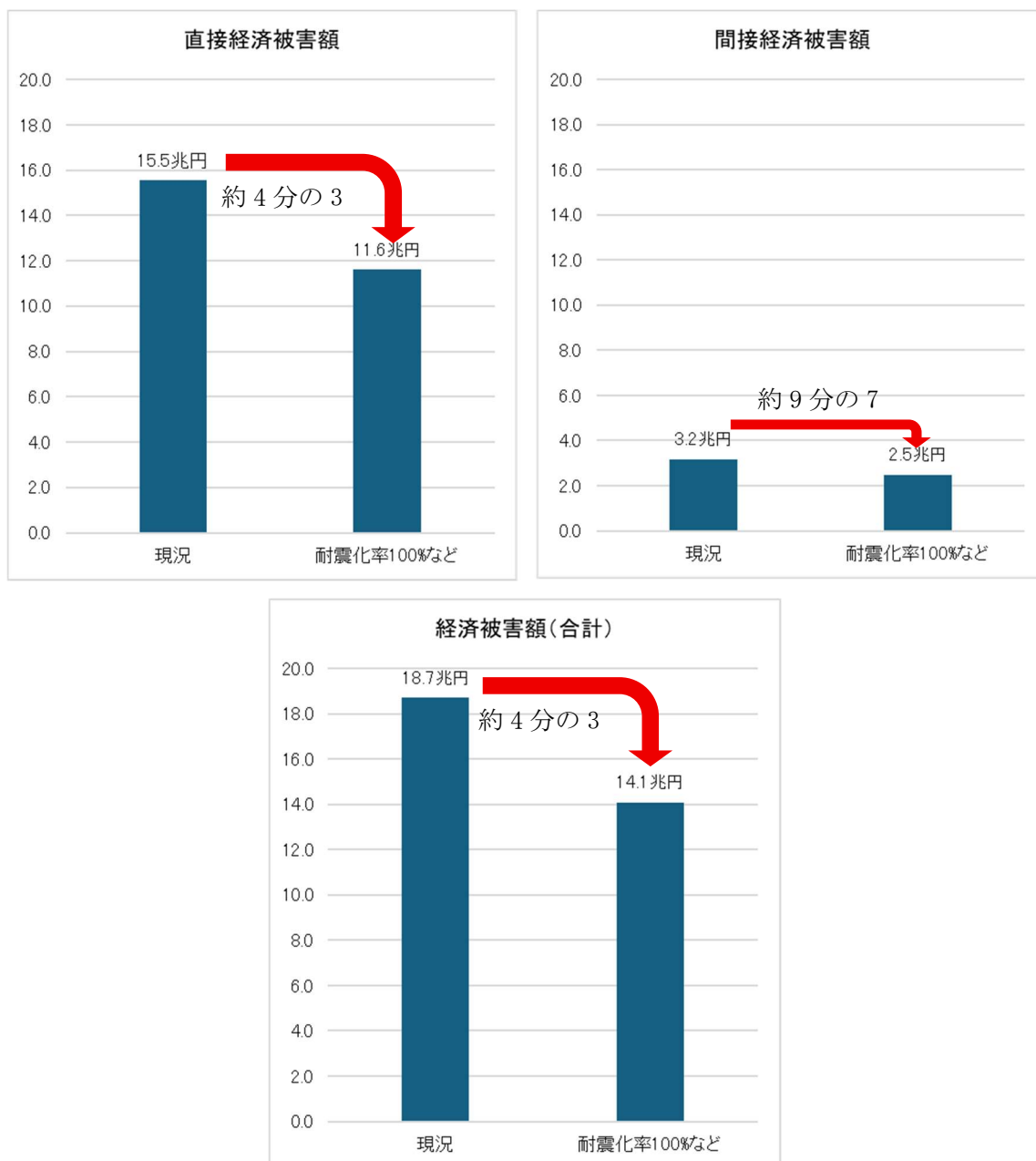


図 I.7.1-6 経済被害の軽減

第 8 章 留意事項

1 地震動

今回調査で想定した地震動は、最新の知見に基づく調査において設定された最大規模のマグニチュードを用いて計算したものであるが、実際に起こる地震では、想定したとおりとはならず、地域によっては、今回の予測値を超える揺れが起こることもある。

2 液状化危険度

液状化危険度や液状化による地盤沈下量は、広島県全域を 242 タイプでモデル化した地盤モデルに対して 250m 単位で液状化危険度を予測したもので、実際の地盤構造を正確に反映して算定したものではない。

そのため、液状化危険度が低いと想定された場合でも、実際には液状化被害が発生する危険性がある。また、今回調査の液状化危険度が高い場合でも、必ず液状化が発生するとは限らない。

また、本調査で設定した盛土地域については、他地域と同様に地下水位を地表面下 1.0m とし、N 値も $N=5$ と軟らかい地盤として安全側の設定をしており、液状化危険度の評価としては過大評価となる場合があることに留意する必要がある。

3 土砂災害

今回調査の土砂災害は、内閣府（2012）⁴³の手法に準じ、新潟県中越地震（2004 年）、新潟県中越沖地震（2007 年）、岩手・宮城内陸地震（2008 年）による近年の災害実態を踏まえた崩壊確率を用いて想定しているが土壌含水量を考慮していない。

実際に起こる地震では、降雨や融雪による地盤の水位上昇に伴う地盤強度の低下や地震が長時間継続した場合の地盤の不安定化などにより、想定を超える土砂災害が発生することもある。

また、土砂災害のうち土石流については、その発生と地震との関連性について、予測手法等の知見が確立されていないこと、また、大雨が原因となり降雨後に発生することが多く、警戒避難等による対応が可能であることなどを踏まえ、本調査では、地震直後の土石流の発生やそれによる人的被害は対象外としている。ただし、地震前後の大雨により土石流が発生する可能性が高まることから考えられることから、留意が必要である。

4 津波浸水区域

津波浸水想定は、最新の科学的知見に基づく調査等において設定された最大規模の断層モデルを基に計算した結果である。実際に起こる津波は、想定したとおりとはならず、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに深くなる可能性がある。

地震発生時の海底の変異に起因する津波の他、海底の急峻な地形においては海底地すべりが発生し、それに起因する津波が発生する可能性もあることに留意が必要である。例えば、令和 6 年能登半島地震では富山湾において海底地すべりが発生し、それに起因

する津波も発生するという事象がみられた。

広島県沿岸部においては、南海トラフ巨大地震による津波より、近傍の地震による津波の方が早く到達することも考えられる。このような地域については地震発生後、早期に避難行動を開始することが求められる。

5 地震動による破堤に伴う浸水被害

河川水位や潮位が地盤高より高い状態で地震が発生した場合、地震動による破堤に伴う浸水被害が発生する危険性がある。特に地盤高が低い地域では、このことに注意が必要である。

6 内陸の活断層による地震における断層直上への影響

内陸の活断層による地震については、その変位により直上の建物等が損壊することや、道路の隆起・陥没により避難に影響が出ることがあるので、注意が必要である。

7 被害想定結果

被害想定は、実際の個々の施設や建物の被害を想定したものではなく、過去の地震被害から設定された手法を基に計算した結果である。

そのため、地震が発生した場合の被害の全体像を把握するための目安となるものであり、実際に生じる具体的な被害の様相を全て網羅できているわけではないことに留意が必要である。

なお、想定した規模を超える地震が発生した場合、想定結果より大きな被害が発生することもある。